

**IBM**

**@server**

**iSeries**

**iSeries Access for Windows**

**オペレーション・コンソール**







@server

iSeries

**iSeries Access for Windows**  
オペレーション・コンソール

© Copyright International Business Machines Corporation 2002, 2003. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2002

# 目次

<b>第 1 部 オペレーション・コンソール</b>	<b>1</b>
<b>第 1 章 V5R2 の新機能</b>	<b>3</b>
<b>第 2 章 トピックの印刷</b>	<b>5</b>
<b>第 3 章 オペレーション・コンソールの計画</b>	<b>7</b>
構成の計画	7
バックアップ・コンソールの計画	8
シナリオ: 構成の選択	11
ネットワーク環境の準備	17
オペレーション・コンソール構成の保護	18
オペレーション・コンソールのマイグレーションの計画	24
直接接続するローカル・コンソールからネットワーク (LAN) 上のローカル・コンソールへのマイグレーション	24
平衡型コンソールからオペレーション・コンソールへのマイグレーション	28
オペレーション・コンソールから平衡型コンソールへのマイグレーション	32
オペレーション・コンソールのインストールまたはアップグレードの計画	36
制御パネルの計画	37
<b>第 4 章 オペレーション・コンソールのセットアップ</b>	<b>39</b>
セットアップ前提条件チェックリストの完了	39
サーバーに直接接続するローカル・コンソールのセットアップ	40
リモート・アクセスが許可されているサーバーに直接接続するローカル・コンソールのセットアップ	42
ネットワーク上のローカル・コンソールのセットアップ	44
ダイヤルアップ・サポートを使用するローカル・コンソールのセットアップ	45
ダイヤルアップ・サポートを使用するリモート・コントロールのセットアップ	47
必要な前提条件タスクの完了	49
前提条件検査プログラムの実行	51
オペレーション・コンソールのハードウェア要件の確認	51
オペレーション・コンソールのソフトウェア要件の確認	53
オペレーション・コンソールのケーブル要件の確認	54
使用可能な通信ポートの検査	56
iSeries Access for Windows のインストール	56

AS400 オペレーション・コンソール接続モデムをインストールする	58
PC モデムのインストール	61
PC 上での TCP/IP のインストールの確認	64
PC 上でのダイヤルアップ・ネットワークのインストール	64
リモート・アクセス・サービスのインストールまたは構成 (NT のみ)	64
Microsoft Service Pack のインストール	69
ダイヤルアップを使用するローカル・コンソールのためのサーバーのセットアップ	69
リモート・アクセスの確認	77
着信接続の作成および構成	78
オペレーション・コンソール・ケーブルのインストール	80
PC 上でのオペレーション・コンソールの構成	82

<b>第 5 章 オペレーション・コンソールの管理</b>	<b>85</b>
コンソール構成の管理	85
コンソール構成の変更	86
コンソール構成の削除	87
ローカル・コンソールをサーバーに接続	89
モデム経由で、リモート・コンソールをローカル・コンソールに接続	92
ユーザー間の制御タスク	93
キーボード定義の変更	101
手動 IPL を使用したシステムの始動	101
サーバーの通信回線の活動化	102
サーバーの通信回線の非活動化	103
サーバーのダイヤル呼び出し	103
複数コンソールの管理	104
ネットワーク上のローカル・コンソールの管理	106
保守ツール装置の ID パスワードの変更に 関する考慮事項	106
PC およびサーバー上で、保守ツール装置の ID パスワードを変更	107
アクセス・パスワードの変更	107
PC と保守ツール装置 ID のパスワードの再同期	108
サーバー上での保守ツール装置の ID の作成	112
保守ホスト名の構成	113
オペレーション・コンソールによる LAN カード 使用の非活動化または LAN カードの移動	114
オペレーション・コンソール (LAN) のネットワーク 値の変更	115

<b>第 6 章 オペレーション・コンソール接続に関するトラブルシューティング</b>	<b>117</b>
状況メッセージのトラブルシューティング	117

構成が正常に実行されている場合の状況メッセージ	118
接続に関する問題がある場合の状況メッセージ	119
接続に関する問題のトラブルシューティング	121
ローカル・コンソールの接続に関する問題	121
リモート・コンソールの接続に関する問題	129
認証に関する問題のトラブルシューティング	129
認証エラー	130
Windows 98/Me のリモート・コンソールを	
Windows 2000 に接続する場合の内部認証エラー	130
Windows NT Service Pack 6 での認証エラー	130
エミュレーターに関する問題のトラブルシューティング	131
ローカル・コンソール・エミュレーターが切断状態になる	131
PC5250 ウィンドウがユーザー・データを表示しない	131
システム参照コード (SRC) データに関するトラブルシューティング	131
システム参照コード A6005001、 A6005004、 A6005007、 B6005001、 B6005004、 および B6005007	132
システム参照コード A6005008 および B6005008	132
システム参照コード A9002000	134
システム参照コード A6005082	134
機能呼び出しの後に、D1008065 および D1008066 の自動表示が失敗する	135

IPL ステップ C6004031 が予想以上に時間がかかる	135
リモート・コントロール・パネルおよび仮想制御パネルに関する問題のトラブルシューティング	135
リモート・コントロール・パネルが開始に失敗する	135
モード機能を使用できない	136
構成ウィザードに関する問題のトラブルシューティング	136
ローカル・コンソールがケーブルを検出しない	136
古いネットワーク・データがネットワーク接続の再構成を妨げる	137
構成ウィザードにコンソール・オプションが提供されていない	137
「RAS デバイスの追加」選択項目で正しいモデルが見つからない	137
オペレーション・コンソールに関するその他の問題のトラブルシューティング	138
オペレーション・コンソールが QCTL に残る	139
ローカル・コンソールがメッセージ: リモート・アクセス・サービス・サーバーが開始しませんでした (Remote Access Service server did not start) を受信する	139
システム要求が作動しない	139

## 第 7 章 関連情報 . . . . . 141

---

## 第 1 部 オペレーション・コンソール

iSeries™ との対話は、コンソールを使用して行うことができます。iSeries へのアクセスおよび管理を行うには、iSeries オペレーション・コンソールをシステム・コンソールとして使用してください。

オペレーション・コンソールは、iSeries Access for Windows® のインストール可能なコンポーネントです。オペレーション・コンソールを使用することによって、1 台以上の PC からリモート側からでもローカル側からでも iSeries コンソール機能および制御パネル機能にアクセスし、これを管理することができます。

オペレーション・コンソールは、iSeries Access for Windows または IBM® パーソナル・コミュニケーションズのいずれかで提供される 5250 エミュレーションを使用して、コンソールをエミュレートします。iSeries 制御パネルをエミュレートするために、オペレーション・コンソールではグラフィカルなリモート・コントロール・パネルや仮想制御パネルが用意されています。オペレーション・コンソールは、直接ケーブル接続とダイヤルアップ接続に加え、ローカル・エリア・ネットワーク (LAN)、TCP/IP に基づく接続を使用して、iSeries サーバーと PC 間での通信を可能にします。また、リモート PC から iSeries サーバーに直接接続された PC へのダイヤルイン接続をサポートします。つまり、これらのリモート PC は iSeries コンソールとして機能することができます。ローカル・コンソールからダイヤルアップ・サポートを使用しても、ローカル・コンソールなしで実行している iSeries サーバーと通信できます。つまり、これらの PC は iSeries コンソールとして機能することができます。

このトピックには、オペレーション・コンソールを計画し、セットアップして、管理するための情報と説明を記載しています。

### V5R2 の新機能

オペレーション・コンソールの新機能および拡張機能です。

### トピックの印刷

オペレーション・コンソールのトピックに含まれるすべての情報が記載された PDF を印刷します。

### オペレーション・コンソールの計画

セキュリティー、マイグレーション、アップグレード、および制御パネルに関するシナリオと情報に基づいてオペレーション・コンソール構成の計画を立てます。

### オペレーション・コンソールのセットアップ

個人用のチェックリストを使用して、オペレーション・コンソール構成に必要なセットアップ・タスクを完了させます。

### オペレーション・コンソールの管理

オペレーション・コンソールを正常にインストールしてから、オペレーション・コンソールを保守および操作する方法について説明します。

## オペレーション・コンソール接続に関するトラブルシューティング

オペレーション・コンソール使用の際の、接続、認証、およびエミュレーターに関する問題を解決します。

### 関連情報

オペレーション・コンソールに関連する追加情報を参照します。

オペレーション・コンソールのサポートは、OS/400 オペレーティング・システムの V4R5 以降のリリースで使用可能となっています。IBM iSeries モデル 270、810、820、825、830、840、870、および 890 がサポートする PC コンソールの唯一のタイプは、オペレーション・コンソールです。

認証およびデータ暗号化が強化され、コンソール・プロシージャのネットワーク・セキュリティーが提供されています。オペレーション・コンソールのネットワーク接続では、Secure Sockets Layer (SSL) のデバイス認証とユーザー認証をサポートし、証明書を使用しないバージョンを使用します。

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、『安全と環境に関する特記事項』および『クラス A 製品』と『クラス B 製品』の『放出電流に関する特記事項』を参照してください。



## 第 1 章 V5R2 の新機能

オペレーション・コンソールの新機能は次のとおりです。

### 仮想制御パネル

仮想制御パネルのサポートは、並列ケーブルのリモート・コントロール・パネルの代替機能として推奨されています。

### 構成ウィザードの改善

インストール・ウィザードが設計し直され、使いやすさを改善するために新しいグラフィックスが追加されました。包括的なヘルプ・テキストが構成ウィザードに追加されました。

### PC 前提条件検査プログラム

選択した PC に、オペレーション・コンソールのサポートに必要な前提条件機能がすべて備わっていることを確認する際に役立つ、インストール済みプログラムが提供されます。

### Windows XP のサポート

オペレーション・コンソールでは Windows XP Professional オペレーティング・システムがサポートされるようになりました。

オペレーション・コンソールの拡張機能は次のとおりです。

### 資料

オペレーション・コンソールのトピックでは、計画、セットアップ、管理、およびトラブルシューティングの情報が 1 箇所提供されるようになりました。「*iSeries* オペレーション・コンソール セットアップの手引き」(SD88-5068) は、リリース V5R2 以降については提供されていません。

### 追加のハードウェアのサポート

オペレーション・コンソールでは、機構コード 2742 および 2793 向けにアダプター・サポートが追加されました。

### エラー・メッセージ

エラー・メッセージが構成ウィザードに追加されました。

### 用語

構成データを明確にするために、構成に関する用語に変更が加えられました。

表 1. 用語の変更

以前の用語	新規の用語
独立型ローカル制御システム (LCS)	サーバーに直接接続するローカル・コンソール
リモート・サポートのある LCS	リモート・アクセスが許可されている、サーバーに直接接続するローカル・コンソール
LAN LCS	ネットワーク上のローカル・コンソール

ダイヤルアップ LCS	ダイヤルアップ・サポート使用のローカル・コンソール
リモート制御システム (RCS)	ダイヤルアップ・サポート使用のリモート・コンソール

打ち切りとなったオペレーション・コンソールの機能は次のとおりです。

**Windows 95 のサポートの中止**

オペレーション・コンソールでは、Windows 95 がサポートされなくなりました。

**4xx および 5xx モデルのサポートの中止**

オペレーション・コンソールでは、モデル 4xx および 5xx がサポートされなくなりました。

---

## 第 2 章 トピックの印刷

PDF 版をダウンロードし、表示するには、『オペレーション・コンソール』(約 1594KB、150 ページ) を選択します。

表示用または印刷用の PDF ファイルを Netscape Navigator からワークステーションに保存するには、次のようにします。

1. ブラウザーで PDF を開く (上記のリンクをクリックする)。
2. ブラウザーのメニューから「ファイル」をクリックする。
3. 「名前を付けて保存」をクリックする。(IE の場合はフロッピー・ディスクのアイコン (名前を付けて保存) をクリックする。)
4. PDF を保存したいディレクトリーに進む。
5. 「保存」をクリックする。

この文書の PDF 版を参照用または印刷用にダウンロードし、表示することができます。PDF ファイルを表示したり印刷したりするには、Adobe(R) Acrobat(R) Reader が必要です。これは、Adobe Web サイト

([www.adobe.com/prodindex/acrobat/readstep.html](http://www.adobe.com/prodindex/acrobat/readstep.html))  から、ダウンロードできます。



---

## 第 3 章 オペレーション・コンソールの計画

オペレーション・コンソールをセットアップする前に、オペレーション・コンソールを最も適切に構成する方法を決定する必要があります。

### 構成の計画

この計画情報は、正しい構成を選択する際に役立ちます。このトピックには、シナリオと図が含まれています。

### オペレーション・コンソールのマイグレーションの計画

この計画情報は、オペレーション・コンソールの選択を別のものにマイグレーションする際に役立ちます。

### オペレーション・コンソールのアップグレードの計画

この計画情報は、オペレーション・コンソールの構成を以前のリリースからアップグレードする際に役立ちます。

### 制御パネルの計画

この計画情報は、リモート・コントロール・パネルまたは仮想制御パネルを選択する際に役立ちます。

計画要件を完全に満たした後で、オペレーション・コンソールの前提条件をリストした、セットアップ・チェックリストを作成することができます。詳しくは、『オペレーション・コンソールのセットアップ』を参照してください。

---

## 構成の計画

このセクションの情報では、さまざまなタイプのオペレーション・コンソール構成で可能な接続を示しています。コンソール構成を選択する際の参考になるように、シナリオごとに具体的な構成を提供しています。事前に計画を立てる場合、構成に追加機能を組み込むことができます。

### バックアップ・コンソールの計画

ハードウェアまたはネットワークに障害が発生した場合に備えて、バックアップ・コンソールを計画しておくことができます。

### シナリオ: 構成の選択

このシナリオは、ご使用の環境でどのような構成が可能かを決定するのに役立ちます。

### ネットワーク環境の準備

ご使用になっているネットワークの、最小ネットワーク構成用の計画を立てます。

### オペレーション・コンソール構成の保護

ご使用になっているオペレーション・コンソールのネットワーク・セキュリティのための計画を立てます。

## オペレーション・コンソールと iSeries ナビゲーター構成の準備

オペレーション・コンソールと iSeries ナビゲーターをどのように連動させるかの計画を立てます。

### 重要:

- オペレーション・コンソールには、1 つの iSeries サーバーに対して複数の接続を持たせることができますが、一度に iSeries サーバーの制御権を持つことができる 5250 セッションは 1 つだけです。また、ローカル・コンソール接続も複数許されますが、サーバー構成に直接接続するローカル・コンソール (または、リモート・アクセスが許可されている、サーバーに直接接続するローカル・コンソール) は 1 つのみです。PC 当たり最大 26 のエミュレーター・セッションが使用可能です。
- 新しいサーバーのセットアップをサービス担当者に依頼する場合は、コンソールとして使用する PC を準備して、iSeries サーバーに接続できるようにしておいてください。また、すべてのケーブルを準備し、すべてのソフトウェアをインストールしておくことも必要です。たとえば、Windows オペレーティング・システムや iSeries Access for Windows などを事前に PC にインストールしておいてください。
- Linux を稼働する OS/400<sup>®</sup> 区画用にオペレーション・コンソールを構成する場合は、『ゲスト区画用の LAN コンソールの構成』を参照してください。

## バックアップ・コンソールの計画

このトピックでは、予期せずコンソールに障害が発生した場合に迅速にリカバリーできるようにするために検討しておく必要のある、バックアップ・コンソールの情報を記載します。多くのシステムの計画では、ハードウェアの障害に対応できるように一定水準の冗長性を持たせています。しかし、そのような計画のなかには、コンソールについては考えていないものもあります。ここでは、コンソールのバックアップについて計画を立てる際の推奨事項について説明します。

以下のルールを考慮すれば、オペレーション・コンソール (直接接続とネットワーク (LAN) の両方) と平衡型ワークステーションのコンソール装置としての共存が可能です。

- 活動状態にできるコンソール装置は、一時点で 1 つだけです。活動状態のコンソールは、その時点でサーバーと対話している iSeries サーバー (5250 エミュレーション) へのコマンド・インターフェースです。
- 平衡型ワークステーション・コントローラーのポート 0 (アドレス 0 または 1) あるいはポート 1 (0 または 1) につないだ平衡型ワークステーションを、コンソール装置にすることができます。
- 適格なコンソール・タイプ間での対話を防ぐために、IPL 中は複数のワークステーションを有効にしないようにしてください。オペレーション・コンソールとして使用可能になっているある装置をコンソールにしないようにするには、アクティブな接続をすべて切り離して、コンソールにしたくない装置は IPL の間切り離れたままにしておく必要があります。平衡型ワークステーションの場合は、ワークステーションの電源を切ることをお勧めします。モデルによってはオン / オフのスイッチが、実際にはワークステーションのディスプレイ部分のみの電源を切るだけで、ワークステーションの電源は切れないものがあります。このような場

合は、その装置はコンソールになってしまいます。確かではない場合は、ワークステーションの後ろから電源コードを抜いてください。

- 独立区画および 1 次区画では、コンソール・ワークステーションをサポート可能な複数の IOP があると、必要な LAN アダプターの選択を妨げる場合があります。以下の点を考慮してください。
  - 最初の IOP に平衡型アダプター・カードが含まれている場合、意図するコンソール・アダプター・カードの前のバス上に第 2 の IOP が存在すると、LAN 接続コンソールを提供することができません。例えば、モデル 890 は適格なカード位置として、C04、および C06 ~ C10 を使用しますが、IOP が C08 に配置され、かつバス上で平衡型アダプターがこの IOP よりも前に存在した場合、C09 または C10 に位置する LAN アダプター・カードは LAN 接続コンソールを提供できません。LAN アダプター・カードは第 2 の IOP よりも前の位置 (例えば C06 や C07) でなければなりません。
  - 通常、オペレーション・コンソール直接接続構成に使用されるカード位置 (一般に ECS スロットと呼ばれる) は、バスの先頭近くに配置されます。C02 のように、カード位置の番号が低い場合、C03 は C02 よりもバスの先頭から遠くなります。C07 のように、カード位置の番号が高い場合、C06 は C07 よりもバスの先頭から遠くなります。これに当てはまらないモデルや拡張装置も存在します。該当するかどうかを確認できない場合は、サービス担当者に連絡してください。

#### バックアップ・コンソールの考慮事項:

- 独立サーバーまたは 1 次区画用のアダプターの位置は、固定であるか、少なくとも制限されています。ご使用のサーバーのハードウェア要件に基づき、コンソール・タイプの選択肢が限られる場合があります。可能であれば、追加として使用できるコンソール・タイプを少なくとも 1 つは確認しておいてください。
- 2 次区画の場合は、以下のことを考慮してください。
  - LPAR 環境における代替コンソールという語は、代替コンソールとしてタグ付けされている別の IOP に入っているコンソール・タイプを指します。主コンソールの障害が検出されると、システムが自動的に代替コンソールの IOP を試行します。これにより、別のレベルの保護が与えられます。1 つの IOP を主コンソールと代替コンソールの両方としてタグ付けすると、このように IOP タイプの障害から保護することはできません。代替コンソールの IOP を別のバスに配置することで、さらなる独立性を持たせることができます。これを行うことで、主コンソールのバスで障害が発生しても、コンソールは使用可能なままとなります。
  - コンソール・タイプのタグ付けに関する現在のインプリメンテーションは、IOP レベルのみです。同じ IOP 用に 2 つのネットワーク・アダプターを付けると、どちらのネットワーク・アダプターをコンソール用に使用するのかという判断を事前に行うのが難しくなる場合があります。IBM では、ネットワーク上のオペレーション・コンソール・ローカル・コンソールをサポートするためには、主コンソールとしてタグ付けされた IOP 用にネットワーク・アダプターを 1 つのみにすることを推奨しています。
  - IOP をサポートするコンソールを一時的にある区画に割り振ったり、その区画から割り振り解除したりすることが可能な、共用リソース環境について検討してください。コンソール装置を常時必要としている作業環境はほとんどありま

せん。共用リソースの概念をインプリメントすることで、専用ハードウェアを用意するための初期コストを削減することができます。

- ソース・ストレージ・デバイスのロードに失敗し、システム・リカバリーにおいてお客様のバックアップの代わりに IBM 提供のライセンス内部コード・メディアを使用し、かつシステムがオペレーション・コンソール (LAN) を使用している場合は、システム・リカバリーの最初の部分で別のコンソール・タイプを使用しなければならないことがあります。

#### 追加のバックアップ・コンソールの構成タイプの計画:

**注:** ネットワーク (LAN) 上のオペレーション・コンソール・ローカル・コンソールを別のコンソール・タイプのバックアップとして使用する計画を立てている場合、コンソール・タイプをオペレーション・コンソール (LAN) に設定しておかなければなりません。また、関連するネットワーク・アダプターも、この装置が必要になる前に構成しておく必要があります。コンソールをオペレーション・コンソール (LAN) に設定しても、オペレーション・コンソール (直接) または平衡型は IPL 時にコンソールになってしまいます。IPL 時に使用可能になるコンソールは、必ず 1 つだけにしてください。

#### バックアップ・コンソール構成のタイプ:

- サーバーがリモートからアクセスされる場合は、オフサイト・コンソール機能または別のコンソール接続を検討してください。ネットワーク上のローカル・コンソールは、ネットワーク PC 上の追加のローカル・コンソールでバックアップを取ることができます。ネットワーク・アダプターで障害が発生した場合に備えるのであれば、サーバーに直接接続するローカル・コンソールをバックアップとして検討してください。コンソール・タイプを、リモート・アクセスが許可されているサーバーに直接接続するローカル・コンソールに変更することによって、リモート PC をコンソールにする機能を追加することができます。
- LPAR または複数サーバー環境では、単一 PC 上のネットワーク構成にある複数のローカル・コンソールを、主コンソールとして使用することが多いはずですが。これと同じタイプの構成を使用する追加 PC を検討してください。可能であれば、同じ PC でサポートするコンソールの数を多くしすぎないでください。複数コンソールおよびリモート・コンソール・パネルをサポートしている場合は、PC のリソースはすぐに不足してしまいます。
- 大規模な環境ではネットワーク構成上に複数のローカル・コンソールを用意することを検討してください。各 PC に主要なコンソール機能の責任を持たせ、バックアップ構成を相互にオーバーラップしてカバーするようにしてください。例えば、ネットワーク構成上で 10 台のローカル・コンソールをサポートする PC があり、かつ、別の 10 区画用の同数の主コンソールを持つ別の PC がある場合、それぞれの PC にもう一方の PC の構成を持たせてバックアップする代わりに、3 台目の PC を追加して 20 台のコンソールの機能を分散し、2 台の PC が各 PC の主コンソール構成の一部をバックアップするようにします。別の方法として考えられるのは、特定数のコンソールのバックアップとして 1 台の PC を専用に割り当て、その PC は必要になるまで使用しない方法です。
- 主としてネットワーク・コンソールを使用する場合は、サーバーに直接接続するローカル・コンソールを PC 上でセットアップすることを考慮して、コンソール・ケーブルの付いたキャスター付きカート上にそのローカル・コンソールを置いてください。サポートするアダプターがある場合は、コンソールが必要になったらすぐに、PC を置いたキャスター付きカートをサーバーまたは区画のそばま



で移動することができます。ケーブルを接続し、回線を活動化すれば、現在障害が発生しているコンソールと取り替えるためのコンソールが準備できたこととなります。これと同じ概念を、平衡型ワークステーションに簡単にインプリメントすることができます。

**注:** ネットワーク上に複数のローカル・コンソールを持たせることを計画している場合は、オペレーション・コンソール PC の構成を開始する前に、必ずサーバー上に追加の保守ツール装置 ID を作成するようにしてください。同じターゲット・サーバーまたは論理区画に接続されている各 PC には、固有の保守ツール装置 ID を持たせる必要があります。

要約すると、コンソールのニーズに対して、できるだけ多くの冗長度を持たせるように検討してください。「障害が発生したらどうなるか」をよく考え、コンソールを提供するための別の手段を用意し、かつ、さまざまなレベルで発生し得る障害に打ち勝つために必要なハードウェア要件も備えた場合、破壊的なコンソール障害の状態にさらされる危険性を少なくすることができます。

コンソール装置を切り替える機能については、『複数コンソールの管理』を参照してください。

## シナリオ: 構成の選択

以下のシナリオは、オペレーション・コンソールの構成を選ぶ際に役立ちます。

**シナリオ: リモート・サポート機能のないサーバーに直接接続する単一のコンソール**

1 台のコンソールをサーバーに接続する状態について説明するシナリオです。

**シナリオ: リモート・サポート機能のあるサーバーに直接接続する単一のコンソール**

リモート・ロケーションからコンソールにダイヤルインする機能を説明したシナリオです。

**シナリオ: 複数サーバーまたは複数区画のためのコンソール**

複数のサーバーまたは区画を管理する状態について説明するシナリオです。

**シナリオ: リモート・ロケーションからサーバーへの直接ダイヤルアップ**

リモート・ロケーションのコンソールから、コンソールの無いサーバーにアクセスする必要がある状態について説明するシナリオです。

以下の表で、各シナリオの利点および欠点の概要を示します。

表 1. シナリオの構成

利点および欠点	シナリオ			
	リモート・サポート機能のないサーバーに直接接続する単一のコンソール	リモート・サポート機能のあるサーバーに直接接続する単一のコンソール	複数サーバーまたは複数区画のためのコンソール	リモート・ロケーションからサーバーへの直接ダイヤルアップ
ケーブル・ハードウェアが必要である。	はい	はい	いいえ	いいえ
別のロケーションからの接続をサポートしている。	いいえ	はい	いいえ	はい
コンソールにアクセスするにはサーバー・ルーム内にいなければならない。	はい	はい	いいえ	いいえ
複数サーバーまたは複数区画を簡単に管理できる。	いいえ	いいえ	はい	いいえ
iSeries コンソールへのアクセスと制御パネル機能の実行が可能である。	はい	はい	はい	いいえ
ネットワーク障害の場合にアクセスできる。	はい	はい	いいえ	はい

## シナリオ: リモート・サポート機能のないサーバーに直接接続する単一のコンソール

会社が iSeries サーバーを所有しており、PC を使用してそのサーバーを管理したいと考えているとします。コンソールに物理的にアクセスして iSeries を管理するには、iSeries サーバーに物理的または直接に接続されたコンソールが 1 台必要です。



このシナリオでは、サーバーに直接接続するローカル・コンソールを構成します。ご使用の構成に特有のチェックリストを作成するためのインタビューを行うには、『オペレーション・コンソールのセットアップ』を参照してください。

### 利点:

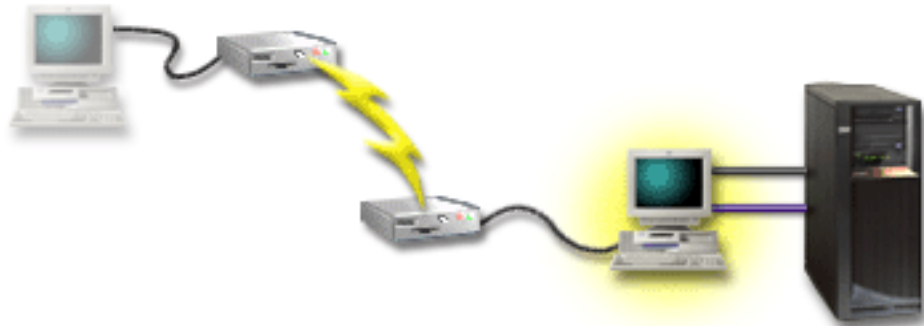
- ネットワーク障害が発生した場合でも、管理者はコンソールにアクセスできます。ネットワーク構成上にローカル・コンソールを持たせると、ネットワーク障害が発生した際にコンソールにアクセスできなくなってしまうです。
- 制御パネル・ケーブルがあるか、または仮想制御パネル・サポートをセットアップしてある場合は、この PC を、iSeries コンソールとして使用したり、制御パネル機能を実行するために使用したり、あるいはその両方に使用したりすることができます。詳しくは、『制御パネルの計画』を参照してください。
- コンソールは、ドアに鍵をかけてサーバー・ルームの中に置いておくので安全です。

### 欠点:

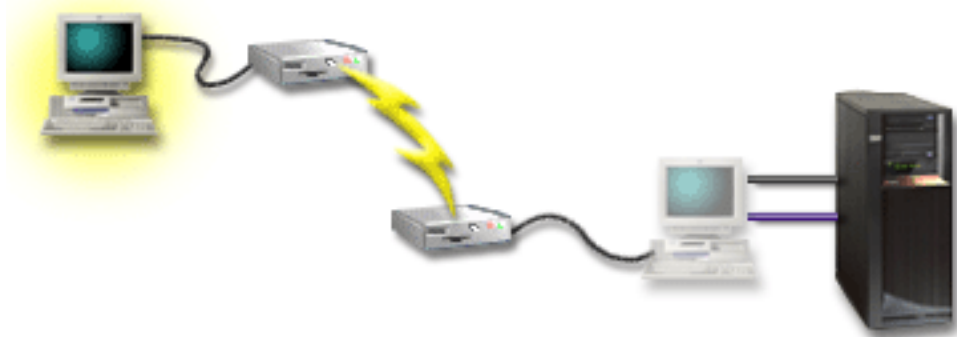
- この構成で、複数のサーバー、または複数の区画に分けられたサーバーを管理するのは難しい。
- 管理したり、コンソールにアクセスしたりするには、サーバーの近くにいることが必要です。
- コンソールおよびリモート・コントロール・パネルの機能をサポートするには、それぞれコンソール・ケーブルおよびリモート・コントロール・パネル・ケーブルが必要です。
- この構成では、リモート接続はサポートされません。リモート接続を希望している場合は、『シナリオ: リモート・サポート機能のあるサーバーに直接接続する単一のコンソール』を参照してください。
- この構成では、2 次区画用のリモート・コントロール・パネル機能はサポートしません。
- 1 台の PC 当たり許される直接接続構成は、1 つだけです。

## シナリオ: リモート・サポート機能のあるサーバーに直接接続する単一のコンソール

会社が iSeries サーバーを所有しており、PC を使用してそのサーバーを管理したいと考えているとします。リモート・ロケーションからコンソールを管理するには、この iSeries サーバーにコンソールを接続しておく必要があります。そうすることで、週末に自宅から IPL を実行したり、開始したジョブが完了したかどうかをチェックすることができます。



このシナリオでは、サーバーに接続された PC で、リモート・アクセスが許可されているサーバーに直接接続するローカル・コンソールを構成します。



次に、リモート PC で、ダイヤルアップを使用するリモート・コンソールを構成します。ご使用の構成に特有のチェックリストを作成するためのインタビューを行うには、『オペレーション・コンソールのセットアップ』を参照してください。

### 利点:

- 管理者が、コンソール・タスクを実行するために、サーバーの近くにいる必要はありません。
- ローカル・コンソール PC で制御パネル機能がセットアップされている場合は、その制御パネル機能をリモート・ロケーションから実行することができます。
- この PC を、iSeries コンソールとして使用したり、制御パネル機能を実行するために使用したり、あるいはその両方に使用したりすることができます。
- リモート・コンソールは、構成ウィザードでの選択に基づいてオペレーターの介入によって、またはオペレーターの介入なしで、iSeries サーバーにアクセス可能になります。

#### 欠点:

- 許される着信接続は、一時点で 1 つだけです。
- ローカル PC は Windows NT<sup>®</sup>、Windows 2000、または Windows XP を稼働していなければなりません。Windows 98/Me を稼働している PC は、リモート・コンソールのサポートには使用できません。
- コンソールおよびリモート・コントロール・パネルの機能をサポートするには、それぞれコンソール・ケーブルおよびリモート・コントロール・パネル・ケーブルが必要です。詳しくは、『オペレーション・コンソールのケーブル要件の確認』を参照してください。
- 1 台の PC 当たり許される直接接続構成は、1 つだけです。

#### シナリオ: 複数サーバーまたは複数区画のためのコンソール

会社が iSeries サーバーを所有しており、PC を使用してそのサーバーを管理したいと考えているとします。複数の iSeries サーバー、または複数の区画に分割されたサーバーを、1 台のコンソールから管理する必要があります。セキュアなネットワークがあり、そこにコンソールを構成することができます。



このシナリオでは、ネットワーク上のローカル・コンソールを構成します。ご使用の構成に特有のチェックリストを作成するためのインタビューを行うには、『オペレーション・コンソールのセットアップ』を参照してください。

#### 利点:

- いくつかの異なるサーバーまたは区画について、それらが保守接続ネットワークに接続されている限り、1 台の PC をそれらのコンソールとして構成することができます。
- 管理者が、コンソールを管理するために、物理的にサーバーの近くにいる必要はありません。
- コンソール接続を保護するためのセキュリティー機能が使用可能です。
- ネットワーク上のオペレーション・コンソール・ローカル・コンソールを注文した場合、iSeries はこのコンソール・タイプに合うように事前に構成されています。
- ネットワーク上のローカル・コンソールは、LPAR 環境での 2 次区画用に選択できる接続です。区画に分割されたサーバーのコンソールについて詳しくは、『論理区画の計画』を参照してください。

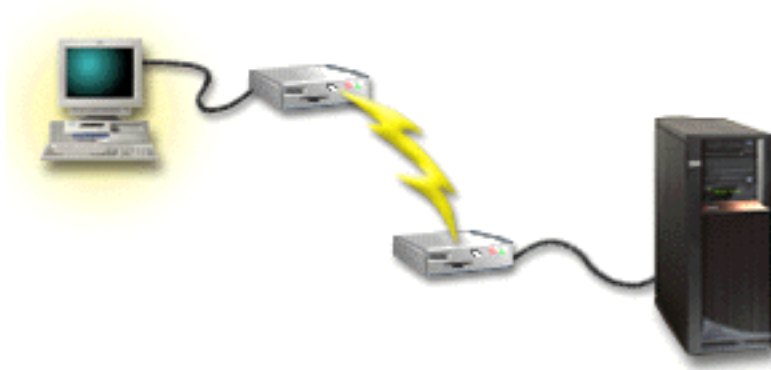
- 1 台のサーバーまたは 1 つの区画に対して、複数の PC をコンソールとして構成できます。ただし、一時点でアクティブにできるのは 1 つだけです。

**欠点:**

- バックアップ・コンソールを用意しておかないと、ネットワーク障害が発生した場合にコンソールが使用できなくなります。バックアップ用に、サーバーに直接接続するローカル・コンソールまたは平衡型コンソールを構成しておいてください。詳しくは、『バックアップ・コンソールの計画』を参照してください。
- コンソールで使用するための、別の LAN カードが必要になります。詳しくは、『オペレーション・コンソールのハードウェア要件の確認』を参照してください。

**シナリオ: リモート・ロケーションからサーバーへの直接ダイヤルアップ**

会社が iSeries サーバーを所有しており、リモート・ロケーションからのそのサーバーの管理を計画しているとします。サーバーにローカルで接続されているローカル・コンソールはありません。



このシナリオでは、**ダイヤルアップ・サポート**を使用するローカル・コンソールを構成します。ご使用の構成に特有のチェックリストを作成するためのインタビューを行うには、『オペレーション・コンソールのセットアップ』を参照してください。この方式には厳密な制約事項があるので、注意深く検討してください。

**利点:**

- サーバーはリモートから管理されるので、日々のアクティビティーの実行に際しては、サーバーを運用するためのスキルはそれほど必要になりません。

**欠点:**

- PC コンソール・アクセスを許可している iSeries にオペレーターがいる場合、リモート PC は iSeries サーバーに、ダイヤルインのみ可能です。
- サーバー上のモデムが作動可能になっている必要があります。
- リモート・コントロール・パネルおよび仮想制御パネルは、サポートされません。
- サーバー・プロパティーをセットアップするために、ローカルのコンソールが一時的に必要になります。

- 通信回線が切れてしまった場合、サーバー上で実行中の、リモート・コンソールから実行依頼されたジョブはすべて異常終了します。また、サーバーで接続を再確立するための人員が必要となります。
- サーバーにダイヤルインしたコンソールから、サーバーを制限されたモードにすると、通信回線が切れてしまった場合のリスクが大きくなります。これによって、リカバリーするために IPL が必要になる場合があります。

## ネットワーク環境の準備

この情報は、ネットワーク (LAN) 構成上のオペレーション・コンソール・ローカル・コンソールをセットアップするために必要な、最小ネットワーク構成を識別し、それに従う際に役立ちます。

**重要:** ご使用の iSeries モデルに従って、オペレーション・コンソール用の LAN カードをインストールする必要があります。これを行うには、『オペレーション・コンソールのハードウェア要件の確認』を参照してください。サーバーが新しく、ネットワーク構成上のローカル・コンソールを注文した場合は、カードが既にサーバーに構成されているはずです。LAN カードは、保守ツール用の専用 LAN アダプターにしてください。

### ネットワーク・セキュリティ

IBM は、LAN 接続を介したコンソールを使用する場合には、サーバーに直接接続したローカル・コンソールまたは平衡型コンソールと同じ物理的セキュリティの考慮事項および制御を念頭に置くよう推奨しています。たとえば、メインのネットワーク (企業のイントラネット) から分離したネットワーク上にローカル・コンソールを構成することを検討し、コンソールとして作動するマシンへのアクセスを厳重に制御してください。

### ブートストラップ・プロトコル

ネットワーク上のオペレーション・コンソール・ローカル・コンソールは、ブートストラップ・プロトコル (BOOTP) を使用して、iSeries 保守 IP 通信スタックを構成します。オペレーション・コンソール構成ウィザードで、IP スタック構成と iSeries のシリアル番号が要求されます。iSeries が、BOOTP 要求をブロードキャストします。オペレーション・コンソール PC が応答して、構成ウィザード中に実行依頼された情報を返します。その後、iSeries はその構成情報を保管し、保守 IP 通信スタックのために使用します。

#### 注:

1. オペレーション・コンソール PC は、iSeries からアクセス可能なネットワーク上に置かなければなりません。これは、同じ物理ネットワークまたはブロードキャスト・パケットを流すことを許可するネットワークです。これは一回限りのセットアップ要件で、通常のコソール操作では必要ありません。このセットアップは同じ物理ネットワークで行うことをお勧めします。
2. BOOTP 要求には、iSeries のシリアル番号が含まれています。iSeries のシリアル番号は、IP 構成情報を割り当てるために使用されます。保守 IP 通信スタックの構成で問題が発生した場合は、オペレーション・コンソール PC が同じ物理ネットワーク上にあるか、また、構成内の iSeries のシリアル番号が正しいかどうかをチェックしてください。

3. ネットワーク上のオペレーション・コンソール・ローカル・コンソールは、ポート 2323 および 3001 を使用します。別の物理ネットワークのオペレーション・コンソールを使用するには、ルーターおよびファイアウォールがこれらのポートでの IP トラフィックを許可していなければなりません。
4. BOOTP の成功は、iSeries と PC との接続に使用されるネットワーク・ハードウェアに左右されます。DST の接続を構成するために、代替コンソール装置が必要となる場合もあります。コンソールの接続に 2838 イーサネット・アダプターを使用している場合、BOOTP を使用するためには、ご使用のネットワーク・ハードウェアが速度と全二重の自動ネゴシエーションに対応していなければなりません。

## オペレーション・コンソール構成の保護

オペレーション・コンソールのセキュリティーは、保守装置認証、ユーザー認証、データ・プライバシー、およびデータ保全性から成ります。サーバーに直接接続するオペレーション・コンソール・ローカル・コンソールは、Point-to-Point 接続により暗黙的な装置認証、データ・プライバシー、およびデータ保全性を備えています。コンソール・ディスプレイにサインオンするには、ユーザー認証セキュリティーが必要です。

iSeries コンソールのセキュリティーは、保守装置認証、ユーザー認証、データ・プライバシー、およびデータ保全性から成ります。

### 保守装置認証

このセキュリティーでは、1 台の物理装置がコンソールであることを保証します。サーバーに直接接続するオペレーション・コンソール・ローカル・コンソールは、平衡型コンソールと似た物理接続です。直接接続のオペレーション・コンソールに使用するシリアル・ケーブルは、物理コンソール装置へのアクセスを制御するために、平衡型接続と同じように物理的に保護されています。ネットワーク上のオペレーション・コンソール・ローカル・コンソールは、証明書は使用せずに装置およびユーザーの認証をサポートするバージョンの Secured Sockets Layer (SSL) を使用します。

### ユーザー認証

このセキュリティーでは、誰がこの装置を使用するかということを保証します。ユーザー認証に関連する問題はすべて、コンソール・タイプに関係なく同じです。詳しくは、『保守ツール』を参照してください。

### データ・プライバシー

このセキュリティーでは、意図された受信者のみがコンソール・データを読み取ることができるということを保証します。サーバーに直接接続するオペレーション・コンソール・ローカル・コンソールは、平衡型コンソールと似た物理接続、または LAN 接続用のセキュア・ネットワーク接続を使用して、コンソール・データを保護します。直接接続のオペレーション・コンソールは、平衡型接続と同じデータ・プライバシーを備えています。物理接続が、保守装置認証の箇所で説明されているようにセキュアである場合、コンソール・データは保護されたままになります。データを保護するには、確実に、許可された人だけがコンピューター・ルームに入れるようにします。



適切な暗号製品 (AC3 および CE3) がインストールされている場合、ネットワーク上にあるオペレーション・コンソールのローカル・コンソールはセキュア・ネットワーク接続を使用します。コンソール・セッションは、iSeries にインストールされている暗号製品およびオペレーション・コンソールを実行している PC に基づいて、使用可能な最も強度の高い暗号を使います。暗号製品がインストールされていない場合は、データ暗号化は実行されません。

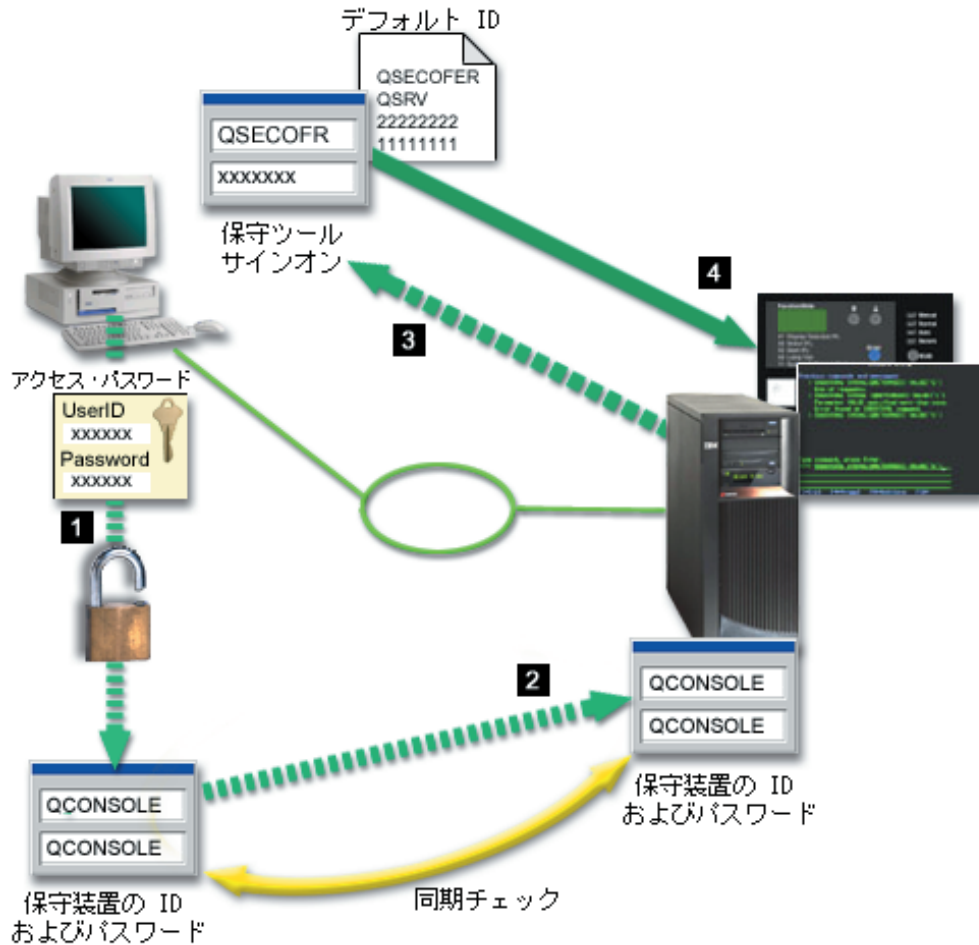
#### データ保全性

このセキュリティーでは、受信者に発送する際に、コンソール・データは変更されないことを保証します。サーバーに直接接続するオペレーション・コンソール・ローカル・コンソールは、平衡型コンソールと同じデータ保全性を備えています。物理接続がセキュアな場合、コンソール・データは保護されたままになります。適切な暗号製品 (AC3 および CE3) がインストールされている場合、ネットワーク上にあるオペレーション・コンソールのローカル・コンソールはセキュア・ネットワーク接続を使用します。コンソール・セッションは、iSeries にインストールされている暗号製品およびオペレーション・コンソールを実行している PC に基づいて、使用可能な最も強度の高い暗号を使います。暗号製品がインストールされていない場合は、データ暗号化は実行されません。

詳しくは、『オペレーション・コンソールの LAN セキュリティー管理』を参照してください。

#### オペレーション・コンソールの LAN セキュリティー管理

以下の図は、オペレーション・コンソールの LAN セキュリティーの概要を示しています。アクセス・パスワード (1) が正しい場合、オペレーション・コンソールは、保守ツール装置 ID (QCONSOLE) およびその暗号化されたパスワードをサーバーに送信します (2)。サーバーは 2 つの値をチェックし (3)、それらが一致した場合は、暗号化された新しいパスワードを装置に送信し、また、コンソールの保守ツール・サインオン画面も PC に送信します (4)。コンソール・セッションにサインオンするには、有効な保守ツール・ユーザー ID を持っていなければなりません。



### データ暗号化

認証およびデータ暗号化が強化され、コンソール・プロシージャのネットワーク・セキュリティーが提供されています。ネットワーク上のオペレーション・コンソール・ローカル・コンソールは、証明書は使用せずに装置およびユーザーの認証をサポートするバージョンの SSL を使用します。

### 装置認証

装置認証は、保守ツール装置 ID に基づいています。保守ツール装置 ID は、専用保守ツール (DST) で管理されます。これは、保守ツール装置 ID と保守ツール装置 ID パスワードから成ります。出荷時の iSeries では、保守ツール装置 ID はデフォルトの QCONSOLE に、またパスワードもデフォルトの QCONSOLE になっています。ネットワーク上のオペレーション・コンソール・ローカル・コンソールは、接続に成功するたびにパスワードを暗号化し、変更します。ネットワーク (LAN) 上に最初にローカル・コンソールをセットアップするときは、デフォルトのパスワードを使用しなければなりません。

ネットワーク上のオペレーション・コンソール・ローカル・コンソールを使用する際は、構成ウィザードによって、必要な情報が PC に追加されます。構成ウィザードは、保守ツール装置 ID、保守ツール装置 ID パスワード、およびアクセス・パスワードを要求してきます。

**注:** アクセス・パスワードは、PC 上の保守ツール装置 ID の情報 (保守ツール装置 ID およびパスワード) を保護します。

ネットワーク接続を確立するときに、オペレーション・コンソール構成ウィザードがプロンプトを出して、暗号化された保守ツール装置 ID およびパスワードにアクセスするためのアクセス・パスワードの入力を求めてきます。有効な保守ツールのユーザー ID およびパスワードを入力するよう求めるプロンプトも出ます。

### 管理

オペレーション・コンソール管理によって、システム管理者は、リモート・コントロール・パネルや仮想制御パネルなどのコンソール機能へのアクセスを制御することができます。ネットワーク上のオペレーション・コンソール・ローカル・コンソールを使用する場合、装置およびユーザーの認証は、保守ツール装置および保守ツール・ユーザー ID を通して制御されます。

**重要:** ネットワーク上のオペレーション・コンソール・ローカル・コンソールを管理する場合は、以下の事項を考慮してください。

- 保守ツール・ユーザー ID については、『保守ツール』を参照してください。
- リモート・コントロール・パネルでは、モード選択で、QSECOFR で提供されているような、ユーザー用のセキュリティー権限が必要です。モード選択には、手動 (Manual)、通常 (Normal)、自動 (Auto)、セキュア (Secure) があります。自動およびセキュアは、キースティックを持つサーバーでのみ使用可能です。
- iSeries サーバーとオペレーション・コンソール PC の間で保守ツール装置パスワードのミスマッチが発生した場合、PC とサーバーの両方のパスワードを再同期させる必要があります。これを行うには、『PC と保守ツール装置 ID のパスワードの再同期』を参照してください。たとえば、PC で障害が発生した場合、PC を別のものと交換した場合、または PC をアップグレードした場合に、ミスマッチが発生します。

### 保護のヒント

ネットワーク上のオペレーション・コンソール・ローカル・コンソールを使用する場合、IBM では以下の項目を推奨しています。

1. コンソール属性を持つ、別の保守ツール装置 ID を作成してください。
2. iSeries サーバーに Cryptographic Access Provider プログラム番号 5722-AC3 をインストールし、オペレーション・コンソール PC に Client Encryption プログラム番号 5722-CE3 をインストールしてください。
3. アクセス・パスワードは、長いものを選んでください。
4. 平衡型コンソールまたは直接接続のオペレーション・コンソールを保護するのと同じ方法で、オペレーション・コンソール PC を保護してください。
5. QSECOFR、22222222、および QSRV の DST ユーザー ID について、パスワードを変更してください。
6. コンソールとして使用する各 PC 用に、追加の保守ツール装置 ID を作成してください。
7. ユーザーおよび保守ツール装置 ID を使用可能にしたり、使用不可にしたりするために、十分な権限を持ったバックアップ保守ツール・ユーザー ID を追加してください。

## オペレーション・コンソールと iSeries ナビゲーター構成の準備

iSeries ナビゲーターとオペレーション・コンソールの両方を 1 台の PC 上で実行することができます。オペレーション・コンソールをご使用の iSeries サーバーに接続する方法に応じて、2 つのネットワーク構成オプションを選択できます。

iSeries ナビゲーターは、ご使用の Windows デスクトップから iSeries サーバーを管理するためのグラフィカル・ユーザー・インターフェースです。iSeries ナビゲーターを使用すると、iSeries サーバーの操作と管理をより容易かつ効率的に行うことができます。

オペレーション・コンソールにより、ローカルまたはリモートの PC を使用して、iSeries コンソール、制御パネル、またはその両方へアクセスして、これらを制御することが可能になります。オペレーション・コンソールは強化され、直接ケーブル配線された接続やダイヤルイン (モデム) 接続が可能となったほか、ローカル・エリア・ネットワーク (LAN) を介しての接続やコンソール・アクティビティーが可能となっています。1 台の PC から、複数の iSeries サーバーへ複数の接続を行うことができ、また 1 台の PC を複数の iSeries サーバーのコンソールとすることができます。例として、論理区画に分割されたサーバーで、同一の PC を全区画のコンソールとして使用する場合があげられます。各区画は独立した iSeries サーバーと見なされるため、コンソールの対象とする区画に対して、別個の接続が必要です。オペレーション・コンソールは、単一の iSeries サーバーへの複数の接続を可能にしますが、一度に 1 台の iSeries サーバーを制御できるのは、1 台の PC のみです。オペレーション・コンソールと iSeries ナビゲーターの両方を単一の PC 上で実行することができます。オペレーション・コンソールの接続性に基づいて、以下の 2 つの構成方法のうちのいずれかを用いることができます。

1. サーバーに直接接続するローカル・コンソールとしてオペレーション・コンソールを使用する PC には、iSeries ナビゲーター用のネットワーク接続が必要となります。iSeries ナビゲーター接続を行うためには、iSeries 側にネットワーク・アダプターと構成済みの OS/400 回線記述 (LIND) が必要となります。

オペレーション・コンソールは、iSeries マシン上の非同期カードに取り付けられたシリアル・ケーブルに接続されます。iSeries ナビゲーターは、iSeries マシン上の LAN カードを介して接続されます。PC は、LAN 接続を使用しての iSeries ナビゲーターとの通信中は、自身の通信ポートを介してオペレーション・コンソールと通信します。

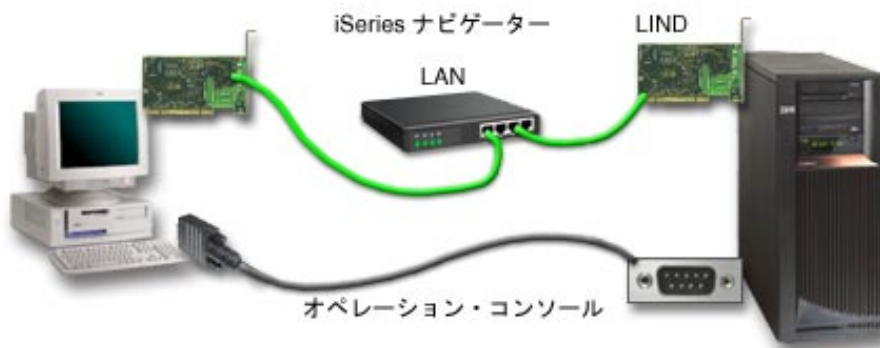


図 1. 別個の接続による iSeries ナビゲーターとオペレーション・コンソールの構成

- ネットワーク上のローカル・コンソールとして使用される PC では、追加のネットワーク接続が必要となる場合があります。iSeries ナビゲーターは、ネットワーク・アダプターと構成済み OS/400 回線記述 (LIND) へのネットワーク接続を必要とします。オペレーション・コンソールは、保守ホスト名によって定義された保守ネットワーク・アダプターを使用します。ネットワーク・アダプター、構成済み OS/400 LIND、保守ホスト名によって定義された保守ネットワーク・アダプターのそれぞれが同一のネットワーク上にある場合は、PC に追加の LAN アダプターは必要ありません。

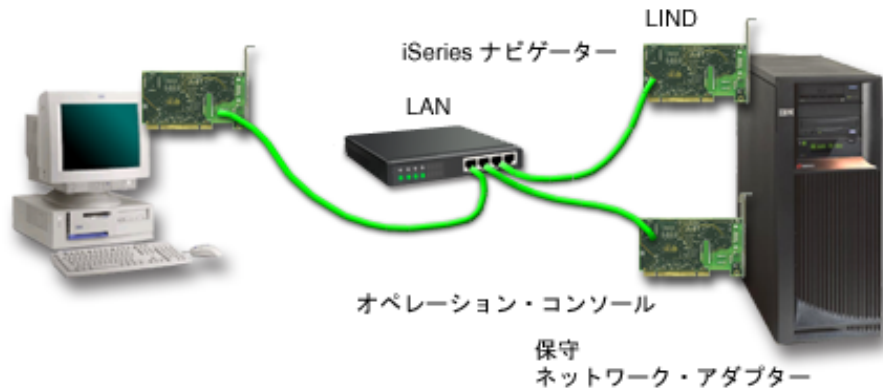


図 2. 同一ネットワーク上の iSeries ナビゲーターとオペレーション・コンソールの構成

ただし、ネットワーク・アダプター、OS/400 LIND、保守ホスト名によって定義された保守ネットワーク・アダプターが異なるネットワーク上にある場合は、PC に追加の LAN アダプターが必要です。

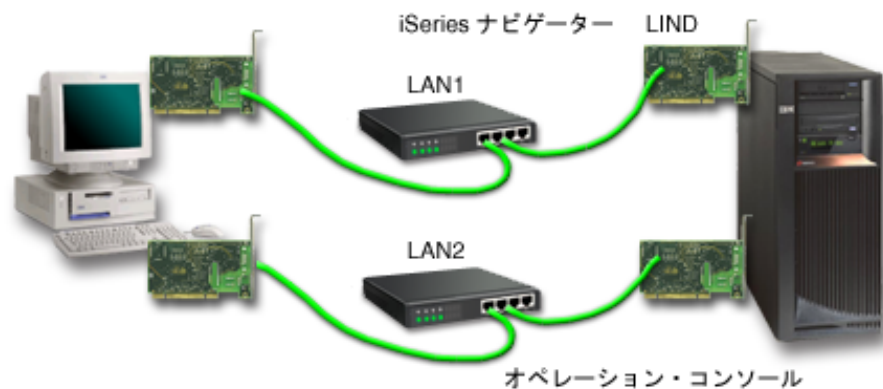


図 3. 異なるネットワーク上の iSeries ナビゲーターとオペレーション・コンソールの構成

---

## オペレーション・コンソールのマイグレーションの計画

既に平衡型接続またはオペレーション・コンソール接続がある場合は、以下の方法でコンソールをマイグレーションすることができます。

### サーバーに直接接続するローカル・コンソールからネットワーク上のローカル・コンソールへのマイグレーション

サーバーに直接接続するローカル・コンソールからネットワーク上のローカル・コンソールにマイグレーションするためには、この指示に従ってください。

### 平衡型コンソールからオペレーション・コンソールへのマイグレーション

平衡型コンソールからオペレーション・コンソールにマイグレーションするためには、この指示に従ってください。

### オペレーション・コンソールから平衡型コンソールへのマイグレーション

オペレーション・コンソールから平衡型コンソールにマイグレーションするためには、この指示に従ってください。

#### ヒント:

#### エレクトロニック支援

現在エレクトロニック支援を利用して、コンソールを直接接続する必要がある場合は、エレクトロニック支援のケーブル配線を別の通信ポートに移動してから、サーバーに直接接続するオペレーション・コンソール・ローカル・コンソールをインストールしなければなりません。詳しくは、『エレクトロニック支援』を参照してください。

**注:** ダイヤルアップ・サポートを使用するローカル・コンソールを構成する場合は、エレクトロニック支援のリソースは移動しないでください。

#### モデム機能

リモート機能用のモデムを追加する場合、あるいは既存のモデムを取り替える場合は、iSeries のオペレーション・コンソール構成ウィザードで構成を始める前に、物理的にモデムをインストールしてください。

マイグレーションのなかで、オペレーション・コンソールで使用できないように LAN カードを非活動化する必要がある場合があります。

## 直接接続するローカル・コンソールからネットワーク (LAN) 上のローカル・コンソールへのマイグレーション

作業を始める前に、PC およびサーバーが、オペレーション・コンソールのハードウェア要件をすべて満たしていることを確認してください。

直接接続するローカル・コンソールを持つオペレーション・コンソールを、ネットワーク (LAN) 上のローカル・コンソールにマイグレーションするには、PC とサーバーで以下のステップを実行する必要があります。

1. 区画に分割されていないサーバー、または 1 次区画に分割されたサーバーのコンソールのマイグレーション  
直接接続するローカル・コンソールから、区画に分割されていないサーバー、ま

または 1 次区画に分割されたサーバーのネットワーク (LAN) 上のローカル・コンソールに、コンソールをマイグレーションするには、これらの指示に従ってください。

## 2. 2 次区画のコンソールのマイグレーション

直接接続するローカル・コンソールから、ネットワーク (LAN) 上のローカル・コンソールへコンソールをマイグレーションする際、マイグレーションするコンソールが 2 次区画にある場合には、これらの指示に従ってください。

## 3. 新しいコンソール・タイプを使用するための PC の構成

直接接続するローカル・コンソールからネットワーク上のローカル・コンソールにマイグレーションする際に、新しいコンソール・タイプを使用できるように PC を構成するには、この指示に従ってください。

## 区画に分割されていないサーバー、または 1 次区画に分割されたサーバーのコンソールのマイグレーション

オペレーション・コンソールを、直接接続するローカル・コンソールからネットワーク (LAN) 上のローカル・コンソールにマイグレーションするためには、既存のコンソールを使用して、サーバーで以下のステップを実行してください。

1. 専用保守ツール (DST) にアクセスします。
2. 「**DST 環境の処理**」を選択します。
3. 「**システム装置 (System Devices)**」を選択します。
4. 「**コンソール・モード (Console mode)**」を選択します。
5. 「**オペレーション・コンソール (LAN) (Operations Console (LAN))**」を選択します。「**オペレーション・コンソール・アダプターの検査 (Verify Operations Console Adapters)**」ウィンドウが表示されます。これは、システムによって検出され、LAN 接続のために使われるリソースです。

LAN アダプターが見つからないというメッセージを受け取った場合は、オペレーション・コンソールのハードウェア要件が満たされていません。

6. **F11** を押して、アダプターを構成します。
7. 適切なネットワーク・データを入力します。
8. **F7** を押して、データを保管します。
9. **F14** を押して、オペレーション・コンソールで使用するためにアダプターを活性化します。
10. **F3** を押して、DST のメインメニューに戻ります。

これで、ネットワーク上のオペレーション・コンソール・ローカル・コンソールで使用できるように、システムが構成されました

直接接続するローカル・コンソールの構成を、代替コンソールとして使用する予定がない場合でも、この時点では、その構成またはその構成のアダプターの取り外しや移動は行わないでください。問題をデバッグする際に必要となる場合があります。次回の初期プログラム・ロード (IPL) 実行時にコンソール装置として選択されないようにするため、直接接続するローカル・コンソールの構成が「**接続中 (Connecting)**」の状況ではないことを確認してください。

iSeries システム値 **QAUTOCFG** をオンに設定する必要があります。iSeries サーバーでこのシステム値を検査または設定するには、以下のいずれかの手順を使用します。

- **WRKSYSVAL QAUTOCFG OS/400** コマンドを使用します。
- 手動 IPL 時に、「IPL オプション (IPL Options)」ウィンドウで、「**主要なシステム・オプションの設定 (Set major system options)**」に対して「**Y**」を選択します。次に、「**自動構成の使用可能化 (Enable automatic configuration)**」に対して「**Y**」を選択します。

『新しいコンソール・タイプを使用するための PC の構成』に進みます。

## 2 次区画での直接接続するローカル・コンソールからネットワーク上のローカル・コンソールへのコンソールのマイグレーション

直接接続するローカル・コンソールを持つオペレーション・コンソールを、ネットワーク (LAN) 上のローカル・コンソールにマイグレーションするためには、既存のコンソールを使用して、サーバーで以下のステップを実行してください。

**注:** オペレーション・コンソールのハードウェア要件を満たすためにアダプターの追加または移動が必要な場合は、以下のマイグレーション・ステップを開始する前に、アダプターの追加または移動を行ってください。この時点では、現行の入出力プロセッサ (IOP) からの平衡型アダプターの移動や取り外しは行わないでください。

1. 専用保守ツール (DST) にアクセスします。
2. 「**システム区画の処理**」を選択します。
3. 「**区画構成の処理 (Work with partition configuration)**」を選択します。
4. 2 次区画上で「**コンソール・リソースの選択 (Select Console Resource)**」(オプション 7) を選択します。
5. **F9** を押して、**機能フィルターを変更**します。
6. 「**いずれかのコンソール (Any Console)**」(オプション 4) を選択します。
7. 平衡型コンソールをサポートする IOP を選択するには、以下のいずれかを実行します。
  - ネットワーク上でローカル・コンソールに使用されるアダプターが、直接接続するローカル・コンソールのアダプターと同一の IOP の下にある場合、そのコンソール IOP はすでに正しくタグ付けされています。ステップ 9 に進んでください。
  - ネットワーク上のローカル・コンソールに使用されるアダプターが、現在構成されているコンソールとは異なる IOP の下にある場合は、その IOP の前に「**1**」を入力して、その IOP をコンソール IOP として選択します。
  - 以前のコンソール IOP の前に「**2**」を入力し、そのコンソール IOP を代替コンソールの IOP としてタグ付けします。
8. 直接接続するローカル・コンソール用のアダプターを含む IOP が代替コンソールとしてタグ付けされていることを確認します。



**重要:** 現行のコンソール IOP が代替コンソール IOP として選択されていない場合、構成を完了できない場合があります。また、新しいコンソール・タイプに使用される適切な IOP が正しくタグ付けされていない場合は、オペレーション・コンソールを使用して、発生しうる問題のデバッグを行わなければならない場合があります。

9. **F3** を押して、DST のメインメニューに戻ります。
10. 「**DST 環境の処理**」を選択します。
11. 「**システム装置 (System Devices)**」を選択します。
12. 「**コンソール・モード (Console mode)**」を選択します。
13. 「**オペレーション・コンソール (LAN) (Operations Console (LAN))**」を選択します。
  - a. 「オペレーション・コンソール・アダプターの検査 (Verify Operations Console Adapters)」ウィンドウが表示されます。これは、システムによって検出され、LAN 接続のために使用されるリソースです。「**有効な LAN アダプターが使用可能ではありません (No valid LAN adapter available)**」というメッセージが戻された場合は、オペレーション・コンソールのハードウェア要件が満たされていません。その場合は、**F3** を使用して、DST のメインメニューに戻り、このトピックを再度ステップ 1 から開始してください。
  - b. **F11** を押して、アダプターを構成します。
  - c. 適切なネットワーク・データを入力します。
  - d. **F7** を押して、データを保管します。
  - e. **F14** を押して、オペレーション・コンソールで使用するためにアダプターを活動化します。
14. DST のメインメニューに戻るまで、**F3** を押します。

これで、オペレーション・コンソールで使用できるように、サーバーが構成されました。直接接続するローカル・コンソールの構成を代替コンソールとして使用する予定がない場合でも、この時点では、その構成またはその構成のアダプターの取り外しや移動は行わないでください。問題をデバッグする際に必要となる場合があります。次回の初期プログラム・ロード (IPL) 実行時にコンソール装置として選択されないようにするため、直接接続するローカル・コンソールの構成が「**接続中 (Connecting)**」の状況ではないことを確認してください。

iSeries システム値 **QAUTOCFG** をオンに設定する必要があります。iSeries サーバーでこのシステム値を検査または設定するには、以下のいずれかの手順を使用します。

- **WRKSYSVAL QAUTOCFG OS/400** コマンドを使用します。
- 手動 IPL 時に、「IPL オプション (IPL Options)」ウィンドウで、「**主要なシステム・オプションの設定 (Set major system options)**」に「**Y**」を選択します。次に、「**自動構成の使用可能化 (Enable automatic configuration)**」に対して「**Y**」を選択します。

『新しいコンソール・タイプを使用するための PC の構成』に進みます。

## 直接接続するローカル・コンソールからネットワーク上のローカル・コンソールにマイグレーションする際の、新しいコンソール・タイプを使用するための PC の構成

オペレーション・コンソールを、直接接続するローカル・コンソールからネットワーク (LAN) 上のローカル・コンソールにマイグレーションするためには、新しいコンソール・タイプを使用できるように PC を構成する必要があります。

PC で以下のステップを実行します。

1. 現在のコンソール接続を切断します。切断するには、以下のようにします。
  - a. 構成名を (「iSeries 接続 (iSeries Connection)」の下から) 選択します。これは、オペレーション・コンソールが特定の iSeries サーバーを参照するために使用する名前です。
  - b. 「接続」メニューから「切断 (Disconnect)」をクリックします。接続状況に「切断中 (Disconnecting)」が表示されます。
  - c. 状況が「切断 (Disconnected)」になるまで待ちます。
2. 新しいコンソール・タイプを構成するには、『オペレーション・コンソールのセットアップ』を参照してください。

初期プログラム・ロード (IPL) を実行して、エラーがないことを確認するようお勧めします。

新しいコンソールが正しく作動していることを確認した後で、アダプターまたは構成の移動や取り外しを行うための、任意の計画を進めることができます。

ケーブル配線された接続をバックアップ・コンソールとして使用しない場合は、この時点でコンソール・ケーブル、リモート・コントロール・パネル・ケーブル、またはこの両方のケーブルを PC から取り外します。iSeries のケーブルを取り外したり、追加したりする場合は、iSeries の電源を切ってから行うことをお勧めします。

ケーブル配線された接続をバックアップ・コンソールとして使用しない場合、現行の構成を削除するには、以下の手順を実行します。

1. 構成名を (「iSeries 接続 (iSeries Connection)」の下から) 選択します。
2. 「接続」メニューから「削除」をクリックします。
3. 「はい」をクリックして削除を確認します。

アダプター・カードやケーブルを取り外す際には、iSeriesの電源を切ってから行うことをお勧めします。

## 平衡型コンソールからオペレーション・コンソールへのマイグレーション

iSeries オペレーション・コンソール・アップデート CD-ROM を使用して、V5R2M0 レベルの新しい iSeries Access for Windows を、オペレーション・コンソール機能のために使用する PC ワークステーションへインストールします。

作業を始める前に、PC および iSeries サーバーが、オペレーション・コンソールのハードウェア要件をすべて満たしていることを確認してください。

平衡型コンソールからオペレーション・コンソールにマイグレーションするには、PC とサーバーの両方で以下のステップを実行する必要があります。

1. **区画に分割されていないサーバー、または 1 次区画に分割されたサーバーのコンソールのマイグレーション**

平衡型コンソールから、区画に分割されていないサーバー、または 1 次区画に分割されたサーバーのオペレーション・コンソールにコンソールをマイグレーションするためには、この指示に従ってください。

2. **2 次区画のコンソールのマイグレーション**

マイグレーションするコンソールが 2 次区画にある場合に、平衡型コンソールからオペレーション・コンソールにコンソールをマイグレーションするには、この指示に従ってください。

3. **PC の構成**

平衡型コンソールからオペレーション・コンソールにマイグレーションする際に、新しいコンソール・タイプを使用できるように PC を構成するには、この指示に従ってください。

**区画に区分されていないサーバー、または 1 次区画に分割されたサーバーでの、平衡型コンソールからオペレーション・コンソールへのコンソールのマイグレーション**

平衡型コンソールからオペレーション・コンソールにマイグレーションするためには、既存のコンソールを使用して、サーバーで以下のステップを実行してください。

1. 専用保守ツール (DST) にアクセスします。
2. 「**DST 環境の処理**」を選択します。
3. 「**システム装置 (System Devices)**」を選択します。
4. 「**コンソール・モード (Console mode)**」を選択します。
5. 新しいコンソール・タイプを選択します。
  - ネットワーク (LAN) 上のオペレーション・コンソール・ローカル・コンソールを選択した場合は、以下のようにします。
    - a. 「**オペレーション・コンソール・アダプターの検査 (Verify Operations Console Adapters)**」ウィンドウが表示されます。これは、システムによって検出され、LAN 接続のために使われるリソースです。

LAN アダプターが見付からないことを示すメッセージを受け取った場合は、オペレーション・コンソールのためのハードウェア要件を満たす必要があります。
    - b. **F11** を押して、アダプターを構成します。
    - c. 適切なネットワーク・データを入力します。
    - d. **F7** を押して、データを保管します。
    - e. **F14** を押して、オペレーション・コンソールで使用するためにアダプターを活動化します。
  - サーバーに直接接続するオペレーション・コンソール・ローカル・コンソールを選択した場合、ステップ 6 に進みます。
6. DST のメインメニューに戻るまで、**F3** を押します。
7. 「**保守ツールの開始 (Start a service tool)**」を選択します。

8. 「オペレーター・パネル機能 (Operator Panel functions)」を選択します。
9. サーバーでのケーブルやアダプターの作業を完了した後、実行する初期プログラム・ロード (IPL) のタイプを選択します。次に、**F10** を選択して、iSeries の電源を切ります。

これで、オペレーション・コンソールで使用できるように、システムが構成されました。平衡型装置を代替コンソールとして使用する予定がない場合でも、この時点では、その装置またはその装置のアダプターの取り外しは行わないでください。問題をデバッグする際に必要となる場合があります。平衡型ワークステーションから電源を取り外すか、アドレスを **0** または **1** 以外のものに変更して、次回の IPL 実行時にコンソール装置として選択されないようにしてください。

iSeries システム値 **QAUTOCFG** をオンに設定する必要があります。iSeries サーバーでこのシステム値を検査または設定するには、以下のいずれかの手順を使用します。

- **WRKSYSVAL QAUTOCFG OS/400** コマンドを使用します。
- 手動 IPL 時に、「IPL オプション (IPL Options)」ウィンドウで、「**主要なシステム・オプションの設定 (Set major system options)**」に対して「**Y**」を選択します。次に、「**自動構成の使用可能化 (Enable automatic configuration)**」に対して「**Y**」を選択します。

『PC の構成』に進みます。

## 2 次区画での平衡型コンソールからオペレーション・コンソールへのコンソールのマイグレーション

平衡型コンソールからオペレーション・コンソールにマイグレーションするためには、電源の遮断や初期プログラム・ロード (IPL) を行う前に、既存のコンソールを使用して、サーバーで以下のステップを実行してください。

**注:** オペレーション・コンソールのハードウェア要件を満たすためにアダプターの追加または移動が必要な場合は、以下のマイグレーション・ステップを開始する前に、アダプターの追加または削除を行ってください。この時点では、現行の入出力プロセッサ (IOP) からの平衡型アダプターの移動や取り外しは行わないでください。

1. 専用保守ツール (DST) にアクセスします。
2. 「**システム区画の処理**」を選択します。
3. 「**区画構成の処理 (Work with partition configuration)**」を選択します。
4. 2 次区画上で「**コンソール・リソースの選択 (Select Console Resource)**」(オプション 7) を選択します。
5. **F9** を押して、**機能フィルターを変更**します。
6. 「**いずれかのコンソール (Any Console)**」(オプション 4) を選択します。
7. オペレーション・コンソールをサポートする IOP を選択するには、以下のいずれかを実行します。
  - オペレーション・コンソールに使用されるアダプターが、平衡型コンソールのアダプターと同一の IOP の下にある場合、そのコンソール IOP はすでに正しくタグ付けされています。ステップ 9 に進んでください。

- オペレーション・コンソールに使用されるアダプターが異なる IOP の下にある場合は、その IOP の前に「1」を入力して、その IOP をコンソール IOP として選択します。
  - 以前のコンソール IOP の前に「2」を入力し、そのコンソール IOP を代替コンソールの IOP としてタグ付けします。
8. 平衡型アダプターを含む IOP が代替コンソールとしてタグ付けされていることを確認します。

**注:** 平衡型コンソールの IOP が代替コンソール IOP として選択されていない場合、構成を完了できない場合があります。また、新しいコンソール・タイプに使用される適切な IOP が正しくタグ付けされていない場合は、平衡型コンソールを使用して発生しうる問題のデバッグを行わなければならない場合があります。

9. **F3** を押して、DST のメインメニューを終了します。
10. 「**DST 環境の処理**」を選択します。
11. 「**システム装置 (System Devices)**」を選択します。
12. 「**コンソール・モード (Console mode)**」を選択します。
13. 以下のコンソール選択項目のいずれかを使用して、新しいコンソール・タイプを選択します。
- サーバーに直接接続するオペレーション・コンソール・ローカル・コンソールを選択した場合は、ステップ 14 に進みます。
  - ネットワーク (LAN) 上のオペレーション・コンソール・ローカル・コンソールを選択した場合は、以下のようにします。
    - a. 「オペレーション・コンソール・アダプターの検査 (Verify Operations Console Adapters)」ウィンドウが表示されます。これは、システムによって検出され、LAN 接続のために使われるリソースです。「**有効な LAN アダプターが使用可能ではありません (No valid LAN adapter available)**」というメッセージが戻された場合は、オペレーション・コンソールのハードウェア要件が満たされていません。この場合は、**F3** を使用して、DST のメインメニューに戻り、このトピックを再度ステップ 1 から開始します。
    - b. **F11** を押して、アダプターを構成します。
    - c. 適切なネットワーク・データを入力します。
    - d. **F7** を押して、データを保管します。
    - e. **F14** を押して、オペレーション・コンソールで使用するためにアダプターを活動化します。
14. DST のメインメニューに戻るまで、**F3** を押します。
15. 「**保守ツールの開始 (Start a service tool)**」を選択します。
16. 「**オペレーター・パネル機能 (Operator Panel functions)**」を選択します。
17. サーバーでのケーブルやアダプターの作業を完了した後、実行する IPL のタイプを選択します。次に、**F10** を選択して、iSeries の電源を切ります。

これで、オペレーション・コンソールで使用できるように、サーバーが構成されました。平衡型装置を代替コンソールとして使用する予定がない場合でも、この時点では、その装置またはその装置のアダプターは取り外さないでください。問題をデ

バグする際に必要となる場合があります。平衡型ワークステーションから電源を取り外すか、アドレスを **0** または **1** 以外のものに変更して、次回の IPL 実行時にコンソール装置として選択されないようにしてください。

iSeries システム値 **QAUTOCFG** をオンに設定する必要があります。iSeries サーバーでこのシステム値を検査または設定するには、以下のいずれかの手順を使用します。

- **WRKSYSVAL QAUTOCFG OS/400** コマンドを使用します。
- 手動 IPL 時に、「IPL オプション (IPL Options)」ウィンドウで、「**主要なシステム・オプションの設定 (Set major system options)**」に「**Y**」を選択します。次に、「**自動構成の使用可能化 (Enable automatic configuration)**」に対して「**Y**」を選択します。

『PC の構成』に進みます。

### **平衡型コンソールからオペレーション・コンソールにマイグレーションする際の、新しいコンソール・タイプを使用するための PC の構成**

平衡型コンソールからオペレーション・コンソールにマイグレーションするためには、新しいコンソール・タイプを使用できるように PC を構成する必要があります。新しいコンソール・タイプを構成するには、『オペレーション・コンソールのセットアップ』を参照してください。

初期プログラム・ロード (IPL) を実行して、エラーがないことを確認してください。その後しばらくしてから、計画したハードウェアの取り外しや移動を行ってください。

アダプター・カードやケーブルを取り外す際には、iSeries の電源を切ってから行うことをお勧めします。

**注:** 新しいコンソールが OS/400 上で作動しない場合は、別のワークステーションを使用して、古いコンソール装置に関連付けられた制御装置記述および装置記述の手動での削除が必要となることがあります。

## **オペレーション・コンソールから平衡型コンソールへのマイグレーション**

作業を始める前に、PC および iSeries サーバーについて、オペレーション・コンソールのハードウェア要件をすべて満たしていることを確認してください。

オペレーション・コンソールから平衡型コンソールにマイグレーションするには、サーバーで、またオプションにより PC でも、以下のステップを実行する必要があります。

1. **区画に分割されていないサーバー、または 1 次区画に分割されたサーバーでのコンソールのマイグレーション**  
区画に分割されていないサーバー、または 1 次区画に分割されたサーバーでオペレーション・コンソールから平衡型コンソールにコンソールをマイグレーションするためには、この指示に従ってください。

## 2. 2 次区画のコンソールのマイグレーション

2 次区画でオペレーション・コンソールから平衡型コンソールにコンソールをマイグレーションするためには、この指示に従ってください。

## 3. PC でのオプション・ステップの実行

オペレーション・コンソールから平衡型コンソールへのマイグレーションを行う際に、新しいコンソール・タイプを使用するために PC を構成するには、この指示に従ってください。

## 区画に分割されていないサーバー、または 1 次区画に分割されたサーバーでのオペレーション・コンソールから平衡型コンソールへのコンソールのマイグレーション

オペレーション・コンソールから平衡型コンソールにマイグレーションするためには、既存のコンソールを使用して、サーバーで以下のステップを実行してください。

1. 専用保守ツール (DST) にアクセスします。
2. 「**DST 環境の処理**」を選択します。
3. 「**システム装置 (System Devices)**」を選択します。
4. 「**コンソール・モード (Console mode)**」を選択します。
5. 現在ネットワーク (LAN) 上のオペレーション・コンソール・ローカル・コンソールを使用している場合は、ネットワーク (LAN) 上のオペレーション・コンソール・ローカル・コンソールを選択して、以下のステップに従ってネットワーク・アダプターの割り振りを解除してください。
  - a. 「**オペレーション・コンソール (LAN) (Operations Console (LAN))**」を選択します。現在使用されている LAN アダプターが表示されます。
  - b. **F11** を押します。
  - c. **F6** を押して、構成データを消去します。
  - d. **F7** を押して、この新しい値を保管します。
  - e. **F12** を押して、このウィンドウを終了します。
  - f. 「**コンソール・モード (Console Mode)**」を選択します。
6. 「**平衡型 (Twinaxial)**」を選択します。
7. **F3** を押して、DST のメインメニューに戻ります。
8. 「**保守ツールの開始 (Start a service tool)**」を選択します。
9. 「**オペレーター・パネル機能 (Operator Panel functions)**」を選択します。
10. サーバーでのケーブルやアダプターの作業を完了した後、実行する初期プログラム・ロード (IPL) のタイプを選択します。次に、**F10** を選択して、iSeries の電源を切ります。

これで、平衡型コンソールで使用できるように、サーバーが構成されました。直接接続するローカル・コンソール構成を代替コンソールとして使用する予定がない場合でも、この時点では、その構成またはその構成のアダプターの取り外しや移動は行わないでください。問題をデバッグする際に必要となる場合があります。次の IPL 実行時にコンソール装置として選択されないようにするため、直接接続するローカル・コンソールの構成が「**接続中 (Connecting)**」の状況ではないことを確認してください。

iSeries システム値 **QAUTOCFG** をオンに設定する必要があります。iSeries サーバーでこのシステム値を検査または設定するには、以下のいずれかの手順を使用します。

- **WRKSYSVAL QAUTOCFG** OS/400 コマンドを使用します。
- 手動 IPL 時に、「IPL オプション (IPL Options)」ウィンドウで、「**主要なシステム・オプションの設定 (Set major system options)**」に対して「**Y**」を選択します。次に、「**自動構成の使用可能化 (Enable automatic configuration)**」に対して「**Y**」を選択します。

PC でのオプション・ステップの実行に進みます。

## 2 次区画でのオペレーション・コンソールから平衡型コンソールへのコンソールのマイグレーション

オペレーション・コンソールから平衡型コンソールにマイグレーションするためには、既存のコンソールを使用して、サーバーで以下のステップを実行してください。

**注:** 平衡型コンソールのハードウェア要件を満たすためにアダプターの追加または移動が必要な場合は、以下のマイグレーション・ステップを開始する前に、アダプターの追加または削除を行ってください。この時点では、現行の入出力プロセッサ (IOP) からの平衡型アダプターの移動や取り外しは行わないでください。

1. 専用保守ツール (DST) にアクセスします。
2. 「**システム区画の処理**」を選択します。
3. 「**区画構成の処理 (Work with partition configuration)**」を選択します。
4. 2 次区画上で「**コンソール・リソースの選択 (Select Console Resource)**」(オプション 7) を選択します。
5. **F9** を押して、**機能フィルター**を変更します。
6. 「**いずれかのコンソール (Any Console)**」(オプション 4) を選択します。
7. 平衡型コンソールをサポートする IOP を選択するには、以下のいずれかの手順を実行します。
  - 平衡型コンソールに使用されるアダプターが、オペレーション・コンソールのアダプターと同一の IOP の下にある場合、そのサーバーはすでに新しいコンソール用に構成されています。ステップ 9 に進んでください。
  - 平衡型コンソールに使用されるアダプターが異なる IOP の下にある場合は、その IOP の前に「**1**」を入力します。これによって、以前のコンソール IOP が代替コンソール IOP として自動的にタグ付けされます。
8. オペレーション・コンソールのアダプターを含む IOP が代替コンソールとしてタグ付けされていることを確認します。

**重要:** 現行のコンソール IOP が代替コンソール IOP として選択されていない場合、構成を完了できない場合があります。また、新しいコンソール・タイプに使用される適切な IOP が正しくタグ付けされていない場合は、オペレーション・コンソールを使用して発生しうる問題のデバッグを行わなければならない場合があります。
9. **F3** を押して、DST のメインメニューを終了します。



10. 「**DST 環境の処理**」を選択します。
11. 「**システム装置 (System Devices)**」を選択します。
12. 「**コンソール・モード (Console mode)**」を選択します。
13. 現在ネットワーク (LAN) 上のオペレーション・コンソール・ローカル・コンソールを使用している場合は、ネットワーク (LAN) 上のオペレーション・コンソール・ローカル・コンソールを選択して、以下のステップに従ってネットワーク・アダプターの割り振りを解除してください。
  - a. 「**オペレーション・コンソール (LAN) (Operations Console (LAN))**」を選択します。現在使用されている LAN アダプターが表示されます。
  - b. **F11** を押します。
  - c. **F6** を押して、構成データを消去します。
  - d. **F7** を押して、この新しい値を保管します。
  - e. **F12** を押して、このウィンドウを終了します。
  - f. 「**コンソール・モード (Console Mode)**」を選択します。
14. 「**平衡型 (Twinaxial)**」を選択します。
15. **F3** を押して、DST のメインメニューに戻ります。
16. 「**保守ツールの開始 (Start a service tool)**」を選択します。
17. 「**オペレーター・パネル機能 (Operator Panel functions)**」を選択します。
18. サーバーでのケーブルやアダプターの作業を完了した後、実行する初期プログラム・ロード (IPL) のタイプを選択します。次に、**F10** を選択して、iSeries の電源を切ります。

これで、平衡型コンソールで使用できるように、サーバーが構成されました。オペレーション・コンソールを代替コンソールとして使用する予定がない場合でも、この時点では、そのコンソールまたはそのコンソールのアダプターの取り外しや移動は行わないでください。問題をデバッグする際に必要となる場合があります。次回の IPL 実行時にコンソール装置として選択されないようにするため、オペレーション・コンソールの構成が「**接続中 (Connecting)**」の状況ではないことを確認してください。

iSeries システム値 **QAUTOCFG** をオンに設定する必要があります。iSeries サーバーでこのシステム値を検査または設定するには、以下のいずれかの手順を使用します。

- **WRKSYSVAL QAUTOCFG OS/400** コマンドを使用します。
- 手動 IPL 時に、「IPL オプション (IPL Options)」ウィンドウで、「**主要なシステム・オプションの設定 (Set major system options)**」に「**Y**」を選択します。次に、「**自動構成の使用可能化 (Enable automatic configuration)**」に対して「**Y**」を選択します。

PC でのオプション・ステップの実行に進みます。

## オペレーション・コンソールから平衡型コンソールにマイグレーションする際の、PC でのオプション・ステップの実行

**重要:** 以下のステップを実行する前に、平衡型コンソールに問題がないことを必ず確認してください。

PC をオペレーション・コンソール用に使用しない場合は、以下のステップに従います。

1. 現在のコンソール接続を切断します。切断するには、以下のようになります。
  - a. 構成名を (「iSeries 接続 (iSeries Connection)」の下から) 選択します。これは、オペレーション・コンソールが特定のサーバーを参照するために使用する名前です。
  - b. 「接続」メニューから「切断 (Disconnect)」をクリックします。接続状況に「切断中 (Disconnecting)」が表示されます。
  - c. 状況が「切断 (Disconnected)」になるまで待ちます。
2. 平衡型コンソールをケーブル配線でサーバーに接続し、平衡型コンソールとサーバーの電源を入れます。
3. 初期プログラム・ロード (IPL) を実行して、エラーがないことを確認します。その後で、計画したハードウェアの取り外しや移動を行います。

ケーブル配線された接続をバックアップ・コンソールとして使用しない場合は、新しいコンソールの構成を確認した後で、現行の構成を削除します。構成を削除するには、以下のようになります。

1. 構成名を (「iSeries 接続 (iSeries Connection)」の下から) 選択します。
2. 「接続」メニューから「削除」をクリックします。
3. 「はい」をクリックして削除を確認します。
4. オプションで、iSeries Access for Windows をアンインストールします。

この時点で、PC の電源を切って、不要となったハードウェアおよびケーブルを取り外してください。iSeries からケーブルまたはアダプターを取り外す場合は、iSeries の電源を切ってから行うことをお勧めします。

**注:** 新しいコンソールが OS/400 上で作動しない場合は、別のワークステーションを使用して、古いコンソール装置に関連付けられた制御装置記述および装置記述の手動での削除が必要となることがあります。

---

## オペレーション・コンソールのインストールまたはアップグレードの計画

V5R2 へアップグレードする場合に、既存のコンソールをオペレーション・コンソールに置き換えるには、システムをアップグレードしてからコンソールをマイグレーションしてください。これにより、既存のコンソールとオペレーション・コンソール間の競合を防ぐことができます。OS/400 のアップグレードに関する説明については、『アップグレード』のトピック、および『OS/400 リリースおよび関連ソフトウェアのインストール』のトピックを参照してください。

### **V5R2 へのアップグレード、または V5R2 のインストールを行うオペレーション・コンソール・ユーザーへの前提条件:**

ソフトウェア (OS/400、ライセンス内部コードなど) の V5R2 へのアップグレードやインストールを行う前に、以下の事項に従う必要があります。

1. ご使用の iSeries の処理装置に 2771 カードが搭載されており、またオペレーション・コンソールを主コンソールまたはバックアップ・コンソールのいずれかとして使用することを計画している場合には、ケーブル接続のためにモデルで指定されている位置にカードをインストールしてから、アップグレードやインストー

ルを行う必要があります。各モデルごとに、適した場所が異なります。『オペレーション・コンソール・ケーブルのインストール』を参照してください。

2. アップグレードやインストールを行う際は常に、11111111 (1 が 8 個) という保守ツール・ユーザー ID を使用して、iSeries サーバーとオペレーション・コンソール PC との間の接続を確立する必要があります。これによって、サーバーへのクライアント接続の正常な再認証が、出荷時の期限切れユーザー ID により妨げられることを防ぎます。OS/400 リリースのアップグレードをユーザーが受け取る際には、出荷時のユーザー ID (11111111 を除く) は期限切れとなっています。サーバーへのクライアント接続の正常な再認証を確立するには、11111111 (1 が 8 個) という保守ツール・ユーザー ID を入力してください。これは、自動インストールを行う際には特に重要です。
3. iSeries Access for Windows を V5R2 に更新してから、OS/400 オペレーティング・システムをアップグレードすることをお勧めします。詳しくは、『iSeries Access for Windows のインストール』を参照してください。

**注:** 上記のアクションに従っていない場合、アップグレード中またはインストール中にコンソールが正しく作動しない可能性があります。

### サーバー・モデルのアップグレードを行う前のオペレーション・コンソールへのマイグレーション

新しい iSeries サーバーでオペレーション・コンソールを使用する予定の場合 (異なるコンソール・タイプからのマイグレーション)、サーバー・モデルのアップグレードを始める前に新しいオペレーション・コンソールの PC を構成することが重要です。新しい iSeries サーバーでコンソール機能が必要になるアップグレードの指示を実行する際に、現在のコンソール装置を使用せずに、必要な機能を実行することができます。使用する予定の接続と合うオペレーション・コンソール機能を、新しい iSeries サーバーの注文の一部として指定してください。

---

## 制御パネルの計画

オペレーション・コンソール接続を使用して、サーバーの前にいなくても、iSeries 制御パネルにアクセスすることができます。この制御パネルへの接続を確立するには、リモート・コントロール・パネルまたは仮想制御パネルを構成する必要があります。これらは両方とも、iSeries 制御パネルへのグラフィカル・インターフェースです。リモート・コントロール・パネルによって、ローカル・ロケーションまたはリモート・ロケーションから、制御パネルのほとんどの機能を実行することができます。また、仮想制御パネルによって、ローカル・ロケーションから、制御パネルのほとんどの機能を実行することができます。制御パネルのオプション、比較、およびセットアップ手順を検討するには、『制御パネル』のトピックを参照してください。

**注:** パラレル・ポートによるリモート・コントロール・パネルは、現在は販売されていません。仮想制御パネルは、並列接続のリモート・コントロール・パネル (パーツ・ナンバー 04N5592、25 ピン・ケーブル) の後継ではなく、むしろ代替です。



---

## 第 4 章 オペレーション・コンソールのセットアップ

オペレーション・コンソールのセットアップ作業を始める前に、『オペレーション・コンソールの計画』の計画要件を完全に満たしてください。計画要件を完了した後は、どの構成を作成するのか分かります。どの構成を作成するのか、およびどの PC オペレーティング・システムを使用するのかが分かれば、セットアップ・チェックリストを作成することができます。

セットアップ・チェックリストを作成するために:

### セットアップ・インタビューの完了

このインタビューは 2 つの質問をし、次に、オペレーション・コンソールのセットアップを実行するために使用する、カスタマイズされたチェックリストを作成します。

---

## セットアップ前提条件チェックリストの完了

ご使用の PC にインストールする構成に合わせて、オペレーション・コンソール前提条件チェックリスト内の項目を完全に実施する必要があります。必要な構成がどれであるか分からない場合は、『オペレーション・コンソールの計画』を参照してください。

**注:** 対話式インタビューを使うのではなく、印刷された PDF で作業を行う場合は、チェックリスト全体およびすべてのセットアップ・タスクがその PDF に組み込まれています。

PC にインストールする構成を選択してください。

### サーバーに直接接続するローカル・コンソールのセットアップ

サーバーに直接接続するローカル・コンソールを構成するために使用する、オペレーティング・システムを選択します。

### リモート・アクセスが許可されているサーバーに直接接続するローカル・コンソールのセットアップ

リモート・アクセスが許可されているサーバーに直接接続するローカル・コンソールを構成するために使用する、オペレーティング・システムを選択します。

### ネットワーク上のローカル・コンソールのセットアップ

ネットワーク上のローカル・コンソールを構成するために使用する、オペレーティング・システムを選択します。

### ダイヤルアップ・サポートを使用するローカル・コンソールのセットアップ

ダイヤルアップ・サポートを使用するローカル・コンソールを構成するために使用する、オペレーティング・システムを選択します。

ダイヤルアップ・サポートを使用するリモート・コンソールのセットアップ  
ダイヤルアップ・サポートを使用するリモート・コンソールを構成するために  
使用する、オペレーティング・システムを選択します。

## サーバーに直接接続するローカル・コンソールのセットアップ

使用するオペレーティング・システムによって、固有のセットアップ前提条件があります。オペレーション・コンソールをインストールするオペレーティング・システムを、以下から選択してください。

### Windows 98/Me 用の前提条件チェックリストの完了

Windows 98/Me を稼働している、サーバーに直接接続するローカル・コンソール用の前提条件チェックリスト内の項目を完全に実施します。

### Windows NT 用の前提条件チェックリストの完了

Windows NT を稼働している、サーバーに直接接続するローカル・コンソール用の前提条件チェックリスト内の項目を完全に実施します。

### Windows 2000 用の前提条件チェックリストの完了

Windows 2000 を稼働している、サーバーに直接接続するローカル・コンソール用の前提条件チェックリスト内の項目を完全に実施します。

### Windows XP 用の前提条件チェックリストの完了

Windows XP を稼働している、サーバーに直接接続するローカル・コンソール用の前提条件チェックリスト内の項目を完全に実施します。

## Windows 98/Me 用の前提条件チェックリストの完了: サーバーに直接接続するローカル・コンソール

Windows 98/Me 上で、サーバーに直接接続するローカル・コンソールをセットアップするには、以下のチェックリスト内の項目を完全に実施してください。

- 1. PC 上で前提条件検査プログラムを実行する。
- 2. オペレーション・コンソールのハードウェア要件を満たす。
- 3. オペレーション・コンソールのソフトウェア要件を満たす。
- 4. オペレーション・コンソールのケーブル要件を満たす。
- 5. 使用可能な通信ポートを検査する。
- 6. iSeries Access for Windows をインストールする。
- 7. iSeries Access for Windows Service Pack を適用する。
- 8. AS400 オペレーション・コンソール接続モデムをインストールする。
- 9. PC 上で TCP/IP のインストールを確認する。
- 10. ダイヤルアップ・ネットワークをインストールする。
- 11. オペレーション・コンソール・ケーブルをインストールする。
- 12. PC 上でオペレーション・コンソールを構成する。

## Windows NT 用の前提条件チェックリストの完了: サーバーに直接接続するローカル・コンソール

Windows NT 上で、サーバーに直接接続するローカル・コンソールをセットアップするには、以下のチェックリスト内の項目を完全に実施してください。

- \_\_\_ 1. PC 上で前提条件検査プログラムを実行する。
- \_\_\_ 2. オペレーション・コンソールのハードウェア要件を満たす。
- \_\_\_ 3. オペレーション・コンソールのソフトウェア要件を満たす。
- \_\_\_ 4. オペレーション・コンソールのケーブル要件を満たす。
- \_\_\_ 5. 使用可能な通信ポートを検査する。
- \_\_\_ 6. **iSeries Access for Windows** をインストールする。
- \_\_\_ 7. **iSeries Access for Windows Service Pack** を適用する。
- \_\_\_ 8. PC 上で **TCP/IP** のインストールを確認する。
- \_\_\_ 9. **AS400** オペレーション・コンソール接続モデムをインストールする。
- \_\_\_ 10. リモート・アクセス・サービスをインストールまたは構成する。
- \_\_\_ 11. **Microsoft® Service Pack** をインストールする。
- \_\_\_ 12. オペレーション・コンソール・ケーブルをインストールする。
- \_\_\_ 13. PC 上でオペレーション・コンソールを構成する。

### **Windows 2000 用の前提条件チェックリストの完了: サーバーに直接接続するローカル・コンソール**

Windows 2000 上で、サーバーに直接接続するローカル・コンソールをセットアップするには、以下のチェックリスト内の項目を完全に実施してください。

- \_\_\_ 1. PC 上で前提条件検査プログラムを実行する。
- \_\_\_ 2. オペレーション・コンソールのハードウェア要件を満たす。
- \_\_\_ 3. オペレーション・コンソールのソフトウェア要件を満たす。
- \_\_\_ 4. オペレーション・コンソールのケーブル要件を満たす。
- \_\_\_ 5. 使用可能な通信ポートを検査する。
- \_\_\_ 6. **iSeries Access for Windows** をインストールする。
- \_\_\_ 7. **iSeries Access for Windows Service Pack** を適用する。
- \_\_\_ 8. **AS400** オペレーション・コンソール接続モデムをインストールする。
- \_\_\_ 9. オペレーション・コンソール・ケーブルをインストールする。
- \_\_\_ 10. PC 上でオペレーション・コンソールを構成する。

### **Windows XP 用の前提条件チェックリストの完了: サーバーに直接接続するローカル・コンソール**

Windows XP 上で、サーバーに直接接続するローカル・コンソールをセットアップするには、以下のチェックリスト内の項目を完全に実施してください。

- \_\_\_ 1. PC 上で前提条件検査プログラムを実行する。
- \_\_\_ 2. オペレーション・コンソールのハードウェア要件を満たす。
- \_\_\_ 3. オペレーション・コンソールのソフトウェア要件を満たす。
- \_\_\_ 4. オペレーション・コンソールのケーブル要件を満たす。
- \_\_\_ 5. 使用可能な通信ポートを検査する。
- \_\_\_ 6. **iSeries Access for Windows** をインストールする。
- \_\_\_ 7. **iSeries Access for Windows Service Pack** を適用する。
- \_\_\_ 8. **AS400** オペレーション・コンソール接続モデムをインストールする。

- \_\_\_ 9. オペレーション・コンソール・ケーブルをインストールする。
- \_\_\_ 10. PC 上でオペレーション・コンソールを構成する。

## リモート・アクセスが許可されているサーバーに直接接続するローカル・コンソールのセットアップ

使用するオペレーティング・システムによって、固有のセットアップ前提条件があります。オペレーション・コンソールをインストールするオペレーティング・システムを、以下から選択してください。

### Windows NT 用の前提条件チェックリストの完了

Windows NT を稼働し、リモート・アクセスを許可しているサーバーに直接接続するローカル・コンソール用の前提条件チェックリスト内の項目を完全に実施します。

### Windows 2000 用の前提条件チェックリストの完了

Windows 2000 を稼働し、リモート・アクセスを許可しているサーバーに直接接続するローカル・コンソール用の前提条件チェックリスト内の項目を完全に実施します。

### Windows XP 用の前提条件チェックリストの完了

Windows XP を稼働し、リモート・アクセスを許可しているサーバーに直接接続するローカル・コンソール用の前提条件チェックリスト内の項目を完全に実施します。

注: ローカル・コンソールは、Windows NT、Windows 2000、または Windows XP を稼働していなければなりません。Windows 98 および Windows Me を稼働している PC は、リモート・コンソールのサポートには使用できません。

**Windows NT 用の前提条件チェックリストの完了: リモート・アクセスが許可されているサーバーに直接接続するローカル・コンソール**  
リモート・アクセスが許可されている Windows NT のサーバーに直接接続するローカル・コンソールをセットアップするには、以下のチェックリスト内の項目を完全に実施してください。

- \_\_\_ 1. PC 上で前提条件検査プログラムを実行する。
- \_\_\_ 2. オペレーション・コンソールのハードウェア要件を満たす。
- \_\_\_ 3. オペレーション・コンソールのソフトウェア要件を満たす。
- \_\_\_ 4. オペレーション・コンソールのケーブル要件を満たす。
- \_\_\_ 5. 使用可能な通信ポートを検査する。
- \_\_\_ 6. **iSeries Access for Windows** をインストールする。
- \_\_\_ 7. **iSeries Access for Windows Service Pack** を適用する。
- \_\_\_ 8. PC 上で **TCP/IP** のインストールを確認する。
- \_\_\_ 9. **AS400 オペレーション・コンソール接続モデム**をインストールする。
- \_\_\_ 10. **PC モデム**をインストールする。
- \_\_\_ 11. **リモート・アクセス・サービス**をインストールまたは構成する。
- \_\_\_ 12. **Microsoft Service Pack** をインストールする。
- \_\_\_ 13. **リモート・アクセス**を認可する。



- \_\_ 14. オペレーション・コンソール・ケーブルをインストールする。
- \_\_ 15. PC 上でオペレーション・コンソールを構成する。

### **Windows 2000 用の前提条件チェックリストの完了: リモート・アクセスが許可されているサーバーに直接接続するローカル・コンソール**

リモート・アクセスが許可されている Windows 2000 のサーバーに直接接続するローカル・コンソールをセットアップするには、以下のチェックリスト内の項目を完全に実施してください。

- \_\_ 1. **PC** 上で前提条件検査プログラムを実行する。
- \_\_ 2. オペレーション・コンソールのハードウェア要件を満たす。
- \_\_ 3. オペレーション・コンソールのソフトウェア要件を満たす。
- \_\_ 4. オペレーション・コンソールのケーブル要件を満たす。
- \_\_ 5. 使用可能な通信ポートを検査する。
- \_\_ 6. **iSeries Access for Windows** をインストールする。
- \_\_ 7. **iSeries Access for Windows Service Pack** を適用する。
- \_\_ 8. **AS400** オペレーション・コンソール接続モデムをインストールする。
- \_\_ 9. **PC** モデムをインストールする。
- \_\_ 10. 着信接続を作成および構成する。
- \_\_ 11. リモート・アクセスを認可する。
- \_\_ 12. オペレーション・コンソール・ケーブルをインストールする。
- \_\_ 13. **PC** 上でオペレーション・コンソールを構成する。

### **Windows XP 用の前提条件チェックリストの完了: リモート・アクセスが許可されているサーバーに直接接続するローカル・コンソール**

リモート・アクセスが許可されている Windows XP のサーバーに直接接続するローカル・コンソールをセットアップするには、以下のチェックリスト内の項目を完全に実施してください。

- \_\_ 1. **PC** 上で前提条件検査プログラムを実行する。
- \_\_ 2. オペレーション・コンソールのハードウェア要件を満たす。
- \_\_ 3. オペレーション・コンソールのソフトウェア要件を満たす。
- \_\_ 4. オペレーション・コンソールのケーブル要件を満たす。
- \_\_ 5. 使用可能な通信ポートを検査する。
- \_\_ 6. **iSeries Access for Windows** をインストールする。
- \_\_ 7. **iSeries Access for Windows Service Pack** を適用する。
- \_\_ 8. **AS400** オペレーション・コンソール接続モデムをインストールする。
- \_\_ 9. **PC** モデムをインストールする。
- \_\_ 10. 着信接続を作成および構成する。
- \_\_ 11. リモート・アクセスを認可する。
- \_\_ 12. オペレーション・コンソール・ケーブルをインストールする。
- \_\_ 13. **PC** 上でオペレーション・コンソールを構成する。

## ネットワーク上のローカル・コンソールのセットアップ

使用するオペレーティング・システムによって、固有のセットアップ前提条件があります。オペレーション・コンソールをインストールするオペレーティング・システムを、以下から選択してください。

### Windows 98/Me 用の前提条件チェックリストの完了

Windows 98/Me を稼働している、ネットワーク上のローカル・コンソール用の前提条件チェックリスト内の項目を完全に実施します。

### Windows NT 用の前提条件チェックリストの完了

Windows NT を稼働している、ネットワーク上のローカル・コンソール用の前提条件チェックリスト内の項目を完全に実施します。

### Windows 2000 用の前提条件チェックリストの完了

Windows 2000 を稼働している、ネットワーク上のローカル・コンソール用の前提条件チェックリスト内の項目を完全に実施します。

### Windows XP 用の前提条件チェックリストの完了

Windows XP を稼働している、ネットワーク上のローカル・コンソール用の前提条件チェックリスト内の項目を完全に実施します。

## Windows 98/Me 用の前提条件チェックリストの完了: ネットワーク上のローカル・コンソール

Windows 98/Me 上で、ネットワーク上のローカル・コンソールをセットアップするには、以下のチェックリスト内の項目を完全に実施してください。

- \_\_ 1. **PC** 上で前提条件検査プログラムを実行する。
- \_\_ 2. オペレーション・コンソールのハードウェア要件を満たす。
- \_\_ 3. オペレーション・コンソールのソフトウェア要件を満たす。
- \_\_ 4. **iSeries Access for Windows** をインストールする。
- \_\_ 5. **iSeries Access for Windows Service Pack** を適用する。
- \_\_ 6. 保守ホスト名を構成する。
- \_\_ 7. サーバー上に保守ツール装置 ID を作成する。
- \_\_ 8. **PC** 上で **TCP/IP** のインストールを確認する。
- \_\_ 9. **PC** 上でオペレーション・コンソールを構成する。

## Windows NT 用の前提条件チェックリストの完了: ネットワーク上のローカル・コンソール

Windows NT 上で、ネットワーク上のローカル・コンソールをセットアップするには、以下のチェックリスト内の項目を完全に実施してください。

- \_\_ 1. **PC** 上で前提条件検査プログラムを実行する。
- \_\_ 2. オペレーション・コンソールのハードウェア要件を満たす。
- \_\_ 3. オペレーション・コンソールのソフトウェア要件を満たす。
- \_\_ 4. **iSeries Access for Windows** をインストールする。
- \_\_ 5. **iSeries Access for Windows Service Pack** を適用する。
- \_\_ 6. 保守ホスト名を構成する。

- \_\_ 7. サーバー上に保守ツール装置 ID を作成する。
- \_\_ 8. PC 上で TCP/IP のインストールを確認する。
- \_\_ 9. PC 上でオペレーション・コンソールを構成する。

### **Windows 2000 用の前提条件チェックリストの完了: ネットワーク上のローカル・コンソール**

Windows 2000 上で、ネットワーク上のローカル・コンソールをセットアップするには、以下のチェックリスト内の項目を完全に実施してください。

- \_\_ 1. PC 上で前提条件検査プログラムを実行する。
- \_\_ 2. オペレーション・コンソールのハードウェア要件を満たす。
- \_\_ 3. オペレーション・コンソールのソフトウェア要件を満たす。
- \_\_ 4. **iSeries Access for Windows** をインストールする。
- \_\_ 5. **iSeries Access for Windows Service Pack** を適用する。
- \_\_ 6. 保守ホスト名を構成する。
- \_\_ 7. サーバー上に保守ツール装置 ID を作成する。
- \_\_ 8. PC 上でオペレーション・コンソールを構成する。

### **Windows XP 用の前提条件チェックリストの完了: ネットワーク上のローカル・コンソール**

Windows XP 上で、ネットワーク上のローカル・コンソールをセットアップするには、以下のチェックリスト内の項目を完全に実施してください。

- \_\_ 1. PC 上で前提条件検査プログラムを実行する。
- \_\_ 2. オペレーション・コンソールのハードウェア要件を満たす。
- \_\_ 3. オペレーション・コンソールのソフトウェア要件を満たす。
- \_\_ 4. **iSeries Access for Windows** をインストールする。
- \_\_ 5. **iSeries Access for Windows Service Pack** を適用する。
- \_\_ 6. 保守ホスト名を構成する。
- \_\_ 7. サーバー上に保守ツール装置 ID を作成する。
- \_\_ 8. PC 上でオペレーション・コンソールを構成する。

## **ダイヤルアップ・サポートを使用するローカル・コンソールのセットアップ**

使用するオペレーティング・システムによって、固有のセットアップ前提条件があります。オペレーション・コンソールをインストールするオペレーティング・システムを、以下から選択してください。

#### **Windows 98/Me 用の前提条件チェックリストの完了**

Windows 98/Me を稼働している、ダイヤルアップ・サポートを使用するローカル・コンソール用の前提条件チェックリスト内の項目を完全に実施します。

#### **Windows NT 用の前提条件チェックリストの完了**

Windows NT を稼働している、ダイヤルアップ・サポートを使用するローカル・コンソール用の前提条件チェックリスト内の項目を完全に実施します。

### Windows 2000 用の前提条件チェックリストの完了

Windows 2000 を稼働している、ダイヤルアップ・サポートを使用するローカル・コンソール用の前提条件チェックリスト内の項目を完全に実施します。

### Windows XP 用の前提条件チェックリストの完了

Windows XP を稼働している、ダイヤルアップ・サポートを使用するローカル・コンソール用の前提条件チェックリスト内の項目を完全に実施します。

## Windows 98/Me 用の前提条件チェックリストの完了: ダイヤルアップ・サポートを使用するローカル・コンソール

Windows 98/Me 上で、ダイヤルアップを使用するローカル・コンソールをセットアップするには、以下のチェックリスト内の項目を完全に実施してください。

- \_\_ 1. **PC** 上で前提条件検査プログラムを実行する。
- \_\_ 2. オペレーション・コンソールのハードウェア要件を満たす。
- \_\_ 3. オペレーション・コンソールのソフトウェア要件を満たす。
- \_\_ 4. **iSeries Access for Windows** をインストールする。
- \_\_ 5. **iSeries Access for Windows Service Pack** を適用する。
- \_\_ 6. **PC** モデムをインストールする。
- \_\_ 7. ダイヤルアップを使用するローカル・コンソールのためにサーバーをセットアップする。
- \_\_ 8. **PC** 上で **TCP/IP** のインストールを確認する。
- \_\_ 9. **PC** 上でダイヤルアップ・ネットワークをインストールする。
- \_\_ 10. **PC** 上でオペレーション・コンソールを構成する。

## Windows NT 用の前提条件チェックリストの完了: ダイヤルアップ・サポートを使用するローカル・コンソール

Windows NT 上で、ダイヤルアップを使用するローカル・コンソールをセットアップするには、以下のチェックリスト内の項目を完全に実施してください。

- \_\_ 1. **PC** 上で前提条件検査プログラムを実行する。
- \_\_ 2. オペレーション・コンソールのハードウェア要件を満たす。
- \_\_ 3. オペレーション・コンソールのソフトウェア要件を満たす。
- \_\_ 4. **iSeries Access for Windows** をインストールする。
- \_\_ 5. **iSeries Access for Windows Service Pack** を適用する。
- \_\_ 6. **PC** モデムをインストールする。
- \_\_ 7. ダイヤルアップを使用するローカル・コンソールのためにサーバーをセットアップする。
- \_\_ 8. **PC** 上で **TCP/IP** のインストールを確認する。
- \_\_ 9. リモート・アクセス・サービスをインストールまたは構成する。
- \_\_ 10. **Microsoft Service Pack** をインストールする。
- \_\_ 11. **PC** 上でオペレーション・コンソールを構成する。

## Windows 2000 用の前提条件チェックリストの完了: ダイヤルアップ・サポートを使用するローカル・コンソール

Windows 2000 上で、ダイヤルアップを使用するローカル・コンソールをセットアップするには、以下のチェックリスト内の項目を完全に実施してください。

- \_\_ 1. PC 上で前提条件検査プログラムを実行する。
- \_\_ 2. オペレーション・コンソールのハードウェア要件を満たす。
- \_\_ 3. オペレーション・コンソールのソフトウェア要件を満たす。
- \_\_ 4. **iSeries Access for Windows** をインストールする。
- \_\_ 5. **iSeries Access for Windows Service Pack** を適用する。
- \_\_ 6. PC モデムをインストールする。
- \_\_ 7. ダイヤルアップを使用するローカル・コンソールのためにサーバーをセットアップする。
- \_\_ 8. PC 上でオペレーション・コンソールを構成する。

## Windows XP 用の前提条件チェックリストの完了: ダイヤルアップ・サポートを使用するローカル・コンソール

Windows XP 上で、ダイヤルアップを使用するローカル・コンソールをセットアップするには、以下のチェックリスト内の項目を完全に実施してください。

- \_\_ 1. PC 上で前提条件検査プログラムを実行する。
- \_\_ 2. オペレーション・コンソールのハードウェア要件を満たす。
- \_\_ 3. オペレーション・コンソールのソフトウェア要件を満たす。
- \_\_ 4. **iSeries Access for Windows** をインストールする。
- \_\_ 5. **iSeries Access for Windows Service Pack** を適用する。
- \_\_ 6. PC モデムをインストールする。
- \_\_ 7. ダイヤルアップを使用するローカル・コンソールのためにサーバーをセットアップする。
- \_\_ 8. PC 上でオペレーション・コンソールを構成する。

## ダイヤルアップ・サポートを使用するリモート・コントロールのセットアップ

使用するオペレーティング・システムによって、固有のセットアップ前提条件があります。オペレーション・コンソールをインストールするオペレーティング・システムを、以下から選択してください。

### Windows 98/Me 用の前提条件チェックリストの完了

Windows 98/Me を稼働している、ダイヤルアップ・サポートを使用するリモート・コンソール用の前提条件チェックリスト内の項目を完全に実施します。

### Windows NT 用の前提条件チェックリストの完了

Windows NT を稼働している、ダイヤルアップ・サポートを使用するリモート・コンソール用の前提条件チェックリスト内の項目を完全に実施します。

### Windows 2000 用の前提条件チェックリストの完了

Windows 2000 を稼働している、ダイヤルアップ・サポートを使用するリモート・コンソール用の前提条件チェックリスト内の項目を完全に実施します。

### Windows XP 用の前提条件チェックリストの完了

Windows XP を稼働している、ダイヤルアップ・サポートを使用するリモート・コンソール用の前提条件チェックリスト内の項目を完全に実施します。

### Windows 98/Me 用の前提条件チェックリストの完了: ダイヤルアップ・サポートを使用するリモート・コンソール

Windows 98/Me 上で、ダイヤルアップを使用するリモート・コンソールをセットアップするには、以下のチェックリスト内の項目を完全に実施してください。

- 1. PC 上で前提条件検査プログラムを実行する。
- 2. オペレーション・コンソールのハードウェア要件を満たす。
- 3. オペレーション・コンソールのソフトウェア要件を満たす。
- 4. **iSeries Access for Windows** をインストールする。
- 5. **iSeries Access for Windows Service Pack** を適用する。
- 6. PC モデムをインストールする。
- 7. PC 上でダイヤルアップ・ネットワークをインストールする。
- 8. PC 上でオペレーション・コンソールを構成する。

### Windows NT 用の前提条件チェックリストの完了: ダイヤルアップ・サポートを使用するリモート・コンソール

Windows NT 上で、ダイヤルアップを使用するリモート・コンソールをセットアップするには、以下のチェックリスト内の項目を完全に実施してください。

- 1. PC 上で前提条件検査プログラムを実行する。
- 2. オペレーション・コンソールのハードウェア要件を満たす。
- 3. オペレーション・コンソールのソフトウェア要件を満たす。
- 4. **iSeries Access for Windows** をインストールする。
- 5. **iSeries Access for Windows Service Pack** を適用する。
- 6. PC モデムをインストールする。
- 7. リモート・アクセス・サービスをインストールする。
- 8. **Microsoft Service Pack** をインストールする。
- 9. PC 上でオペレーション・コンソールを構成する。

### Windows 2000 用の前提条件チェックリストの完了: ダイヤルアップ・サポートを使用するリモート・コンソール

Windows 2000 上で、ダイヤルアップを使用するリモート・コンソールをセットアップするには、以下のチェックリスト内の項目を完全に実施してください。

- 1. PC 上で前提条件検査プログラムを実行する。
- 2. オペレーション・コンソールのハードウェア要件を満たす。
- 3. オペレーション・コンソールのソフトウェア要件を満たす。
- 4. **iSeries Access for Windows** をインストールする。
- 5. **iSeries Access for Windows Service Pack** を適用する。
- 6. PC モデムをインストールする。
- 7. PC 上でオペレーション・コンソールを構成する。

## Windows XP 用の前提条件チェックリストの完了: ダイアルアップ・サポートを使用するリモート・コンソール

Windows XP 上で、ダイアルアップを使用するリモート・コンソールをセットアップするには、以下のチェックリスト内の項目を完全に実施してください。

- \_\_ 1. PC 上で前提条件検査プログラムを実行する。
- \_\_ 2. オペレーション・コンソールのハードウェア要件を満たす。
- \_\_ 3. オペレーション・コンソールのソフトウェア要件を満たす。
- \_\_ 4. **iSeries Access for Windows** をインストールする。
- \_\_ 5. **iSeries Access for Windows Service Pack** を適用する。
- \_\_ 6. PC モデムをインストールする。
- \_\_ 7. PC 上でオペレーション・コンソールを構成する。

---

## 必要な前提条件タスクの完了

ご使用の構成およびオペレーティング・システムで必要な前提条件タスクを完了してください。ここは、オペレーション・コンソールを構成する前に完了しておく必要のあるタスクをすべてリストした参照セクションです。完了する必要がある特定のタスクをリストして作成した、チェックリストを使用してください。チェックリストには、ご使用のオペレーティング・システムおよび構成タイプに基づいて、必要となるタスクのみがリストされています。まだチェックリストを作成していない場合は、『オペレーション・コンソールのセットアップ』を参照してください。

以下に、必要となり得るタスクをすべてリストします。

### 前提条件検査プログラムの実行

オペレーション・コンソールの構成を始める前に、前提条件検査プログラムを実行します。

### オペレーション・コンソールのハードウェア要件の確認

PC および iSeries での、オペレーション・コンソールのハードウェア要件を確認し、満たします。

### オペレーション・コンソールのソフトウェア要件の確認

PC および iSeries での、オペレーション・コンソールのソフトウェア要件を確認し、満たします。

### オペレーション・コンソールのケーブル要件の確認

PC および iSeries での、オペレーション・コンソールのケーブル要件を確認し、満たします。

### 使用可能な通信ポートの検査

オペレーション・コンソールの構成のために、使用可能な通信ポートがあることを確認します。

### iSeries Access for Windows のインストール

ご使用の PC にオペレーション・コンソールをロードするための、iSeries Access for Windows をインストールします。

## **iSeries Access for Windows Service Pack の適用**

iSeries Access for Windows を最新版にするための、iSeries Access for Windows Service Pack を適用します。

### **AS400® オペレーション・コンソール接続モデムのインストール**

オペレーション・コンソールと同梱されている、オペレーション・コンソール接続モデムをインストールします。このモデムによって、ローカル・コンソールが、オペレーション・コンソール・ケーブルを使用してサーバーと通信できるようになります。これらの指示は、サーバーに直接接続するローカル・コンソール、またはリモート・アクセスが許可されているサーバーに直接接続するローカル・コンソールを構成している場合のみ実行してください。

### **PC モデムのインストール**

ローカル・コンソールが電話線接続を使って他者と通信できるようにするための、PC モデムをインストールします。

### **PC 上での TCP/IP のインストールの確認**

Windows 98、Windows Me、または Windows NT のネットワーク要件を満たすため、PC 上の TCP/IP のインストールを確認します。

### **PC 上でのダイヤルアップ・ネットワークのインストール**

Windows 98 または Windows Me を使用している場合に、ダイヤルアップ・ネットワーク (DUN) をインストールします。

### **リモート・アクセス・サービスのインストール**

Windows NT を使用している場合に、リモート・アクセス・サービスをインストールします。

### **Microsoft Service Pack のインストール**

リモート・アクセス・サービスをインストールした後で、Microsoft Service Pack をインストールします。

### **ダイヤルアップを使用するローカル・コンソールのためのサーバーのセットアップ**

ダイヤルアップを使用するローカル・コンソールの場合のみ、それに合わせてサーバーをセットアップします。

### **リモート・アクセスの認可**

Windows NT、Windows 2000、または Windows XP を使用している場合に、リモート・アクセスを認可します。

### **着信接続の作成および構成**

Windows 2000 または Windows XP を使用している場合に、着信接続を作成および構成します。

### **オペレーション・コンソール・ケーブルのインストール**

直接接続コンソールをサーバーと接続するための、オペレーション・コンソール・ケーブルをインストールします。



## PC 上でのオペレーション・コンソールの構成

前提条件をすべて完了したとき、PC 上でオペレーション・コンソールを構成します。オペレーション・コンソール構成ウィザードを開始するための説明も記載されています。

## 前提条件検査プログラムの実行

オペレーション・コンソールの構成を始める前に、前提条件検査プログラムを実行してください。このツールは、オペレーション・コンソール接続をセットアップしたい、各 PC で実行します。これは前提条件のいくつかを検査し、まだ無いコンポーネントを特定する方法を表示します。

前提条件検査プログラムを開始してください。

## オペレーション・コンソールのハードウェア要件の確認

このセクションでは、オペレーション・コンソールの構成のための、PC および iSeries のハードウェア要件について説明します。

表 1 は、PC での要件を、オペレーティング・システムごとに示したものです。

表 1. PC の要件 - プロセッサおよびメモリ

オペレーティング・システム (1、2)	オペレーション・コンソール PC
Windows 98/Me	<ul style="list-style-type: none"><li>• Pentium® 266 MHz 推奨 (P6、またはそれと同等の、互換性のあるマイクロプロセッサ)</li><li>• 最小 32 MB のメモリ</li></ul>
Windows NT 4.0	<ul style="list-style-type: none"><li>• Pentium 300 MHz 推奨</li><li>• 最小 64 MB のメモリ (128 MB が推奨)</li></ul>
Windows 2000/XP Professional	<ul style="list-style-type: none"><li>• Pentium 500 MHz (P6、またはそれと同等の、互換性のあるマイクロプロセッサ)</li><li>• 最小 256 MB のメモリ</li></ul>

### 注:

1. 最新の PC 要件については、iSeries Access の Web サイトを参照してください。
2. iSeries ナビゲーターを使用している場合は、『iSeries ナビゲーターのインストールのための要件』を参照してください。
3. ご使用の PC に電源管理機能が付いている場合、それによって PC の電源が切れることがあります。電源管理が作動し始めたときに、PC が通信ポートをリセットする可能性があります。その場合、既に確立されていた通信はすべて終了します。PC 上およびオペレーティング・システム内の、特定のタイプの電源管理機能は、iSeries の制御パネルまたはリモート・コントロール・パネルに、システム参照コード (SRC) 0000DDDD を表示します。PC のアクティビティが再開したとき、この SRC データは消去されます。

ネットワーク (LAN) 上のオペレーション・コンソール・ローカル・コンソールを使用したい場合、ご使用の iSeries モデルに従って、オペレーション・コンソール用の

LAN カードをインストールする必要があります。IBM では、モデル 270、810、820、825、830、840、870、および 890 のみ、ネットワーク (LAN) 上のローカル・コンソールをサポートします。表 2 は、LAN 接続用にサポートされるカードを示しています。表 3 は、LAN カードの正しい位置を示しています。

**重要:** LAN 接続の障害のような緊急事態が発生した場合は、サーバーに直接接続するオペレーション・コンソール・ローカル・コンソールを構成してください。『バックアップ・コンソールの計画』を参照してください。表 3 は、コンソールを直接ケーブル接続するための位置も示しています。

**表 2. LAN 接続用にサポートされるカード**

カード名またはカード番号	説明
2744	PCI 100 Mbps トークンリング・アダプター
2838	PCI 100/10 Mbps イーサネット IOA
2849	PCI 100/10 Mbps イーサネット IOA
内蔵イーサネット・ポート	PCI 100/10 Mbps 内蔵 LAN IOA (モデル 825 のみ)
注: 内蔵イーサネット・ポートは、モデル 825 のネットワーク・オプションでの、オペレーション・コンソール・ローカル・コンソール用の唯一の LAN 接続オプションです。	

**表 3. iSeries 要件 - LAN カードの位置**

モデル	LAN コンソール・カードの位置	ケーブル用のオペレーション・コンソール非同期カードの位置
270	C06、2 次 C05	C07
810	C06、2 次 C05	C07
820	C04、2 次 C03、3 次 C11	C06
825	内蔵イーサネット・ポート、C03、C02、C01 <b>(1)</b>	C06
830/SB2	C04、2 次 C06、3 次 C10	C02
840/SB3	C04、2 次 C06、3 次 C10	C02
870/890	C04、C06、C07、C08、C09、C10	C02
注: <b>(1)</b> これらの位置は、内蔵イーサネット・ポートが作動していない場合のみ使用可能です。		

**注:** ネットワーク上のローカル・コンソールが、サーバーに直接接続するローカル・コンソールのサポートに用いられる非同期通信ポートによって使用されている場合、通信ケーブルまたはオペレーション・コンソール・ケーブルがそのポートに接続されていても、そのローカル・コンソールは OS/400 からは使用できません。

ケーブル要件について検討するためには、『オペレーション・コンソールのケーブル要件の確認』を参照してください。

## オペレーション・コンソールのソフトウェア要件の確認

先に進む前に、構成に必要なオペレーション・コンソールのハードウェア要件を満たしていることを確認してください。オペレーション・コンソールは、Windows 98、Windows Me、Windows NT Workstation 4.0 以降、Windows 2000 Professional、および Windows XP Professional でサポートされています。

「iSeries Operations Console Update CD-ROM」が同梱されていた場合は、その内容をインストールする必要があります。

オペレーション・コンソールを正しく操作するためには、ローカル・コンソールとリモート・コンソールの両方の iSeries Access for Windows のバージョンが、同じレベルでなければなりません。

コンソール用にのみ、PC5250 または IBM パーソナル・コミュニケーションズ (最低でも V5.5 CSD 1) をインストールする必要があります。リモート・コントロール・パネル構成には、必要ありません。

表 1. 結果の暗号化レベル

iSeries サーバー上の Cryptographic Access Provider	オペレーション・コンソール PC 上の Client Encryption	データ暗号化の結果
なし	なし	なし
5722-AC2	5722-CE2	56 ビット
5722-AC2	5722-CE3	56 ビット
5722-AC3	5722-CE2	56 ビット
5722-AC3	5722-CE3	128 ビット

注: SOCKS を使用可能にする何らかのソフトウェアを PC 上で実行している場合 (PC は、Microsoft Proxy Client、Hummingbird® SOCKS Client、NEC SOCKS 5、またはその他のファイアウォールを介してインターネットにアクセスします)、192.168.0.0 のサブネットをファイアウォールに経路指定することはできません。オペレーション・コンソールは、192.168.0.0 から 192.168.0.255 の範囲のアドレスを使用します。誤って経路指定すると、オペレーション・コンソールが失敗します。ご使用の SOCKS 構成を調べて、エントリーが以下のようになっていることを確認してください。

Direct 192.168.0.0 255.255.255.0

### ネットワーク上のローカル・コンソールのためのデータ暗号化

ネットワーク上のローカル・コンソールを使用するためには、暗号製品をインストールすることを強くお勧めします。コンソール・データを暗号化するためには、iSeries サーバーに Cryptographic Access Provider 製品 (5722-AC2 または 5722-AC3) のいずれかをインストールし、PC に Client Encryption 製品 (5722-CE2 または 5722-CE3) のいずれかをインストールする必要があります。以下の表は、結果の暗号化レベルの要約です。

## iSeries オペレーション・コンソール・アップデート

オペレーション・コンソールをインストールするには、「iSeries Operations Console Update CD-ROM」(SK3T-4114-02)が必要な場合があります。オペレーション・コンソールのインストールにこの CD-ROM が必要な場合は、同梱されてきます。CD-ROM が同梱されていない場合は、以下のステップを実行する必要はありません。

オペレーション・コンソール・アップデートをインストールするには、以下のステップに従います。

- 2 次区画を OS/400 V5R2 にアップグレードする場合は、サーバーのオペレーティング・システムを V5R2 にアップグレードする前に、PC の iSeries Access for Windows を V5R2 にアップグレードする必要があります。
- Setup.exe ファイルをダブルクリックして、CD-ROM からオペレーション・コンソール・アップデートをインストールします。
- 適用できる場合は、iSeries Access for Windows の最新の Service Pack をインストールします。

## オペレーション・コンソールのケーブル要件の確認

構成によっては、ケーブルまたはサーバー上のカードをインストールする必要があります。サーバーに直接接続するローカル・コンソールを接続するには、正しいケーブルを使用しなければなりません。ネットワーク上のローカル・コンソールを接続するには、LAN カードが必要です。

この表は、セットアップの際に使用できるようにしておく必要のある、オペレーション・コンソールのカードおよびケーブルをリストしたものです。

表 1. オペレーション・コンソールのカードおよびケーブル

サーバー	フィーチャー・コード (カード)	パーツ・ナンバー (ケーブル)
9406 640/650/730/740/S30/S40	2699	97H7556
9406 600/620/720/S10/S20	2721 または 2745	97H7557
9401 150 9406 270/830/840 9406 810/820/825/870/890	2721、2742、2745、 2771、2793	97H7557

表 2. リモート・コントロール・パネルのケーブル

サーバー	パーツ・ナンバー (ケーブル)
9406 640/650/S30/S40	97H7584
9406 270/820/830/840 (1)	04N5592 (2) (3)
その他すべてのシステム	97H7591

サーバー	パーツ・ナンバー (ケーブル)
<b>注:</b> 1. 現在、これらのサーバーがリモート・コントロール・パネルをサポートするのは、Windows NT Workstation 4.0 または Windows 2000 Professional、および Windows XP Professional を使用する場合があります。 2. ピンの欠落しているコネクタが、サーバー側です。 3. 並列リモート・コントロール・パネル・ケーブルは、販売を中止しました。リモート・コントロール・パネルの代替は、仮想制御パネルです。オプションについて詳しくは、『制御パネル』を参照してください。この表は、現在使用しているリモート・コントロール・パネル・ケーブルのケースに入っています。	

この表では、各モデルごとのカード位置をリストしています。ネットワーク上のローカル・コンソールを構成する場合は、カードが必要です。

**表 3. カードの位置**

モデル	ケーブル用のオペレーション・コンソール非同期カードの位置	ネットワーク上のローカル・コンソール
170/250	C08	
270	C07	C06、2 次 C05
620/S20/600/S10	C09	
720	C09	
810	C07	C06、C05
820	C06	C04、2 次 C03、3 次 C11
825	C06	内蔵イーサネット・ポート、C03、C02、C01 <b>(1)</b>
830/SB2	C02	C04、2 次 C06、3 次 C10
840/SB3	C02	C04、2 次 C06、3 次 C10
870/890	C02	C04、C06、C07、C08、C09、C10
<b>注: (1)</b> これらの位置は、内蔵イーサネット・ポートが作動していない場合のみ使用可能です。		

**注:**

- サーバーに直接接続するローカル・コンソールと、リモート・コントロール・パネル機能のそれぞれで、特別なケーブルが必要です。
- 270、810、820、825、830、840、870、および 890 以外のサーバー上では、コンソール用ケーブルと制御パネル用ケーブルが両方ともシリアルであっても、これらを交換することはできません。
- 現在エレクトロニック支援を利用している場合は、直接接続のオペレーション・コンソールをインストールする前に、エレクトロニック支援のケーブル配線を別の通信ポートに移動しなければなりません。ダイヤルアップ・サポートを使用するローカル・コンソールを構成する場合は、エレクトロニック支援のリソースは移動しないでください。

4. コンソールの表は、1 次区画にのみ当てはまります。サポートされるカードの中には、2 次区画で使用されるものもあります。2 次区画では、多機能入出力プロセッサ (MFIO) が特定の入出力アダプター (IOA) をサポートしていない場合があります。サポートされているかどうか確認できない場合は、サービス担当者に連絡してください。
5. ネットワーク上のローカル・コンソールが、サーバーに直接接続するローカル・コンソールのサポートに用いられる非同期通信ポートによって使用されている場合、通信ケーブルまたはオペレーション・コンソール・ケーブルがそのポートに接続されていても、そのローカル・コンソールは OS/400 からは使用できません。

詳しくは、『オペレーション・コンソール・ケーブルのインストール』を参照してください。

## 使用可能な通信ポートの検査

オペレーション・コンソールを正常に構成するための構成ウィザードで、使用可能な通信ポートがあるかどうかを検査する必要があります。通信インターフェース用のコネクタ (シリアル・ポートなど) も必要です。システム・コンソールをサポートするために 1 つの COM ポートが必要であり、また、リモート・コントロール・パネルをサポートするために 1 つの COM ポートが必要です (ただし、270、810、820、825、830、840、870、および 890 のサーバーは例外で、これらはリモート・コントロール・パネルをサポートするためにパラレル・ポートが必要です)。オペレーション・コンソールは、シリアル COM ポート 1 ~ 4 および LPT ポート 1 をサポートします。

使用可能な通信ポートがあるかどうかを検査するには、PC 前提条件検査プログラムを実行してください。このプログラムは、通信ポートが使用可能になっていない場合に、使用可能なポートを検出するための指示を出します。オペレーション・コンソールを構成するときに、ウィザードがこのポートを探します。

## iSeries Access for Windows のインストール


オペレーション・コンソールを使用する前に、iSeries Access for Windows をインストールする必要があります。iSeries Access for Windows のインストール中に、5250 エミュレーター (PC5250 または IBM パーソナル・コミュニケーションズ V5.5 CSD 1 (最低でも) をまだインストールしていない場合) およびオペレーション・コンソール・サポートをインストールします。最新の PC 要件については、iSeries Access の Web サイトを参照してください。

iSeries Access for Windows がインストールされているかどうかを検査するには、以下のようにします。

1. 「スタート」をクリックして「設定」を選択します。
2. 「コントロール パネル」をクリックします。
3. 「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックします。
4. IBM iSeries Access for Windows を探します。
5. 「アプリケーションの追加と削除」を閉じるには、「キャンセル」をクリックします。
6. 「コントロール パネル」を閉じます。

iSeries Access for Windows をインストールしていない場合は、「iSeries セットアップおよびオペレーション CD」を使用してインストールしてください。

1. 「iSeries セットアップおよびオペレーション CD」を CD-ROM ドライブに挿入します。
2. 「iSeries Access for Windows」オプションを選択して、インストールを開始します。
3. 「IBM iSeries Access for Windows」ウィンドウが表示されるまで待ちます。
4. セットアップ・プログラムを続けて実行するためには、「次へ」をクリックして、プロンプトに従います。

インストールについて詳しくは、「iSeries Access for Windows - セットアップ」(SD88-5067-03)  を参照してください。

5. iSeries Access for Windows を初めてインストールする場合は、少なくともオペレーション・コンソールを実行するための最小構成は確実に備えている必要があります。オペレーション・コンソール・コンポーネントを追加するだけの場合は、この最小構成を満たすために必要なコンポーネントのみを追加してください。
6. 最小構成を確実に満たすためには、「カスタム」インストール、または「全部」インストールを選択し、少なくとも以下のコンポーネントを選択してください。

**注:** 「通常」オプションまたは「PC5250 ユーザー」オプションを使用する場合は、オペレーション・コンソール・コンポーネントは選択できません。

a. 「必要なプログラム (Required Programs)」

- b. 「5250 ディスプレイおよびプリンター・エミュレーター (5250 Display and Printer Emulator)」 (IBM パーソナル・コミュニケーションズ (V5.5 CSD 1 (最低でも) をインストールしない場合)。

オペレーション・コンソールのためだけに使用するのであれば、たとえウィンドウでそのような指示が出ても、5250 ディスプレイ・エミュレーションを使用するためのライセンスは必要ありません。

**重要:** オペレーション・コンソールの構成で、リモート・コントロール・パネルのみをサポートする予定の場合は、エミュレーターをインストールする必要はありません。

c. 「オペレーション・コンソール」

7. 「次へ」をクリックして、プロンプトに従います。
8. iSeries Access for Windows 用の最新の Service Pack (プログラム一時修正 (PTF)) を適用します。
9. 「iSeries Operations Console Update CD-ROM」(SK3T-4114-02) を持っている場合は、ここでそのアップデート CD-ROM をインストールしてください。

## iSeries Access for Windows Service Pack の適用

iSeries Access for Windows 用の、最新版の Service Pack (プログラム一時修正 (PTF)) を用意し、PC 上の iSeries Access for Windows を最新版にしなければなりません。Service Pack は、以下の Web サイトから PC 実行可能形式で利用できます。

- iSeries Access for Windows Service Packs のページは、以下のとおりです。  
<http://www.ibm.com/eserver/iseriesservicepacks/clientaccess/casp.htm>
- IBM FTP サイト。  
<ftp://ftp.software.ibm.com>  
ディレクトリー・パスを下に移動し、  
`as400/products/clientaccess/win32/v5r2m0/servicepack` にナビゲートします。

## AS400 オペレーション・コンソール接続モデムをインストールする

サーバーに直接接続するローカル・コンソールを構成している場合、またはリモート・アクセスが許可されているサーバーに直接接続するローカル・コンソールを構成している場合は、AS400 オペレーション・コンソール接続モデムをインストールする必要があります。

### Windows 98/Me 用の AS400 オペレーション・コンソール接続モデムのインストール

Windows 98/Me 用の AS400 オペレーション・コンソール接続モデムをインストールするには、この指示に従ってください。

### Windows NT 用の AS400 オペレーション・コンソール接続モデムのインストール

Windows NT 用の AS400 オペレーション・コンソール接続モデムをインストールするには、この指示に従ってください。

### Windows 2000 用の AS400 オペレーション・コンソール接続モデムのインストール

Windows 2000 用の AS400 オペレーション・コンソール接続モデムをインストールするには、この指示に従ってください。

### Windows XP 用の AS400 オペレーション・コンソール接続モデムのインストール

Windows XP 用の AS400 オペレーション・コンソール接続モデムをインストールするには、この指示に従ってください。

## Windows 98/Me 用の AS400 オペレーション・コンソール接続モデムのインストール

オペレーション・コンソールと同梱されている、オペレーション・コンソール接続モデムをインストールしてください。このモデムによって、ローカル・コンソールが、オペレーション・コンソール・ケーブルを使用してサーバーと通信できるようになります。これらの指示は、サーバーに直接接続するローカル・コンソール、またはリモート・アクセスが許可されているサーバーに直接接続するローカル・コンソールを構成している場合のみ実行してください。

インストールするには、以下のようにします。

1. 「スタート」 → 「設定」 → 「コントロール パネル」をクリックし、次に「モデム」をクリックします。
2. ここで「モデム」フォルダーが表示されている場合は、「追加」をクリックし、「次へ」をクリックします。そうではなく、「新しいモデムのインストー



ル」ウィンドウが表示されている場合は、「次へ」をクリックします。PC が新しいモデムを検出し、その位置を報告します。

3. 「モデムを一覧から選択するので検出しない」を選択して、「次へ」をクリックします。
4. 「ディスク使用...」をクリックします。
5. 「参照...」をクリックします。
6. `drive:\path\Client Access\Aoc\Inf\cwbopaoc.inf` にナビゲートします。この `drive:` は、iSeries Access for Windows がインストールされているドライブです。  
注: デフォルトのインストール・パスは、`C:\Program Files\Ibm\Client Access\Aoc\Inf\cwbopaoc.inf` です。
7. 「開く」をクリックし、「OK」をクリックします。
8. 「オペレーション・コンソール接続 (Operations Console Connection)」を選択し、「次へ」をクリックします。
9. オペレーション・コンソール・ケーブルをインストールしようとしている通信ポート (たとえば、COM1 など) を選択します。
10. 「次へ」をクリックします。
11. 「完了」をクリックします。
12. 「OK」をクリックします。

## Windows NT 用の AS400 オペレーション・コンソール接続モデムのインストール

オペレーション・コンソールと同梱されている、オペレーション・コンソール接続モデムをインストールしてください。このモデムによって、ローカル・コンソールが、オペレーション・コンソール・ケーブルを使用してサーバーと通信できるようになります。これらの指示は、サーバーに直接接続するローカル・コンソール、またはリモート・アクセスが許可されているサーバーに直接接続するローカル・コンソールを構成している場合のみ実行してください。

インストールするには、以下のようにします。

1. 「スタート」→「設定」→「コントロール パネル」をクリックし、次に「モデム」をクリックします。
2. 「新しいモデムのインストール」ウィンドウが表示された場合は、次のステップに進みます。そうではなく、ここで「モデムのプロパティ」ウィンドウが表示されている場合は、「追加」をクリックします。
3. 「モデムを一覧から選択するので検出しない」を選択して、「次へ」をクリックします。
4. 「ディスク使用...」をクリックします。
5. 「参照...」をクリックします。
6. `drive:\path\Client Access\Aoc\Inf\cwbopaoc.inf` にナビゲートします。この `drive:` は、iSeries Access for Windows がインストールされているドライブです。  
注: デフォルトのインストール・パスは、`C:\Program Files\Ibm\Client Access\Aoc\Inf\cwbopaoc.inf` です。

7. 「開く」をクリックし、「OK」をクリックします。
8. オペレーション・コンソール・ケーブルをインストールしようとしている通信ポート (たとえば、COM1 など) を選択します。
9. 「次へ」をクリックします。
10. 「完了」をクリックします。
11. 「OK」をクリックします。

## Windows 2000 用の AS400 オペレーション・コンソール接続モデムのインストール

オペレーション・コンソールと同梱されている、オペレーション・コンソール接続モデムをインストールしてください。このモデムによって、ローカル・コンソールが、オペレーション・コンソール・ケーブルを使用してサーバーと通信できるようになります。これらの指示は、サーバーに直接接続するローカル・コンソール、またはリモート・アクセスが許可されているサーバーに直接接続するローカル・コンソールを構成している場合のみ実行してください。

インストールするには、以下のようにします。

1. 「スタート」→「設定」→「コントロール パネル」をクリックします。
2. 「電話とモデムのオプション」をクリックします。
3. 「モデム」タブをクリックします。
4. 「追加」をクリックします。
5. 「モデムを一覧から選択するので検出しない」を選択して、「次へ」をクリックします。
6. 「ディスク使用...」をクリックします。

**注:** オペレーション・コンソール接続ドライバー (cwbopaoc.inf) の絶対パスが分かっている場合は、ここでそれを入力してください。そして、ステップ 7 に進みます。パスが分からない場合は、このステップを完了してください。

7. 「参照...」をクリックします。

*drive:*¥path¥Client Access¥Aoc¥Inf¥cwbopaoc.inf にナビゲートします。この *drive:* は、iSeries Access for Windows がインストールされているドライブです。

**注:** デフォルトのインストール・パスは、C:¥Program Files¥Ibm¥Client Access¥Aoc¥Inf¥cwbopaoc.inf.f です。

「開く」をクリックします。

8. 「OK」をクリックします。「オペレーション・コンソール接続 (Operations Console Connection)」がリスト内にあるはずですが。
9. 「次へ」をクリックします。
10. オペレーション・コンソール・ケーブルをインストールしようとしている通信ポート (たとえば、COM1 など) を選択します。
11. 「次へ」をクリックします。
12. 「デジタル・シグニチャーが見つかりません (Digital Signature Not Found)」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックします。

13. 「完了」をクリックします。「電話とモデムのオプション」フォルダーの「モデム」タブに戻るはずです。
14. 「OK」をクリックします。

## Windows XP 用の AS400 オペレーション・コンソール接続モデムのインストール

オペレーション・コンソールと同梱されている、オペレーション・コンソール接続モデムをインストールしてください。このモデムによって、ローカル・コンソールが、オペレーション・コンソール・ケーブルを使用してサーバーと通信できるようになります。これらの指示は、サーバーに直接接続するローカル・コンソール、またはリモート・アクセスが許可されているサーバーに直接接続するローカル・コンソールを構成している場合のみ実行してください。

インストールするには、以下のようにします。

1. 「スタート」→「設定」→「コントロール パネル」をクリックします。
2. 「電話とモデムのオプション」をダブルクリックし、「モデム」タブをクリックして「新しいモデムのインストール」パネルを表示します。他のモデムがインストールされている場合は、「モデムのプロパティ」パネルが表示されるので、「追加」をクリックする必要があります。
3. 「モデムを一覧から選択するので検出しない」を選択します。
4. 「次へ」をクリックします。
5. 「ディスク使用...」をクリックします。
6. 「参照...」をクリックします。

*drive:¥path¥Client Access¥Aoc¥Inf¥cwropaoc.inf* にナビゲートします。この *drive:* は、iSeries Access for Windows がインストールされているドライブです。

注: デフォルトのインストール・パスは、*C:¥Program Files¥Ibm¥Client Access¥Aoc¥Inf¥cwropaoc.inf* です。

7. 「開く」をクリックし、「OK」をクリックします。
8. 「次へ」をクリックします。
9. オペレーション・コンソール・ケーブルを接続している通信ポートを選択し、「次へ」をクリックします。
10. プロンプトが出た場合は、「継続 (Continue Anyway)」を選択してインストールを続けます。
11. 「完了」をクリックし、「OK」をクリックします。

## PC モデムのインストール

PC に PC モデムをインストールする必要があります。

### Windows 98/Me 用の PC モデムのインストール

Windows 98/Me 用の PC モデムをインストールするには、この指示に従ってください。

### Windows NT 用の PC モデムのインストール

Windows NT 用の PC モデムをインストールするには、この指示に従ってください。

### Windows 2000 用の PC モデムのインストール

Windows 2000 用の PC モデムをインストールするには、この指示に従ってください。

### Windows XP 用の PC モデムのインストール

Windows XP 用の PC モデムをインストールするには、この指示に従ってください。

### Windows 98/Me 用の PC モデムのインストール

特定のドライバーを必要とする PC モデムをインストールする場合は、モデム・メーカーが提供している指示に従ってください。そうでない場合は、以下のステップに従って、PC モデムをインストールしてください。

1. 「スタート」 → 「設定」 → 「コントロール パネル」 → 「モデム」をクリックします。
2. ここで「モデム」フォルダーが表示されている場合は、「追加」をクリックし、「次へ」をクリックします。そうではなく、「新しいモデムのインストール」ウィンドウが表示されている場合は、「次へ」をクリックします。PC が新しいモデムを検出し、その位置を報告します。
3. PC が検出したモデムを、ウィンドウが表示したとき、「次へ」をクリックしてそれを受け入れます。ここで PC は、このモデムをサポートするドライバー・コードをロードします。
4. 「完了」をクリックして「モデム」フォルダーに戻ります。
5. 「モデム」フォルダーを閉じます。
6. PC を再始動してからでないとモデムが使用できないことを示すメッセージを受け取った場合は、「OK」をクリックします。そして、ご使用の PC でシャットダウンと再始動を実行します。そうしないと、PC の再始動を求めるプロンプトが出る場合があります。そのようなプロンプトが出た場合は、「はい」または「OK」をクリックしてシャットダウンを実行します。
7. PC の再始動を求めるプロンプトが出なかった場合でも、変更したデータを強制的に再書き込みするために PC を再始動してください。

### Windows NT 用の PC モデムのインストール

特定のドライバーを必要とする PC モデムをインストールする場合は、モデム・メーカーが提供している指示に従ってください。そうでない場合は、以下のステップに従って、PC モデムをインストールしてください。

1. 「スタート」 → 「設定」 → 「コントロール パネル」 → 「モデム」をクリックします。
2. ここで「モデムのプロパティ」ウィンドウが表示されている場合は、「追加」をクリックし、「次へ」をクリックします。そうではなく、「新しいモデムのインストール」ウィンドウが表示されている場合は、「次へ」をクリックします。PC が新しいモデムを検出し、その位置を報告します。
3. PC が検出したモデムを、ウィンドウが表示したとき、「次へ」をクリックしてそれを受け入れます。ここで PC は、このモデムをサポートするドライバー・コードをロードします。
4. 「完了」をクリックして「モデムのプロパティ」ウィンドウに戻ります。
5. 「モデムのプロパティ」ウィンドウを閉じます。

注: このモデムをリモート・アクセス・サービスで追加し、構成してからでないと、オペレーション・コンソールがこのモデムを使用することはできません。

### Windows 2000 用の PC モデムのインストール

特定のドライバーを必要とする PC モデムをインストールする場合は、モデム・メーカーが提供している指示に従ってください。そうでない場合は、以下のステップに従って、PC モデムをインストールしてください。

1. 「スタート」→「設定」→「コントロール パネル」→「電話とモデムのオプション」をクリックします。
2. ここで「電話とモデムのオプション」フォルダーの「モデム」タブが表示されている場合は、「追加」をクリックし、「次へ」をクリックします。そうではなく、「新しいモデムのインストール」ウィンドウが表示されている場合は、「次へ」をクリックします。PC が新しいモデムを検出し、その位置を報告します。
3. PC が検出したモデムを、ウィンドウが表示したとき、「次へ」をクリックしてそれを受け入れます。ここで PC は、このモデムをサポートするドライバー・コードをロードします。
4. 「完了」をクリックして「電話とモデムのオプション」フォルダーに戻ります。
5. 「電話とモデムのオプション」フォルダーを閉じます。
6. PC を再始動してからでないとモデムが使用できないことを示すメッセージを受け取った場合は、「OK」をクリックします。そして、ご使用の PC でシャットダウンと再始動を実行します。そうしないと、PC の再始動を求めるプロンプトが出る場合があります。そのようなプロンプトが出た場合は、「はい」または「OK」をクリックしてシャットダウンを実行します。

注: PC の再始動を求めるプロンプトが出なかった場合でも、変更したデータを強制的に書き込みするために PC を再始動してください。

### Windows XP 用の PC モデムのインストール

特定のドライバーを必要とする PC モデムをインストールする場合は、モデム・メーカーが提供している指示に従ってください。そうでない場合は、以下のステップに従って、PC モデムをインストールしてください。

1. 「スタート」→「設定」→「コントロール パネル」→「電話とモデムのオプション」をクリックします。
2. ここで「電話とモデムのオプション」フォルダーの「モデム」タブが表示されている場合は、「追加」をクリックし、「次へ」をクリックします。そうではなく、「新しいモデムのインストール」ウィンドウが表示されている場合は、「次へ」をクリックします。PC が新しいモデムを検出し、その位置を報告します。
3. PC が検出したモデムを、ウィンドウが表示したとき、「次へ」をクリックしてそれを受け入れます。ここで PC は、このモデムをサポートするドライバー・コードをロードします。
4. 「完了」をクリックして「電話とモデムのオプション」フォルダーに戻ります。
5. 「電話とモデムのオプション」フォルダーを閉じます。
6. モデムを使用する前に、PC を再始動してください。

注: PC の再始動を求めるプロンプトが出なかった場合でも、変更したデータを強制的に書き込みするために PC を再始動してください。

## PC 上での TCP/IP のインストールの確認

このセクションでは、Windows 98、Windows Me、または Windows NT のネットワーク要件を満たします。オペレーション・コンソールの構成を始める前に、必ず、ネットワーク・アダプター・カード (LAN アダプターまたはイーサネット・アダプターなど) を完全にインストールし、構成しておく必要があります。

TCP/IP があるかどうかを確認するには、以下のようにします。

1. 「スタート」をクリックして「設定」を選択します。
2. 「コントロール パネル」をクリックします。
3. 「ネットワーク」をダブルクリックします。ネットワークがインストールされていないことを示すメッセージが出た場合は、「はい」をクリックしてインストールします。
4. Windows NT を使用している場合は、「プロトコル」タブをクリックします。Windows 98/Me を使用している場合は、「構成」タブで TCP/IP を調べます。

ご使用の PC 上に TCP/IP がインストールされていない場合は、「スタート」→「ヘルプ」をクリックして Windows のヘルプにアクセスし、TCP/IP をインストールするための指示を参照してください。

注: Windows 2000 Professional および Windows XP Professional は、自動的に TCP/IP とともにインストールされています。

## PC 上でのダイヤルアップ・ネットワークのインストール

Windows 98 または Windows Me を使用している場合は、ダイヤルアップ・ネットワーク (DUN) をインストールする必要があります。

ご使用のシステム上で DUN をインストールするには、以下のステップを実行します。

1. 「スタート」をクリックして「設定」を選択します。
2. 「コントロール パネル」をクリックします。
3. 「アプリケーションの追加と削除」をクリックします。
4. 「Windows セットアップ」タブで「通信」を選択します。
5. 「詳細」をクリックします。
6. 「通信」ダイアログ上の「ダイヤルアップ ネットワーク」ボックスがチェックされていることを確認します。
7. 「OK」をクリックします。
8. 「適用」をクリックします。プロンプトが出たところで、Windows セットアップ CD-ROM を挿入してください。
9. 「OK」をクリックして、PC を再始動します。

## リモート・アクセス・サービスのインストールまたは構成 (NT のみ)

構成の計画に従って、確実にリモート・アクセス・サービスをインストールし、セットアップします。リモート・アクセス・サービスのインストールが必要なのは、

Windows NT を使用している場合のみです。たとえリモート・アクセス・サービスをインストールしていなくても、ご使用の構成のために必要なモデムを追加し、構成することになります。

**重要:**

- Windows NT セットアップ CD-ROM を使用できるようにしておく必要があります。
- Windows NT Service Pack をインストールする前に、リモート・アクセス・サービスをインストールする必要があります。

リモート・アクセス・サービスをインストールまたは構成するには、以下のようになります。

1. 以下のようにして、「ネットワーク」フォルダーを開きます。
  - \_\_ a. 「スタート」をクリックして「設定」を選択します。
  - \_\_ b. 「コントロール パネル」をクリックします。
  - \_\_ c. 「ネットワーク」をダブルクリックします。
2. 「サービス」タブをクリックします。
3. 以下のいずれかを行います。
  - リモート・アクセス・サービスがリスト内にある場合は、以下のようになります。
    - a. 「リモート アクセス サービス」を選択し、「プロパティ」をクリックします。
    - b. ステップ 4 に進みます。
  - リモート・アクセス・サービスがリスト内がない場合、以下の指示に従ってインストールしてください。
    - a. ネットワーク・ドライブからインストールするのではなく、Windows NT CD を光ディスク装置 (たとえば、CD-ROM ドライブなど) に入れます。
    - b. 「追加」をクリックします。
    - c. 「リモート アクセス サービス」を選択し、「OK」をクリックします。
    - d. Windows NT ファイルを読み取る元のパスを設定して、「続行」をクリックします。必要なファイルがコピーされたら、「RAS デバイスの追加」ウィンドウが表示されるはずですが、ステップ 4 を読んで、それからステップ 5b を続けます。
4. 表 1 を使用して、オペレーション・コンソールの構成のために、リモート・アクセス・サービスに追加する必要がある正しいモデムを識別します。

**重要:** 構成の要件を満たすために、リモート・アクセス・サービスに複数のモデムを追加しなければならないこともあります。

Windows NT およびリモート・アクセス・サービスをインストールするときなど、特定の状況下では、本当は存在していないモデムをインストールしなければならないことがあります。そのような場合は、オペレーション・コンソールで使用しようとしているいかなるモデムも、前にそのモデムをインストールしてあったとしても、「RAS デバイスの追加」ウィンドウに表示されません。この場合、前にインストールしたモデムをリモート・アクセス・サービスから除去し、その後で「モデム」フォルダーからインストールする必要があります。

これは、モデムが同じポートを使用する可能性があるためです。この方法で、実際に使用するモデムが選択可能になります。リモート・アクセス・サービスでは、同じ COM ポートに複数のモデムを付けることは許していません。

**表 1. Windows NT 用のオペレーション・コンソールの構成用のモデム**

希望の構成	必要なモデム
サーバーに直接接続するローカル・コンソール	AS400 オペレーション・コンソール接続 <sup>1</sup>
リモート・アクセスが許可されているサーバーに直接接続するローカル・コンソール	AS400 オペレーション・コンソール接続 <sup>1</sup> および PC モデム
ダイヤルアップ・サポートを使用するローカル・コンソール	PC モデム
ダイヤルアップ・サポートを使用するリモート・コンソール	PC モデム

**注:** 1. AS400 オペレーション・コンソール接続モデムは物理的なモデムではありませんが、オペレーション・コンソールと同梱されていて、ローカル・コンソールを iSeries サーバーに接続できるようにする論理的なデバイス・ドライバです。これがある場合は、「リモート・アクセス・セットアップ (Remote Access Setup)」ウィンドウに「AS400 オペレーション・コンソール接続 (Operations Console Connection)」と表示されます。

5. 最初のモデムまたは唯一のモデムを追加するには、以下のようにします。
  - a. 「リモート アクセス セットアップ」ウィンドウが表示されている場合は、「追加」をクリックします。
  - b. 「RAS デバイスの追加」ウィンドウでモデムを選択します。
  - c. 「OK」をクリックします。「リモート アクセス セットアップ」ウィンドウが表示されているはずですが。
  - d. 意図した構成にモデムが合っている場合は、ステップ 7 に進みます。
6. 表 1 で、別のモデムを追加する必要があると示されている場合は、以下のようにしてモデムを追加します。
  - a. 「追加」をクリックします。
  - b. 「RAS デバイスの追加」ウィンドウでモデムを選択します。
  - c. 「OK」をクリックします。「リモート アクセス セットアップ」ウィンドウが表示されているはずですが。
7. 「リモート アクセス セットアップ」ウィンドウに「**AS400 オペレーション・コンソール接続 (Operations Console Connection)**」のエントリーがある場合は、以下のようにします。
  - a. 「**AS400 オペレーション・コンソール接続 (Operations Console Connection)**」を選択し、「構成」をクリックします。
  - b. 「ダイヤルアウトのみ」をクリックします。「OK」をクリックします。
  - c. 「ネットワーク」をクリックします。
  - d. 「TCP/IP」を選択します。「OK」をクリックします。
8. 「リモート アクセス セットアップ」ウィンドウに PC モデムがない場合は、ステップ 9 に進みます。「リモート アクセス セットアップ」ウィンドウに PC モデムがある場合は、ステップ 11 に進みます。



9. PC モデムを選択します。そして、「構成」をクリックします。以下のいずれか 1 つ を実行します。

- リモート・コンソールのみを構成するには、「ダイヤルアウトのみ」を選択します。
- ダイヤルアップ・サポートを使用するローカル・コンソールを構成するには、「ダイヤルアウトのみ」を選択します。
- 呼び出しを受信するローカル・コンソール (ダイヤルアップ・サポートを使用するローカル・コンソール) を構成するには、「着信のみ」を選択します。
- 両方として構成するには、「ダイヤルアウトと着信」を選択します。

「OK」をクリックします。

10. ウィンドウの右側で「ネットワーク」をクリックします。以下のいずれか 1 つ を実行します。

- ダイヤルアップ・サポートを使用するリモート・コンソールのみを構成するには、以下ステップに従います。
  - a. 「ダイヤルアウト プロトコル」で「TCP/IP」チェック・ボックスを選択します。
  - b. 「OK」をクリックします。
  - c. ステップ 11 (68 ページ) に進みます。
- ダイヤルアップ・サポートを使用するローカル・コンソールのみを構成するには、以下のステップに従います。
  - a. 「ダイヤルアウト プロトコル」で「TCP/IP」チェック・ボックスを選択します。
  - b. 「OK」をクリックします。
  - c. ステップ 13 に進みます。
- リモート・コンソールからの呼び出しを受信するローカル・コンソールを構成するには、以下の値を選択します。
  - a. 「リモート・クライアントの稼働を許可 (Allow remote clients running)」で「TCP/IP」チェック・ボックスを選択し、その他の項目はクリアします (ユーザー独自の操作で必要にならない限り)。
  - b. 「暗号化設定 (Encryption settings)」で「クリア・テキストを含むすべての認証を許可 (Allow any authentication including clear text)」をクリックします。
  - c. 「構成」(TCP/IP の右側) をクリックします。
  - d. 「リモート TCP/IP クライアントによるアクセスを許可 (Allow remote TCP/IP clients to access) で「このコンピューターのみ (This computer only)」をクリックします。
  - e. 「静的アドレス・プールを使用 (Use Static address pool)」をクリックします。
  - f. 「開始 (Begin)」フィールドにアドレス 192.168.000.005 を入力します。
  - g. 「終了 (End)」フィールドにアドレス 192.168.000.024 を入力します。

- h. 「リモート・クライアントによる事前決定 IP アドレスの要求を許可 (Allow remote clients to request a predetermined IP address)」チェック・ボックスを選択します。
  - i. 「OK」をクリックします。
  - j. 再び、「OK」をクリックします。ステップ 11 に進みます。
- 呼び出しを受信するローカル・コンソールと、リモート・コンソールの両方として構成するには、以下の値を選択します。
    - \_\_ a. 「ダイヤルアウト プロトコル」で「TCP/IP」チェック・ボックスを選択し、その他の項目はクリアします (ユーザー独自の操作で必要にならない限り)。
    - \_\_ b. 「リモート・クライアントの稼働を許可 (Allow remote clients running)」で「TCP/IP」チェック・ボックスを選択し、その他の項目はクリアします (ユーザー独自の操作で必要にならない限り)。
    - \_\_ c. 「暗号化設定 (Encryption settings)」で「クリア・テキストを含むすべての認証を許可 (Allow any authentication including clear text)」をクリックします。
    - \_\_ d. 「構成」(TCP/IP の右側) をクリックします。
    - \_\_ e. 「リモート TCP/IP クライアントによるアクセスを許可 (Allow Remote TCP/IP client to access)」で「このコンピューターのみ (This computer only)」をクリックします。
    - \_\_ f. 「静的アドレス・プールを使用 (Use Static address pool)」をクリックします。
    - \_\_ g. 「開始 (Begin)」フィールドにアドレス 192.168.000.005 を入力します。
    - \_\_ h. 「終了 (End)」フィールドにアドレス 192.168.000.024 を入力します。
    - \_\_ i. 「リモート・クライアントによる事前決定 IP アドレスの要求を許可 (Allow remote clients to request a predetermined IP address)」チェック・ボックスを選択します。
    - \_\_ j. 「OK」をクリックします。
    - \_\_ k. 再び、「OK」をクリックします。
11. セットアップを完成させるために、以下のことを実行します。
- a. 「続行」をクリックします。
  - b. 「PC にネットワーク・アダプターがインストールされていない (PC does not have a network adapter installed)」というメッセージが表示された場合、「OK」をクリックします。
  - c. 「リモート・アクセス・サービスが正常にインストールされた (Remote Access Service has been successfully installed)」というメッセージが表示された場合、「OK」をクリックします。  
このメッセージは、すべてのインストールで表示されるわけではありません。
  - d. 「閉じる」をクリックします。
  - e. 「はい」をクリックして、再始動します。

12. Microsoft Service Pack のインストールを、続けて行います。

## Microsoft Service Pack のインストール

リモート・アクセス・サービスをインストールまたは再インストールするたびに、Windows NT Service Pack 6 (最低レベルで) をインストールする必要があります。Service Pack をインストールしてからオペレーション・コンソールを使用してください。

Service Pack が必要で、インターネット機能がある場合は、

<http://www.microsoft.com> から最新の Service Pack をダウンロードしてください。そうでない場合は、Microsoft に連絡して、最新アップデートを入手してください。

## ダイヤルアップを使用するローカル・コンソールのためのサーバーのセットアップ

このタスクは、ダイヤルアップ・サポートを使用してローカル・コンソールを構成する場合にのみ実行してください。

iSeries サーバーに、有効なモデムが接続されている必要があります。通常は、これはエレクトロニック支援モデムです。サポートされるタイプは、7852-400、7855-10、7857-017、および 2771 です。

すでにコンソール装置がある場合は、それを使用することができます。まだない場合は、別のコンソール (以下のようなもの) を一時的に接続する必要があります。

- 平衡型接続のコンソール
- ローカルに接続されたオペレーション・コンソール (オペレーション・コンソール・ケーブルが使用可能な場合)

サーバーを構成するには、以下のことを実行してください。

1. 専用保守ツール (DST) にアクセスします。この環境で変更を行うためには、権限が必要です。
2. エレクトロニック支援ケーブルのプラグを、オペレーション・コンソール・ケーブルで使用するのと同じポートに差し込みます。詳しくは、『オペレーション・コンソール・ケーブルのインストール』を参照してください。
3. 2771 内蔵モデムを使用している場合は、コンソールを接続する前に、必ず電話線を接続しておいてください。

このタスクを完了した後、ダイヤルアップを使用するローカル・コンソールの構成のために、以下のことを実行する必要があります。

### オペレーション・コンソールのための正しいモデムの選択

ダイヤルアップ・サポートを使用するローカル・コンソールの構成のために、サーバーで正しいモデムを選択するには、この指示に従ってください。

### コンソール装置としてのオペレーション・コンソールの選択

ダイヤルアップ・サポートを使用するローカル・コンソールのために、コンソール装置としてオペレーション・コンソールを選択するには、この指示に従ってください。

### モデムの構成

必要な場合に、ダイヤルアップ・サポートを使用するローカル・コンソールの構成のためにモデムを構成するには、この指示に従ってください。

## オペレーション・コンソールのための正しいモデムの選択

このタスクは、ダイヤルアップ・サポートを使用してローカル・コンソールを構成する場合にのみ実行してください。正しいモデムを選択する前に、コンソールを接続するモデムを選択するために、ダイヤルアップ・サポートを使用するローカル・コンソールのためのサーバーのセットアップが必要です。

ご使用の iSeries サーバーのために、正しいモデムを選択します。

1. 専用保守ツール (DST) にアクセスします。
2. 「リモート・サービス・サポートの作業 (Work with remote service support)」を選択します。
3. 「保守属性の変更 (Change service attributes)」を選択します。
4. 「モデム・タイプ (Modem Type)」フィールドで、使用したいモデムを選択します。

オプション 9 (「その他 (Other)」) を選択した場合は、「その他のモデムの初期設定ストリング (Other modem initialization string)」フィールドが使用可能になります。このフィールドには、相手先商標製造会社 (OEM) モデムのための特殊なストリングを入力することができます。「その他のモデムの初期設定ストリング」フィールドに入力されたデータは、モデム・タイプとしてオプション 9 (「その他 (Other)」) を選択しない限り使用されません。

### 重要:

- OEM モデム用に、正しい初期設定ストリングを判別する必要があります。初期設定ストリングの判別については、『モデムの初期化および構成』を参照してください。
  - モデムにストリング・データを送信する前に、OEM モデムが非同期モードになっていなければなりません。
5. DST のメインメニューが表示されるまで、PF3 キーを押します。

このタスクを完了した後、ダイヤルアップを使用するローカル・コンソールの構成のために、以下のことを実行する必要があります。

### コンソール装置としてのオペレーション・コンソールの選択

ダイヤルアップ・サポートを使用するローカル・コンソールのために、コンソール装置としてオペレーション・コンソールを選択するには、この指示に従ってください。

### モデムの構成

ダイヤルアップ・サポートを使用するローカル・コンソールの構成のために、モデムを構成するには、この指示に従ってください。

## コンソール装置としてのオペレーション・コンソールの選択

ダイヤルアップ・サポートを使用するローカル・コンソールのために、コンソール装置としてオペレーション・コンソールを選択するには、この指示に従ってください。

1. 専用保守ツール (DST) にアクセスします。
2. 「**DST 環境の処理**」を選択します。
3. 「**システム装置 (System devices)**」を選択します。
4. 「**コンソール・モード (Console mode)**」を選択します。
5. 「**オペレーション・コンソール (直接) (Operations Console (direct))**」を選択します。

**重要:** たとえ 2 が既に選択されていても、必ず 2 と入力して Enter を押してください。これによって、強制的に値が書き込みされます。

6. DST のメインメニューが表示されるまで、PF3 を押します。

この時点では、オペレーション・コンソールは、ローカルに接続されたコンソールを必要としません。ダイヤルアップ・サポートを使用するローカル・コンソールがサーバーに接続できるようにするには、システムの電源を切って、サーバーに直接接続されたローカル・コンソールを切断する必要があります。以下のステップに従ってください。

1. 「**保守ツールの開始 (Start a service tool)**」を選択します。
2. 「**オペレーター・パネル機能 (Operator panel functions)**」を選択します。
3. 電源を切り、初期プログラム・ロード (IPL) を行うために、必要なオプションを選択して、該当する PF ファンクション・キーを押します。
4. 電源を切り、iSeries サーバーを再始動したいということを確認するために、Enter を押します。

**注:** システムの電源が完全に切れた後で、直接接続されたコンソール装置を取り外してください。そして、通常モードで IPL を実行し、ユーザーがシステムにアクセスできるようにします。

このタスクを完了した後、ダイヤルアップを使用するローカル・コンソールの構成のために、モデムの構成を行う必要があります。

## モデムの構成

サーバーが現在、7852-400、7855-10、7857-017、あるいは内蔵の 2771 または 2793 モデムを使用している場合、回線が活動化されると、必要に応じて、自動的にモデムが正しいモードに切り替わります。サーバーが上記以外のモデム・タイプを使用している場合は、モデム・タイプに「**その他 (Other)**」と指定します。また、可能であれば、オペレーション・コンソールをサポートする方法で通信回線を活動化できるようにするための、初期設定ストリングを提供してください。

サーバーは、以下のモデムのいずれかを使用します。

- **7852:** 構成スイッチが片側にあります。このモデムは自動的に同期接続を使用し、スイッチを変更せずに非同期モードに設定することもできます。このモデム構成に関しては、変更を行う必要がありません。
- **7855:** モデムの前面のボタンを使用して構成することができます。このモデムも自動的に同期接続を使用し、介入なしで非同期モードに切り替えることができます。このモデム構成に関しては、変更を行う必要がありません。

- **7857:** モデムの前面のボタンを使用して構成することができます。このモデムも自動的に同期接続を使用し、介入なしで非同期モードに切り替えることができます。しかし、このモデムを接続しようとするたびに、追加の構成を実行しなければなりません。
- **2771 または 2793:** このアダプター・カードには非同期モデムが内蔵されており、構成は必要ありません。

7857 モデムを接続用に構成するには、以下のようにします。

1. C106 (CTS) U11 が表示されるまで、上矢印キーを 11 回押します。
2. C106 Always follows C105 が表示されるまで、右矢印キーを 3 回押します。
3. Enter キーを 2 回押します。
4. これで、送信可 (CTS) ライトが点灯するはずですが。

**重要:** 通信回線を活動化する前に、ライトを検査してください。

iSeries の通信回線を活動化する前に、このステップを実行しなければなりません。通信回線の活動化に失敗した場合は、再度このステップを実行する必要があります。このステップは、2 回以上実行する必要があるかもしれません。

モデムの構成について詳しくは、『モデムの初期化および構成』を参照してください。

**モデムの初期化および構成:** このセクションは、ダイヤルアップ・サポート環境を使用するローカル・コンソールで作動する、モデムの初期設定ストリングを変更する際に役立ちます。また、接続の iSeries サイドの、相手先商標製造会社 (OEM) モデムのために、作動可能なストリングを検出する際にも役立ちます。

詳しくは、以下を参照してください。

- **OEM モデムの初期設定ストリングの判別**
- **iSeries サーバーおよび PC のモデム初期設定ストリング**
- **同期使用のためのモデムのリセット**
- **非同期使用のためのモデムのリセット**

**OEM モデムの初期設定ストリングの判別:** このセクションは、OEM モデムのための適切な初期設定ストリングを判別するのに役立ちます。

OEM モデムを使用する予定である場合、初期設定ストリングを判別するのに試行錯誤のアプローチが必要となることがあります。モデム初期設定ストリング・コマンドおよびそれらの意味が、そのモデムでは適切ではないかもしれません。比較可能な機能を判別するには、そのモデム・メーカーが提供している資料を参照してください。

**ヒント:** 初期設定ストリングを判別するには、AT コマンドを送信するだけ、といった基本操作を始めてください。おそらく接続データは交換されていないか、大部分のモデムが肯定応答を戻し、回線を活動化します。一度に 1 つまたは 2 つのコマンドを追加し、その試行の間に回線を非活動化します。実際のデータ接続をサポートするのに十分なコマンドを追加したと判断したとき、ご使用の iSeries にできるだけ近い、ダイヤルアップ・サポートを使用するローカル・コンソールとして、PC セットアップを使ってテストします。これによって、接続の両側をモニターでき、初期設定ストリングをより適切にデバッグすることができます。

**iSeries サーバーおよび PC のモデム初期設定ストリング:** このセクションには、ご使用のモデム・タイプに従って、ご使用の iSeries サーバーおよび PC に合うように、モデム初期設定ストリングを変更するための説明が記載されています。IBM がサポートするモデム・タイプ (7852、7855、および 7857) のストリング、および OEM モデムのストリングを、下記にリストします。

**重要:** ダイヤルアップを使用するローカル・コンソールの構成で、iSeries に接続する際に問題が発生した場合は、PC モデムが折衝を行うための、適切な初期設定ストリングを追加しなければならない可能性があります。9600 bps でしか接続できない場合もあります。初期設定ストリングはモデムによって決り、使用しているモデムのタイプおよびモデルによって異なります。

ご使用のモデムに関しては、以下の初期設定ストリングを参照してください。

- **7852**
- **7855**
- **7857**

ご使用の OEM モデムに関しては、以下の初期設定ストリングを参照してください。

- **ZOOM**
- **Intel 144e FaxModem**
- **USRobotics Sportster 28.8**
- **その他の OEM モデム**

**7852 の初期設定ストリング:** 7852-400 モデムの、iSeries システム用の初期設定ストリングは以下のとおりです。

```
AT&FE0M0X2S0=2
AT - ATTENTION
&F - LOAD FACTORY SET (SWITCH SET TO SYNC)
E0 - DISABLE ECHO
M0 - DISABLE SPEAKER
X2 - CHECK FOR DIAL TONE BEFORE DIALING
S0 = 2 SPECIFIES ANSWER ON SECOND RING
```

7852-400 モデムの、PC 用の初期設定ストリングは以下のとおりです。

```
AT&FE0M0X2$BA1&W0$MB9600S0=0
AT - ATTENTION
&F - LOAD FACTORY SET (SWITCH SET TO SYNC)
E0 - DISABLE ECHO
M0 - DISABLE SPEAKER
X2 - CHECK FOR DIAL TONE BEFORE DIALING
$BA1&W0 - TURN OFF SPEED CONVERSION
$MB9600 - CONNECT AT 9600 ONLY
S0 = 0 SPECIFIES NO AUTO ANSWER
```

**7855 の初期設定ストリング:** 7855-10 モデムの、iSeries システム用の初期設定ストリングは以下のとおりです。

```
AT&F1&C1E0M0V1X4&S1S0=2¥R2¥Q2
AT - ATTENTION
&F1 - LOAD FACTORY ASYNC SETTINGS
&C1 - CD ON ONLY WHEN CONNECTED
E0 - DISABLE ECHO
M0 - DISABLE SPEAKER
V1 - RESULT CODES ARE WORDS
```

X4 - DETECT DIAL TONE AND BUSY  
&S1 - DSR FOLLOWS CD  
S0 = 2 SPECIFIES ANSWER ON SECOND RING  
¥R2 - DTE USES RTS  
¥Q2 - MODEM USES RFS

7855-10 モデムの、PC 用の初期設定ストリングは以下のとおりです。

```
AT&F1&C1E0M0V1X4S0=0¥R2¥Q2
AT - ATTENTION
&F1 - LOAD FACTORY ASYNC SETTINGS
&C1 - CD ON ONLY WHEN CONNECTED
E0 - DISABLE ECHO
M0 - DISABLE SPEAKER
V1 - RESULT CODES ARE WORDS
X4 - DETECT DIAL TONE AND BUSY
S0 = 0 SPECIFIES NO AUTO ANSWER
¥R2 - DTE USES RTS
¥Q2 - MODEM USES RFS
```

**7857 の初期設定ストリング:** 7857-017 モデムの、iSeries システム用の初期設定ストリングは以下のとおりです。

```
AT&F0&C1E0M0V1X2S0=2&K2&U4&D2*I8
AT - ATTENTION
&F0 - LOAD FACTORY ASYNC SETTINGS
&C1 - DSR&CD IN NORMAL MODE
E0 - DISABLE ECHO
M0 - DISABLE SPEAKER
V1 - RESULT CODES ARE WORDS
S0 = 2 ANSWER ON SECOND RING
&D2 - RETURN MODEM TO COMMAND MODE WHEN THE LINE DROPS
*I8 - USE 9600 BPS DTE ONLY (important for internal port speed)
```

7857-017 モデムの、PC 用の初期設定ストリングは以下のとおりです。

```
AT&F0&C1E0M0V1X2S0=0&K2&U4&D2F8*I8&E2
AT - ATTENTION
&F0 - LOAD FACTORY ASYNC SETTINGS
&C1 - DSR&CD IN NORMAL MODE
E0 - DISABLE ECHO
M0 - DISABLE SPEAKER
V1 - RESULT CODES ARE WORDS
S0 = 0 NO AUTO ANSWER
&K2 - USE CTS(C106) DTE FLOW CONTROL
&U4 - USE RTS(C105) DATA FLOW CONTROL
&D2 - DROP LINE WHEN DTR GOES OFF
F8 - USE 9600 BPS ONLY
*I8 - USE 9600 BPS ONLY
&E2 - USE ERROR CORRECTION
```

**ZOOM の初期設定ストリング:** ZOOM VFXV32BIS の、iSeries システム用の初期設定ストリングは以下のとおりです。

```
AT&FE0M0S0=2&C1&D2&K3&S1
AT - ATTENTION
&F - LOAD FACTORY ASYNC SETTINGS
E0 - DISABLE ECHO
M0 - DISABLE SPEAKER
S0 = 0 NO AUTO ANSWER
&C1 - CD ON ONLY WHEN CONNECTED
&D2 - DTR GOING OFF DROPS LINE AND TURNS OFF AUTO ANSWER
&K3 - USE RTS/CTS FLOW CONTROL
&S1 - DSR FOLLOWS CD
```



ZOOM VFXV32BIS の、PC 用の初期設定ストリングは以下のとおりです。

```
AT&F&C1E0M0S0=0&D2&K3N0S37=9
AT - ATTENTION
&F - LOAD FACTORY ASYNC SETTINGS
&C1 - CD ON ONLY WHEN CONNECTED
E0 - DISABLE ECHO
M0 - DISABLE SPEAKER
S0 = 0 NO AUTO ANSWER
&D2 - DTR GOING OFF DROPS LINE AND TURNS OFF AUTO ANSWER
&K3 - USE RTS/CTS FLOW CONTROL
N0 - USE S37 REGISTER FOR SPEED
S37 = 9 - CONNECT AT 9600 ONLY
```

**Intel 144e FaxModem の初期設定ストリング:** Intel 144e FaxModem の、iSeries システム用の初期設定ストリングは以下のとおりです。

```
AT&F&C1E0M0V1X4F8S0=2
```

Intel 144e FaxModem の、PC 用の初期設定ストリングは以下のとおりです。

```
AT&F&C1E0M0V1X4F8S0=0
```

**USRobotics Sportster 28.8 の初期設定ストリング:** USRobotics Sportster 28.8 の、iSeries システム用の初期設定ストリングは以下のとおりです。

```
AT&FE0M0S0=2&N6
```

USRobotics Sportster 28.8 の、PC 用の初期設定ストリングは以下のとおりです。

```
AT&FE0M0S0=0&N6
```

**その他の OEM モデムの初期設定ストリング:** その他の OEM モデムの場合は、7852 の初期設定ストリングを使用してみてください。これは、大部分の非同期専用 OEM モデムで作動するはずですが、以下の基本ストリングを試してみることもできます。

```
AT&FnS0=N
```

(この n および N は数値で、S0=N の N は、iSeries にのみ適用されるもので、モデムが呼び出しに答えるまでの呼び出し音の数を表します。)

基本ストリングを使用する際は、&F が、リモート環境ではサポートされないオプションを使用していないことを確認してください。&F が作動するかどうかを確認するために、すべての &F 選択を試す必要がある場合があります。

**同期使用のためのモデムのリセット:** このセクションには、7855、7857、および 7852 モデムをエレクトロニック支援で使用するためにリセットするための説明があります。

同期使用のために **7855** モデムをリセットするには、以下のステップに従ってください。

1. Exit Enter が表示されるまで、右矢印ボタンと左矢印ボタンを同時に押しします。
2. 右矢印ボタンを押します。
3. First Setup が表示されるまで、下矢印ボタンを押します。
4. 右矢印ボタンを押します。
5. Reset to Factory が表示されるまで、下矢印ボタンを押します。

6. 右矢印ボタンを押します。
7. Profiles Only で左矢印ボタンを押します。ライトが短く点灯し、First Setup に戻ります。
8. 左矢印ボタンを押すと、Exit Enter が表示されます。
9. 左矢印ボタンを押すと、Remain Unlocked が表示されます。
10. 左矢印ボタンを押すと、Save Profile 0 が表示されます。
11. 左矢印ボタンを押すと、構成変更が完了します。

同期使用のために **7857** モデムをリセットするには、以下のステップに従ってください。

1. Configurations が表示されるまで、下矢印ボタンを押します。
2. 右矢印ボタンを押すと、最後の行に Select Factory が表示されます。
3. Enter ボタンを押すと、underscore が表示されます。
4. 3 が表示されるまで、上矢印ボタンを押します。この時点で、3 がカーソルの代替を開始します。
5. Enter ボタンを押すと、IBM 7857 V25BIS aa が表示されます。

同期使用または非同期使用のために **7852** モデムをリセットするには、以下のスイッチ設定にします。

```
1          16
UUDDUUDDUDDUUUUU
```

(ここで、U= 上げる、D= 下げる)

**非同期使用のためのモデムのリセット:** このセクションには、非同期使用のために 7855、7857、および 7852 モデムをリセットするための説明があります。

非同期使用のために **7855** モデムをリセットするには、以下のステップに従ってください。

1. Exit Enter が表示されるまで、右矢印ボタンと左矢印ボタンを同時に押します。
2. 右矢印ボタンを押します。
3. First Setup が表示されるまで、下矢印ボタンを押します。
4. 右矢印ボタンを押します。
5. Reset to Factory が表示されるまで、下矢印ボタンを押します。
6. 右矢印ボタンを押します。
7. Profiles Only で左矢印ボタンを押します。ライトが短く点灯し、First Setup に戻ります。
8. 右矢印ボタンを押します。
9. Asynchronous AT が表示されるまで、下矢印ボタンを押します。
10. 左矢印ボタンを押すと、First Setup が表示されます。
11. 右矢印ボタンを押します。
12. Power on Profile が表示されるまで、下矢印ボタンを押します。
13. 右矢印ボタンを押すと、Profile NVM 0 が表示されます。
14. 下矢印ボタンを押すと、Profile NVM 1 が表示されます。

15. 左矢印ボタンを押すと、First Setup が表示されます。
16. 左矢印ボタンを押すと、Exit Enter が表示されます。
17. 左矢印ボタンを押すと、Remain Unlocked が表示されます。
18. 左矢印ボタンを押すと、Save Profile 0 が表示されます。
19. 左矢印ボタンを押すと、ASYN8N A 9600 a が表示されます。

非同期使用のために **7857** モデムをリセットするには、以下のステップに従ってください。

1. Configurations が表示されるまで、下矢印ボタンを押します。
2. 右矢印ボタンを押すと、最後の行に Select Factory が表示されます。
3. Enter ボタンを押すと、underscore が表示されます。
4. 0 が表示されるまで、上矢印ボタンを押します。0 が表示された後、0 とカーソルが交互に表示されます。
5. Enter ボタンを押すと、IBM 7857 AT CMD aa が表示されます。

非同期のためにのみ **7852** モデムをリセットするには、以下のスイッチ設定にします。

```
1          16
UUDDUUDDUUUU
```

(ここで、U= 上げる、D= 下げる)

## リモート・アクセスの認可

リモート・コンソールがローカル・コンソールにアクセスできるようにするためには、リモート・アクセスを認可する必要があります。

### Windows NT 用のリモート・アクセスの認可

Windows NT を稼働している場合にリモート・アクセスを認可するには、この指示に従ってください。

### Windows 2000 用のリモート・アクセスの認可

Windows 2000 を稼働している場合にリモート・アクセスを認可するには、この指示に従ってください。

### Windows XP 用のリモート・アクセスの認可

Windows XP を稼働している場合にリモート・アクセスを認可するには、この指示に従ってください。

## Windows NT 用のリモート・アクセスの認可

Windows NT の「ユーザー マネージャ」を使用してリモート・アクセスを認可するには、以下のようにします。

1. 「スタート」をクリックします。
2. 「プログラム」を選択します。
3. 「管理ツール」を選択します。
4. 「ユーザー マネージャ」を選択します。

5. 「ユーザー マネージャ」で、「ユーザー」メニューから「新しいユーザー」を選択し、ユーザー名とパスワード情報を入力するか、あるいは、認可したいユーザーが既に定義されている場合はそのユーザーをダブルクリックします。
6. 「ユーザーのプロパティ」ダイアログで、「ダイヤルイン」をクリックします。
7. 「ユーザーにダイヤルインのアクセス許可を与える」を選択します。
8. 「OK」を 2 回クリックします。

### Windows 2000 用のリモート・アクセスの認可

Windows 2000 の「着信接続」を使用してリモート・アクセスを認可するには、以下のようにします。

1. 「スタート」をクリックします。
2. 「設定」を選択します。
3. 「コントロール パネル」を選択します。
4. 「ネットワークとダイヤルアップ接続」を選択します。

注: 「着信接続」がない場合は、インストールしなければなりません。詳しくは、『着信接続の作成および構成』を参照してください。

5. 「着信接続」をクリックします。
6. 「ユーザー」タブをクリックします。
7. 「接続を許可するユーザー」フィールドで、リモート・アクセスを認可したいユーザー ID の隣りのチェック・ボックスを選択します。

### Windows XP 用のリモート・アクセスの認可

Windows XP の「着信接続のプロパティ」を使用してリモート・アクセスを認可するには、以下のようにします。

1. 「スタート」をクリックします。
2. 「設定」を選択します。
3. 「コントロール パネル」を選択します。
4. 「ネットワークとダイヤルアップ接続」を選択します。

注: 着信接続がない場合は、インストールしなければなりません。詳しくは、『着信接続の作成および構成』を参照してください。

5. 「着信接続のプロパティ」をクリックします。
6. 「接続を許可するユーザー」フィールドで、リモート・アクセスを認可したいユーザー ID の隣りのチェック・ボックスを選択します。

## 着信接続の作成および構成

「着信接続」を作成し、構成する必要があります。

### Windows 2000 用の着信接続の作成および構成

Windows 2000 用の着信接続を作成し、構成するには、この指示に従ってください。

## Windows XP 用の着信接続の作成および構成

Windows XP 用の着信接続を作成し、構成するには、この指示に従ってください。

## Windows 2000 用の着信接続の作成および構成

Windows 2000 用の着信接続を作成および構成するには、以下のステップを実行します。

1. 「スタート」 → 「設定」 → 「コントロール パネル」 をクリックします。
2. 「ネットワークとダイヤルアップ接続」 を選択します。
3. 「新しい接続の作成」 をクリックします。「ネットワークの接続ウィザードの開始」 ウィンドウが表示されます。
4. 「次へ」 をクリックします。
5. 「着信接続を受け付ける」 をクリックします。「次へ」 をクリックします。
6. リモート・コンソールからの呼び出しを受信させたい PC モデムのチェック・ボックスを選択します。

オペレーション・コンソール接続のチェック・ボックスが選択されていないことを確認してください。その他のチェック・ボックスが選択されている場合は、それらを変更しないでください。

「次へ」 をクリックします。

7. 「仮想プライベート接続を許可しない」 をクリックします。

**注:** 仮想プライベート・ネットワーク (VPN) がある場合は、このチェック・ボックスにチェックしないでください。

「次へ」 をクリックします。

8. ローカル・コンソールにダイヤルインするユーザーを選択または追加します。「次へ」 をクリックします。
9. 「インターネット プロトコル (TCP/IP)」 チェック・ボックスを選択します (必要な場合)。そして、「プロパティ」 をクリックします。
10. 「呼び出し元にローカル エリア ネットワークへのアクセスを認める」 チェック・ボックスが選択されていることを確認します。
11. ネットワークで動的ホスト構成プロトコル (DHCP) を使用している場合は、「DHCP を使って自動的に TCP/IP アドレスを割り当てる」 をクリックします。そして、次のステップに進みます。ネットワークで DHCP を使用していない場合は、「TCP/IP アドレスを指定する」 をクリックします。そして、アドレスを指定するために以下のことを実行します。
  - a. 「開始アドレス」 フィールドにアドレス 192.168.0.5 を入力します。
  - b. 「終了アドレス」 フィールドにアドレス 192.168.0.24 を入力します。
  - c. 「合計 (Total)」 フィールドに 20 が表示されます。
12. 「呼び出し元のコンピューターが自分の IP アドレスを指定できる」 チェック・ボックスを選択します。そして、「OK」 をクリックします。
13. 「次へ」 をクリックします。
14. 「完了」 をクリックして、着信接続を保管します。

## Windows XP 用の着信接続の作成および構成

Windows 2000 用の着信接続を作成および構成するには、以下のステップを実行します。

1. 「スタート」 → 「設定」 → 「ネットワーク接続」をクリックします。
2. 「新しい接続ウィザード」をクリックします。「ネットワークの接続ウィザードの開始」ウィンドウが表示されます。
3. 「次へ」をクリックします。
4. 「詳細接続をセットアップする」をクリックします。「次へ」をクリックします。
5. 「着信接続を受け付ける」をクリックします。「次へ」をクリックします。
6. リモート・コンソールからの呼び出しを受信させたい PC モデムのチェック・ボックスを選択します。

AS400 オペレーション・コンソール接続のチェック・ボックスが選択されていないことを確認してください。その他のチェック・ボックスが選択されている場合は、それらを変更しないでください。

「次へ」をクリックします。

7. 「仮想プライベート接続を許可しない」をクリックします。

注: 仮想プライベート・ネットワーク (VPN) がある場合は、このチェック・ボックスにチェックしないでください。

「次へ」をクリックします。

8. ローカル・コンソールにダイヤルインするユーザーを選択または追加します。「次へ」をクリックします。
9. 「インターネット プロトコル (TCP/IP)」チェック・ボックスを選択します (必要な場合)。そして、「プロパティ」をクリックします。
10. 「呼び出し元にローカル エリア ネットワークへのアクセスを認める」チェック・ボックスが選択されていることを確認します。
11. ネットワークで動的ホスト構成プロトコル (DHCP) を使用している場合は、「DHCP を使って自動的に TCP/IP アドレスを割り当てる」をクリックします。そして、次のステップに進みます。ネットワークで DHCP を使用していない場合は、「TCP/IP アドレスを指定する」をクリックします。そして、アドレスを指定するために以下のことを実行します。
  - a. 「開始アドレス」フィールドにアドレス 192.168.0.5 を入力します。
  - b. 「終了アドレス」フィールドにアドレス 192.168.0.24 を入力します。
  - c. 「合計 (Total)」フィールドに 20 が表示されます。
12. 「呼び出し元のコンピューターが自分の IP アドレスを指定できる」チェック・ボックスを選択します。そして、「OK」をクリックします。
13. 「次へ」をクリックします。
14. 「完了」をクリックして、着信接続を保管します。

## オペレーション・コンソール・ケーブルのインストール

ご使用のサーバーに応じて、オペレーション・コンソール・ケーブル、リモート・コントロール・パネル・ケーブル、あるいはその両方をインストールまたは取り外

しする必要があるかもしれません。ケーブルは、サーバーに直接接続するローカル・コンソール、またはリモート・アクセスが許可された構成を持つサーバーに直接接続するローカル・コンソールの場合にのみ必要です。並列リモート・コントロール・パネル・ケーブルは、もう販売していません。並列リモート・コントロール・パネルの代替として推奨されているのが、仮想制御パネルです。詳しくは、『制御パネル』を参照してください。

コンソール装置を変更している場合、サーバー値 **QAUTOCFG** を「ON」に設定しておかなければなりません。サーバーでこのシステム値を検査または設定するには、以下のいずれかを使用します。

- **WRKSYSVAL QAUTOCFG OS/400** コマンドを使用します。
- 手動 IPL 時に、「IPL オプション (IPL Options)」ウィンドウで、「**主要なシステム・オプションの設定 (Set major system options)**」に対して「**Y**」を選択します。また、「**自動構成の使用可能化 (Enable automatic configuration)**」に対して「**Y**」を選択します。

製品に変更を加える前に、『危険の注記』に記載された情報を必ず読んでください。

**重要:** サーバーの電源は切れていることが前提です。指示があるまで、iSeries サーバーの電源を入れないでください。

**注:** また、PC、サーバー、あるいはその両方から 1 本以上のケーブルを取り外している場合にも、以下の指示に従うことができます。

システム装置に接続する、パーソナル・コンピューターをセットアップしてある場合は、以下のようにします。

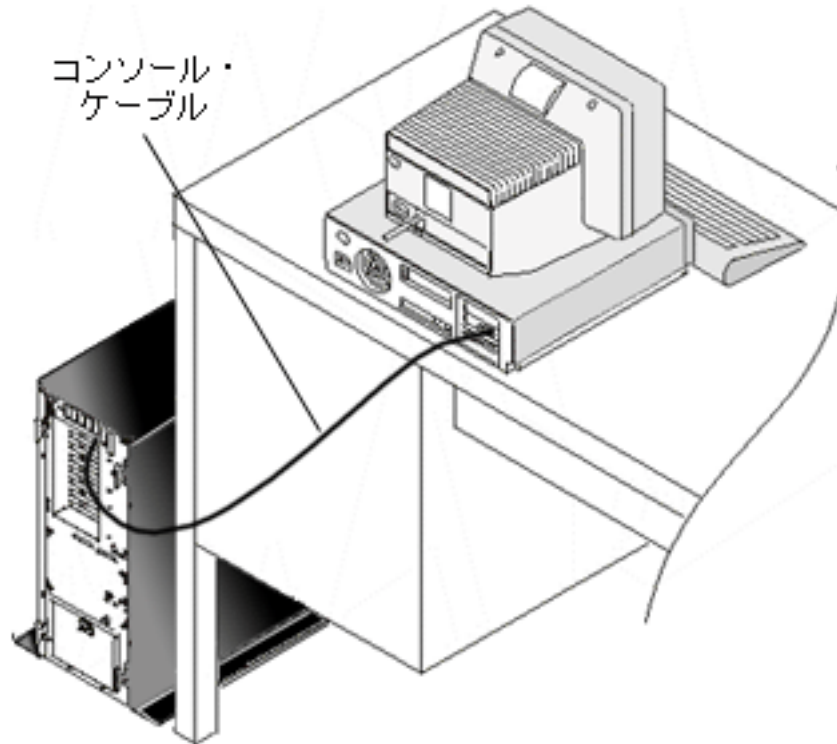
1. すべての PC の電源を切ります。
2. すべての PC の電源コードをコンセントから抜きます。

システム・コンソールとして使用する予定の PC をセットアップしていない場合は、以下のようにします。

1. PC は、システム装置から 6 メートル以上離さないように設置します。
2. PC に付属している説明に従って、PC をセットアップします。
3. すべての PC の電源を切ります。
4. すべての PC の電源コードをコンセントから抜きます。

コンソール機能 (iSeries サーバーに対する 5250 エミュレーションまたはコマンド・インターフェース) を使用したい場合は、オペレーション・コンソール・ケーブルをインストールする必要があります。コンソール機能を使用し、かつリモート・コントロール・パネル機能も使用したい場合は、オペレーション・コンソール・ケーブルおよびリモート・コントロール・パネル・ケーブルをインストールする必要があります。

この図は、システム装置、コンソール (PC)、およびオペレーション・コンソール・ケーブルの概要図です。この概要図は、一般的なセットアップを示しています。ポートの位置およびポート番号は、ご使用のシステムおよび構成によって異なります。



各サーバー・モデルごとに、ケーブルをインストールするための説明および図が記載されたケーブル配線ポスターが利用可能です。以下のリストから、ご使用のサーバーを選択してください。

- モデル 250
- モデル 270
- モデル 600/700
- モデル 810
- モデル 820
- モデル 825
- モデル 870/890

## PC 上でのオペレーション・コンソールの構成

オペレーション・コンソールの計画およびオペレーション・コンソール・チェックリストのセットアップを完了した時点で、オペレーション・コンソール構成ウィザードを開始する準備が整ったこととなります。ウィザードにアクセスするには、以下のようにします。

1. 「スタート」をクリックします。
2. 「プログラム」を選択します。
3. 「iSeries Access for Windows」を選択します。
4. 「オペレーション・コンソール」を選択します。

注: オペレーション・コンソールが表示されていない場合は、iSeries Access for Windows の選択セットアップを実行する必要があります。「スタート」



→「プログラム」→「IBM iSeries Access for Windows」→「選択セットアップ (Selective Setup)」をクリックします。

ウィザードが、コンソール接続パネルを開始します。

構成が完了しました。接続の準備ができました。「完了」をクリックして、オペレーション・コンソールでの作業を開始してください。ウィザードがコンソール接続を起動します。接続名をハイライトして、以下のいずれかの方法を使用して接続を開始してください。

1. 接続名を右マウス・ボタン・クリックし、「接続」を選択します。
2. ツールバーにある接続のアイコンをクリックします。
3. 接続のドロップダウンをクリックして、「接続」を選択します。

**注:** コンソールを接続するには、サーバーの電源をオンにする必要があります。

オペレーション・コンソールの使用に関するオンライン・ヘルプを参照するには、「オペレーション・コンソール」ウィンドウの「ヘルプ」メニューから「ヘルプ」を選択してください。



---

## 第 5 章 オペレーション・コンソールの管理

オペレーション・コンソールの計画および接続のセットアップが完了した後は、ローカルおよびリモートのコンソール接続を管理するために便利なオプションを使用することができます。

次のトピックは、構成を管理するときに実行する必要があるタスクを、正常に完了させるために役立ちます。

### コンソール構成の管理

保守タスクを使用して、ローカル・コンソールおよびリモート・コンソールを管理します。

### 複数コンソールの管理

同一のサーバーや区画にある複数のコンソールを管理します。

### ネットワーク上のローカル・コンソールの管理

PC およびサーバー上でローカル・コンソールのネットワーク接続パスワードを管理します。

---

## コンソール構成の管理

次のタスクを通じて、ローカル・コンソール構成およびリモート・コンソール構成を管理します。

### コンソール構成の変更

これらの説明を使用して、コンソール構成を変更します。

### コンソール構成の削除

これらの説明を使用して、コンソール構成を削除します。

### ローカル・コンソールをサーバーに接続

これらの説明を使用して、ローカル・コンソールをサーバーに接続します。

### サーバーに直接接続するローカル・コンソールの接続

これらの説明を使用して、サーバーに直接接続するローカル・コンソールの接続を行います。

### モデム経由で、リモート・コンソールをローカル・コンソールに接続

これらの説明を使用して、モデム経由でリモート・コンソールをローカル・コンソールに接続します。

### ユーザー間の制御タスク

これらのトピックを使用して、ローカル・コンソール間またはリモート・コンソール間の制御を管理します。

### キーボード定義の変更

これらの説明を使用して、キーボード定義を変更します。

### 手動 IPL を使用したシステムの始動

これらの説明を使用して、手動 IPL によりシステムを始動します。

### サーバーの通信回線の活動化

これらの説明を使用して、サーバーの通信回線を活動化します。

### サーバーの通信回線の非活動化

これらの説明を使用して、サーバーの通信回線を非活動化します。

### サーバーのダイヤル呼び出し

これらの説明を使用して、ダイヤルアップ・サポートを経由で、ローカル・コンソールからサーバーにダイヤルします。

## コンソール構成の変更

オペレーション・コンソールの使用中、特定の要求に対応するために、既存ローカル・コンソールまたはリモート・コンソールを変更する必要がある場合があります。ローカル・コンソールを変更または作成するには、管理者グループのメンバーでなければなりません。システム名を変更する場合、構成を削除して、新しい名前で作成を再作成しなければなりません。

### ローカル・コンソールの変更

既存のローカル・コンソールを変更するには、次のステップに従います。

1. ローカル・コンソールがサーバーに接続している場合は、次のようにして切断します。接続していない場合は、ステップ 2 に進みます。
  - a. ローカル・コンソールに制御権がない場合、次のようにして制御権を要求します。制御権がある場合は、ステップ 1b に進みます。
    - 1) 「オペレーション・コンソール (Operations Console)」ウィンドウから構成名を選択します。
    - 2) 「接続」メニューから「制御権の要求 (Request Control)」をクリックします。
    - 3) 「サービス装置サインオン」ウィンドウが表示されたら、「キャンセル」をクリックします。
  - b. 構成名を選択します。
  - c. 「接続」メニューから「切断 (Disconnect)」をクリックします。接続状況に「切断中 (Disconnecting)」が表示されます。
  - d. ローカル・コンソールの状況に「切断 (Disconnected)」が表示されるまで待ちます。
2. 構成名を選択します。
3. 「接続」メニューから「接続の構成 (Configure Connection)」をクリックします。
4. ウィザードを継続し、必要な変更を行います。

### リモート・コンソールの変更

既存のリモート・コンソールを変更するには、次のステップに従います。

1. リモート・コンソールがローカル・コンソールに接続している場合、次のように切断します。

- a. リモート・コンソールに制御権がある場合、制御権を解放します。
  - b. 構成名を選択します。
  - c. 「接続」メニューから「切断 (Disconnect)」をクリックします。接続状況に「切断中 (Disconnecting)」が表示されます。
  - d. リモート・コンソールの状況に「ローカル・コンソールに未接続 (Not connected to local console)」が表示されるまで待ちます。
2. 構成名を選択します。
  3. 「接続」メニューから「接続の構成 (Configure Connection)」をクリックします。
  4. ウィザードを継続し、必要な変更を行います。

### LAN 構成の再構成

注: ネットワーク・データが変更される場合、新規の構成への接続を試行する前に、オペレーション・コンソールを閉じてから再始動する必要があります。このアクションにより、あらゆる古い構成に関連付けられたすべてのキャッシュ値が除去されます。

1. 構成名を選択します。
2. 「切断 (Disconnect)」をクリックします。リモート・コンソールの状況に「ローカル・コンソールに未接続 (Not connected to local console)」が表示されるまで待ちます。
3. 構成名を選択します。
4. 「接続」メニューから「接続の構成 (Configure Connection)」をクリックします。
5. ウィザードを継続し、必要な変更を行います。

## コンソール構成の削除

オペレーション・コンソールの使用中、特定の要求に対応するために、既存ローカル・コンソールまたはリモート・コンソールを削除する必要がある場合があります。コンソールを削除するには、管理者グループのメンバーである必要があります。

### ローカル・コンソールの削除

既存のローカル・コンソールを削除するには、次のステップに従います。

1. ローカル・コンソールがサーバーに接続している場合は、次のようにして切断します。接続していない場合は、ステップ 2 (88 ページ) に進みます。
  - a. ローカル・コンソールに制御権がない場合、次のようにして制御権を要求します。制御権がある場合は、ステップ 1b (88 ページ) に進みます。
    - 1) 「オペレーション・コンソール (Operations Console)」ウィンドウから構成名を選択します。
    - 2) 「接続」メニューから「制御権の要求 (Request Control)」をクリックします。
    - 3) 「サービス装置サインオン」ウィンドウが表示されたら、「キャンセル」をクリックします。

- b. 「オペレーション・コンソール (Operations Console)」ウィンドウから構成名を選択します。
  - c. 「接続」メニューから「切断 (Disconnect)」をクリックします。接続状況に「切断中 (Disconnecting)」が表示されます。
  - d. ローカル・コンソールの状況に「切断 (Disconnected)」が表示されるまで待ちます。
2. 「オペレーション・コンソール (Operations Console)」ウィンドウから構成名を選択します。
  3. 「接続」メニューから「削除」をクリックします。
  4. 「はい」をクリックして削除を確認します。

#### リモート・コンソールの削除

既存のリモート・コンソールを削除するには、次のステップに従います。

1. リモート・コンソールがローカル・コンソールに接続している場合、次のように切断します。
  - a. リモート・コンソールに制御権がある場合、制御権を解放します。
  - b. 構成名を選択します。
  - c. 「接続」メニューから「切断 (Disconnect)」をクリックします。接続状況に「切断中 (Disconnecting)」が表示されます。
  - d. リモート・コンソールの状況に「ローカル・コンソールに未接続 (Not connected to local console)」が表示されるまで待ちます。
2. 構成名を選択します。
3. 「接続」メニューから「削除」をクリックします。
4. 「はい」をクリックして削除を確認します。

#### Windows 98/Me/2000/XP ユーザー

ネットワーク・オブジェクト (Windows 2000 と Windows XP) または DUN オブジェクト (Windows 98/Me) は、オペレーション・コンソールの構成項目を削除するたびに、削除する必要がある場合があります。ネットワーク・オブジェクトまたは DUN オブジェクトのいずれかが存在しないことを確認するには、次のようにします。

1. Windows 2000 Professional または Windows XP Professional を使用している場合、コントロール パネルの「ネットワークとダイヤルアップ接続」フォルダーをオープンします。Windows 98 または Windows Me を使用している場合、「マイ コンピュータ」をクリックし、「ダイヤルアップ ネットワーク」フォルダーをオープンします。
2. ローカル・コンソール構成を削除した場合、そのローカル・コンソールが接続に使用した iSeries システム名のアイコンを見つけます。  
または、リモート・コンソール構成を削除した場合は、iSeries システムへの接続に使用したローカル・コンソールのコンピューター名のアイコンを見つけます。
3. アイコンが存在する場合、ネットワーク・オブジェクトまたは DUN オブジェクトを次のように削除する必要があります。
  - a. アイコンを右クリックします。
  - b. 「削除」をクリックします。

## ローカル・コンソールをサーバーに接続

ローカル・コンソールはサーバーに接続する必要があります。

### ネットワーク上のローカル・コンソールをサーバーに接続

これらの説明を使用して、ネットワーク上のローカル・コンソールをサーバーに接続します。

### ローカル・コンソールを別のサーバーに接続

これらの説明を使用して、ローカル・コンソールを別のサーバーに接続します。

### サーバーに直接接続するローカル・コンソールの接続

これらの説明を使用して、リモート・アクセスが許可されているサーバーに直接接続するローカル・コンソールを、サーバーに接続します。

## ネットワーク上のローカル・コンソールをサーバーに接続

ネットワーク (LAN) 上のローカル・コンソールをサーバーに接続することによって、活動状態のコンソールと操作可能なリモート・コントロール・パネルを使用することができます (構成済みの場合)。活動状態のコンソールは、現在サーバーと対話している iSeries サーバー (5250 エミュレーション) へのコマンド・インターフェースです。操作可能なリモート・コントロール・パネルを使用することによって、サーバーを直接操作する場合と同様に、大半の制御パネル機能 (接続している区画によって異なる) を実行できます。

次のステップの一部を実行する際に問題が発生した場合、トラブルシューティングのトピック『ネットワーク接続エラー』を参照して、考えられる解決策を検討してください。

次のステップを実行して、ネットワーク上のローカル・コンソールを iSeries サーバーに接続します。

1. オペレーション・コンソールをオープンして接続を開始します。
  - a. 「スタート」をクリックして、「プログラム」を選択します。
  - b. 「**IBM iSeries Access for Windows**」を選択します。
  - c. 「**オペレーション・コンソール (Operations Console)**」をクリックします。

デフォルトでは、オペレーション・コンソールは、ネットワーク上のローカル・コンソールの、iSeries サーバーへの接続を自動的に試行しません。「プロパティ」で「オペレーション・コンソールが開始するときに接続を開始 (**Start connection when Operations Console starts**)」を選択した場合、ローカル・コンソールは iSeries サーバーへ自動的に接続します。接続状況は「**接続中 (Connecting)**」になってから「**コンソールに接続中 (Connecting Console)**」に変わります。

2. 「プロパティ」で「オペレーション・コンソールが開始するときに接続を開始 (**Start connection when Operations Console starts**)」を選択しなかった場合、次のようにしてサーバーに接続する必要があります。
  - a. 構成名を選択します。
  - b. 「**接続**」メニューから「**接続**」をクリックします。

3. 「サービス装置サインオン」ウィンドウで、サーバーにサービス装置情報へのアクセスを許可するアクセス・パスワードを使用して、サインオンします。割り当てられた保守ツールのユーザー ID とパスワードも指定しなければなりません。オペレーション・コンソールがローカル・コンソールとサーバー間の接続を許可するには、有効なアクセス・パスワード、保守ツールのユーザー ID、および保守ツールのパスワードが必要です。詳細は、『保守ツール』を参照してください。この概念を図解したものについては、『オペレーション・コンソールの LAN セキュリティー管理』を参照してください。

**注:** 接続が論理区画への接続であり、コンソールとリモート・コントロール・パネルが構成済みの場合は、各機能へのサインオン・ウィンドウが表示されません。

サインオンが正常に完了すると、接続状況に「**接続 (Connected)**」が表示されます。

4. 構成済みの場合、コンソールとリモート・コントロール・パネルが表示されることを確認します。

その他の状況メッセージが表示される場合は、『状況メッセージのトラブルシューティング』で、メッセージの説明および考えられる問題の解決策を参照してください。

PC を使用して別の iSeries サーバーにアクセスするには、別のサーバーに接続する必要があります。

### 別のサーバーへの接続

オペレーション・コンソールを使用すると、複数の構成を持ち、一度に複数のサーバーに接続することができます。他のサーバーにネットワーク上 (LAN) のローカル・コンソールとして、またはダイヤルアップ・サポート (ローカルまたはリモート) 使用のローカル・コンソールとして、ネットワーク内あるいはリモート・ロケーションにある別のサーバーを操作することができます。オペレーション・コンソールでは、直接接続のローカル・コンソール構成は 1 つのみ使用できますが、ネットワーク構成またはリモート構成は複数使用できます。

追加の接続がすでに作成されたことが前提となっています。

別のサーバーに接続するには、次のステップを実行します。

1. 「**オペレーション・コンソール接続 (Operations Console Connection)**」ウィンドウで、接続する構成名を選択します。
2. 「**接続**」メニューから「**接続**」をクリックします。

#### 注:

1. サーバーに直接接続するローカル・コンソールがあり、リモート・コンソールが 1 つまたは複数構成されている場合、別のサーバーに接続するには、現在接続中の構成を切断する必要があります。オペレーション・コンソールでは、サーバーに直接接続するローカル・コンソールと発信元リモート・コンソール接続を同時に活動状態にすることはサポートされていません。
2. 使用 PC に複数のリモート・コンソール構成がある場合、一度に 1 つの構成のみを接続することができます。



- サポートされる PC オペレーティング・システムはすべて、複数のネットワーク構成を同時に接続することができ、単一の PC を複数のシステムまたは複数の区画のコンソールとして使用できます。

### サーバーに直接接続するローカル・コンソールの接続

リモート・アクセスが許可されているサーバーに直接接続するローカル・コンソールを、サーバーに接続することによって、リモート・コンソールがそのサーバーに接続できるようになります。また、最初の要求元に iSeries の制御権を自動的に認可するようにしたり、ローカル・コンソールで制御権を持ち、着信制御権要求を処理するようにしたりすることもできます。

次のステップを実行して、リモート・アクセスが許可されている、または許可されていないサーバーに直接接続するローカル・コンソールを、サーバーに接続します。

- オペレーション・コンソールをオープンして接続を開始します。
  - 「スタート」をクリックして、「プログラム」を選択します。
  - 「IBM iSeries Access for Windows」を選択します。
  - 「オペレーション・コンソール (Operations Console)」をクリックします。

デフォルトでは、オペレーション・コンソールは、ネットワーク上のローカル・コンソールの、iSeries サーバーへの接続を自動的に試行しません。「プロパティ」で「オペレーション・コンソールが開始するときに接続を開始 (Start connection when Operations Console starts)」を選択した場合、ローカル・コンソールは iSeries サーバーへ自動的に接続します。接続状況は「接続中 (Connecting)」になってから「コンソールに接続中 (Connecting Console)」に変わります。

- 在席モードで開始するようにローカル・コンソール構成をセットアップする場合、次のようにします。
  - リモート・コントロール・パネルがインストール済みおよび構成済みである場合は、リモート・コントロール・パネルが表示されることを確認します。リモート・コントロール・パネルが表示されない場合は、トラブルシューティングのトピック『リモート・コントロール・パネルが開始に失敗する』を参照してください。
  - 「サービス装置サインオン」ウィンドウで、割り当てられた保守ツールのユーザー ID とパスワードを使用してサインオンします。オペレーション・コンソールがサーバーと PC 間の接続を許可するには、有効な保守ツールのユーザー ID とパスワードが必要です。サインオンの際に問題が生じた場合は、『認証に関する問題のトラブルシューティング』を参照してください。サインオンが正常に完了すると、状況が「許可の保留 (Pending Authorization)」から「接続」に変更されます。
  - コンソールが表示されたことを確認してください。エミュレーターが表示されない場合は、『エミュレーターに関する問題のトラブルシューティング』を参照してください。
- 不在モードで開始するようにローカル・コンソール構成をセットアップする場合、次のようにします。

- a. 「**コンソールに接続中 (Connecting Console)**」という状況が 2、3 分より長く続かないことを確認してください。この状況が変更されない場合は、接続に問題があります。考えられる解決策を見つけるには、『リモート・コントロール・パネルのケーブルが開始に失敗する』を参照してください。
- b. 状況に「**許可の保留 (Pending Authorization)**」が表示され、「**現行ユーザー (Current User)**」フィールドに「**SERVER**」が表示されることを確認してください。着信制御権要求は自動的に認可されます。

その他の状況メッセージが表示される場合は、『状況メッセージのトラブルシューティング』で、メッセージの説明および考えられる問題の解決策を参照してください。

## モデム経由で、リモート・コンソールをローカル・コンソールに接続

リモート・サポートを使用して、リモート・コンソールをローカル・コンソールに接続することで、リモート・コンソールがローカル・コンソール経由でサーバーと通信することができます。リモート・コンソール・ユーザーには、ローカル・コンソールにおいてダイヤルイン権限が必要です。ローカル・コンソールでオペレーティング・システムが PC 間のダイヤルイン接続を許可するためには、この権限が必要です。

次のステップを実行して、リモート・コンソールをリモート・アクセスが許可されているサーバーに直接接続するローカル・コンソールに接続します。

1. オペレーション・コンソールをオープンして接続を開始します。
  - a. 「**スタート**」をクリックして、「**プログラム**」を選択します。
  - b. 「**IBM iSeries Access for Windows**」を選択します。
  - c. 「**オペレーション・コンソール (Operations Console)**」をクリックします。

デフォルトでは、オペレーション・コンソールは、ネットワーク上のローカル・コンソールの、iSeries サーバーへの接続を自動的に試行しません。「プロパティ」で「**オペレーション・コンソールが開始するときに接続を開始 (Start connection when Operations Console starts)**」を選択した場合、ローカル・コンソールは iSeries サーバーへ自動的に接続します。接続状況は「**接続中 (Connecting)**」になってから「**コンソールに接続中 (Connecting Console)**」に変わります。

リモート・コンソールを構成したときに「**オペレーション・コンソールが開始するときに接続を開始 (Start connection when Operations Console starts)**」を選択した場合、リモート・コンソールはローカル・コンソールへの接続を自動的に開始します。

2. 「**オペレーション・コンソールが開始するときに接続を開始 (Start connection when Operations Console starts)**」を選択しなかった場合、次のようにしてローカル・コンソールへの接続を開始する必要があります。
  - a. 構成名を選択します。
  - b. 「**接続**」メニューから「**接続**」をクリックします。
3. 「**ユーザー・ログオン (User Logon)**」ウィンドウが表示される場合、サインオンするとローカル・コンソールでオペレーティング・システムはダイヤルイン権限

を持つユーザーであるかどうか検査します。サインオンが正常に完了すると、接続状況に「接続 (Connected)」が表示されます。

**注:** 約 1 分以内にサインオンを行わないと、ダイヤルアップ・ネットワークが接続を終了します。

4. 「サービス装置サインオン」ウィンドウが表示された場合、ユーザーの保守ツールのユーザー ID とパスワードを使用してサインオンします。
5. リモート・コントロール・パネルがインストール済みおよび構成済みである場合は、リモート・コントロール・パネルが表示されることを確認します。リモート・コントロール・パネルが表示されない場合は、トラブルシューティングのトピック『ダイヤルアップ使用のリモート・コンソールがローカル・コンソールへの接続に失敗する』を参照してください。リモート・コントロール・パネルが表示される場合、このリモート・コントロール・パネルは読み取り専用モードであり、リモート・コンソールで iSeries の制御権を持ちません。制御権を取得するには、ローカル・コンソールに制御権を要求する必要があります。

その他の接続の問題が生じる場合は、『オペレーション・コンソール接続に関するトラブルシューティング』を参照して、考えられる解決策を見つけてください。

## ユーザー間の制御タスク

これらの制御タスクは、リモート・アクセスが許可されているサーバーに直接接続するローカル・コンソール、またはダイヤルアップ・サポート構成使用のリモート・コンソールにのみ対応しています。

### サーバーの制御権を持つユーザーの識別

これらの説明を使用して、サーバーの制御権を持つオペレーション・コンソールのユーザーを識別します。

### リモート・コンソールへの制御権の認可または拒否

これらの説明を使用して、リモート・コンソール制御権を認可または拒否します。

### 読み取り専用モードでのリモート・コントロール・パネルの表示

これらの説明を使用して、読み取り専用モードでリモート・コントロール・パネルを表示します。

### ローカル・コンソールにおける制御権の要求および解放

これらの説明を使用して、ローカル・コンソールで制御権を要求および解放します。

### 制御権を持つリモート・コンソールにメッセージを送信

これらの説明を使用して、制御権を持つリモート・コンソールにメッセージを送信します。

### リモート・コンソールにおける制御権の要求

これらの説明を使用して、リモート・コンソールにおいて制御権を要求します。

### リモート・コンソールにおける制御権の解放

これらの説明を使用して、リモート・コンソールにおいて制御権を解放します。

### 制御権を持つローカル・コンソールまたはリモート・コンソールにメッセージを送信

これらの説明を使用して制御権を持つローカル・コンソールまたはリモート・コンソールにメッセージを送信します。

### ユーザー間での制御権の移動

これらの説明を使用して、ユーザー間で制御権を移動します。

## サーバーの制御権を持つユーザーの識別

ある一時点で iSeries の制御権を持つユーザーを識別すると、制御権を取得するときの手順の決定に役立つ場合があります。

制御権を持つユーザーを識別するには、次のステップを実行します。

1. 「**iSeries オペレーション・コンソール接続 (iSeries Operations Console Connection)**」ウィンドウで、問題となっている構成の接続の詳細を表す行を見つけます。
2. 「**現行ユーザー / システム名 (Current User/System Name)**」値を識別します。これらの値は、制御権を持つユーザーのもので、「**現行ユーザー (Current User)**」には、制御権を持つユーザーが、制御権を持つ PC のオペレーティング・システムにサインオンしたまたは接続を完了させた際に使用したユーザー ID が表示されます。「**システム名 (System Name)**」には、制御権を持つユーザーの PC の名前が表示されます。
3. 「**ローカル・コンソール (Local Console)**」値を識別します。これは、サーバー直接接続の PC の名前です。
4. 次のように、「**システム名 (System Name)**」と「**ローカル・コンソール (Local Console)**」の値を比較します。
  - 「**システム名 (System Name)**」と「**ローカル・コンソール (Local Console)**」の値が同一の場合、ローカル・コンソールが制御権を持ちます。この比較は、接続しているローカル・コンソールのユーザーにとって役立ちます。
  - 「**システム名 (System Name)**」と「**ローカル・コンソール (Local Console)**」の値が異なる場合、リモート・コンソールが制御権を持ちます。この比較は、ローカル・コンソールのユーザーにとって役立ちます。
  - 「**現行ユーザー / システム名 (Current User/System Name)**」値として「SERVER」が表示される場合は、どのユーザーも制御権を持ちません。これは、ローカル・コンソールのユーザーまたはリモート・コンソールのユーザーにとって役立ちます。制御権要求は自動的に認可されます。

## リモート・コンソールへの制御権の認可または拒否

リモート・サポート使用のローカル・コンソールのオペレーターとして、iSeries の制御権を求める着信要求を処理する必要があります。制御権を認可することによって、他のユーザーがサーバーを操作できるようになります。制御権を拒否すると、要求したユーザーのサーバーへのアクセスは拒否され、現行ユーザーが引き続き制御権を持つこととなります。他のユーザーに制御権を認可すると、コンソール・セ

セッションおよびリモート・コントロール・パネル・ウィンドウは終了します。接続は保持され、リモート・コントロール・パネルがローカル・コンソールでインストール済みおよび構成済みである場合には、読み取り専用モードで使用することができます。

リモート・コンソールが制御権を要求すると、「オペレーション・コンソール要求 (Operations Console Request)」ウィンドウがローカル・コンソールに表示されます。ウィンドウには、要求元リモート・コンソールのユーザーがリモート・コンソール (PC) のオペレーティング・システムにサインオンした際に使用した保守ツールのユーザー ID が表示されます。デフォルトは制御権を認可するように設定されています。

### 制御権の認可

リモート・コンソールに制御権を認可するには、「オペレーション・コンソール要求 (Operations Console Request)」ウィンドウで「OK」をクリックします。

### 制御権の拒否

リモート・コンソールに対し制御権を拒否するには、次のステップに従います。

1. 「オペレーション・コンソール要求 (Operations Console Request)」ウィンドウで「要求の拒否 (Reject request)」をクリックします。
2. (オプション)「メッセージ (Message)」フィールドで拒否についての説明を入力します。
3. 「OK」をクリックします。

**iSeries の制御権:** サーバーの制御権とは、活動状態のコンソールまたは操作可能なリモート・コントロール・パネル (ローカル・コンソールでインストール済みおよび構成済みの場合)、あるいはその両方が PC に存在することです。活動状態のコンソールは、現在サーバーと対話中のサーバー (5250 エミュレーション) へのコマンド・インターフェースです。操作可能なリモート・コントロール・パネルを使用すると、PC から制御パネル機能を実行できます。つまり、制御権を持つ PC はコンソールとして機能し、リモート・コントロール・パネル機能を実行することができます。制御権は一度に 1 つの PC しか持てません。

ローカル・コンソールを**在席モード** (直接接続のみ) で開始した場合、サーバーに直接接続するローカル・コンソールを接続した直後に、制御権が取得されます。このローカル・コンソールに制御権があるときに要求元のリモート・コンソールに対して制御権を認可または拒否するには、在席している必要があります。

ローカル・コンソールを**不在モード**で開始した場合、サーバーに直接接続するローカル・コンソールを接続した後に、「**現行ユーザー (Current User)**」フィールドに「SERVER」が表示されます。オペレーション・コンソールは、最初の要求元 (ローカル・コンソールまたはリモート・コンソール) に制御権を自動的に認可します。

**デフォルト・ユーザー (サーバー):** SERVER は、サーバーの制御権を持つユーザーがいないときにオペレーション・コンソールが割り当てる識別名です。iSeries の制御権を持つユーザーがいない場合、「SERVER」が「**現行ユーザー (Current User)**」

フィールドに表示されます。さらに、オペレーション・コンソールは、最初の要求元 (ローカル・コンソールまたはリモート・コンソール) に自動的に制御権を認可します。

次の場合、オペレーション・コンソールは自動的に最初の要求元に制御権を認可します。

- リモート・サポート使用のローカル・コンソールで制御権を解放した直後。
- リモート・アクセスが許可されているサーバーに直接接続するローカル・コンソールを接続した直後 (不在モードで開始した場合)。
- 「**現行ユーザー (Current User)**」フィールドに「SERVER」が表示される場合。

### 読み取り専用モードでのリモート・コントロール・パネルの表示

読み取り専用モードでリモート・コントロール・パネルを表示することによって、iSeries の制御権がないときにリモート・コントロール・パネルを表示することができます。たとえば、リモート・ロケーションに存在するサーバーにおける、初期プログラム・ロード (IPL) の進行を見ることができます。リモート・コントロール・パネルは、ローカル・コンソールでインストールおよび構成する必要があります。次の場合に、読み取り専用モードでリモート・コントロール・パネルを表示することができます。

- ローカル・コンソールのユーザーが制御権をもっていない場合に、ローカル・コンソールで。
- リモート・コンソールをローカル・コンソールに接続するか、またはローカル・コンソールが制御権を要求した後に、ローカル・コンソールで。
- リモート・コンソールが制御権をローカル・コンソールに解放した後に、リモート・コンソールで。

リモート・コントロール・パネルを表示するには、「**接続**」メニューから「**リモート・コントロール・パネル (Remote Control Panel)**」をクリックします。

### ローカル・コンソールにおける制御権の要求および解放

リモート・サポート使用のローカル・コンソールに iSeries の制御権がない場合、サーバーを操作するには、ローカル・コンソールで制御権を要求する必要があります。リモート・コンソールに制御権があった場合、ローカル・コンソールで制御権を要求すると、制御権は強制的にリモート・コンソールから戻されます。作業の終了後には、制御権を解放し、オペレーション・コンソールが自動的に制御権を要求元に認可できるようにしなければなりません。

#### 制御権の要求

ローカル・コンソールで制御権を要求するには、次のステップを実行します。

1. 制御権を持っているユーザーを識別します。
2. 制御権を持っている (「**現行のユーザー (Current User)**」フィールドに SERVER と表示される) ユーザーが存在しない場合は、次のようにします。
  - a. 構成名を選択します。
  - b. 「**接続**」メニューから「**制御権の要求 (Request Control)**」をクリックします。

- c. リモート・コントロール・パネルがインストール済みおよび構成済みである場合は、リモート・コントロール・パネルが表示されることを確認します。リモート・コントロール・パネルが表示されない場合は、『リモート・コントロール・パネルが開始に失敗する』を参照してください。  
リモート・コントロール・パネルが表示されてから、サインオン・ウィンドウが表示されます。
  - d. 「サービス装置サインオン」ウィンドウが表示された場合、ユーザーの保守ツールのユーザー ID とパスワードを使用してサインオンします。オペレーション・コンソールがサーバーと PC 間の接続を許可するには、有効な保守ツールのユーザー ID とパスワードが必要です。サインオンの際に問題が生じた場合は、『認証に関する問題のトラブルシューティング』を参照してください。
  - e. コンソールが表示されたことを確認してください。コンソールが表示されない場合は、トラブルシューティング情報の『リモート・コントロール・パネルが開始に失敗する』および『ローカル・コンソールの接続に関する問題』を参照してください。
3. リモート・コンソールのユーザーに制御権があり、リモート・コンソールから強制的に制御権を戻さない場合、リモート・コンソールにメッセージを送信して、制御権の解放をそのユーザーに要求します。リモート・コンソールが制御権を解放した後でローカル・コンソールに制御権が戻らなかった場合、ローカル・コンソールで制御権を要求するには、ステップ 2a (96 ページ) から 2e までを実行します。  
リモート・コンソールのユーザーに制御権があり、リモート・コンソールから強制的に制御権を戻す場合、ステップ 2a (96 ページ) から 2e までを実行します。リモート・コンソールで、「リモート・コントロール・パネル (remote control panel)」ウィンドウとコンソールがクローズし、ローカル・コンソールが制御権を獲得したことを示すメッセージが表示されます。リモート・コンソールが接続している間、リモート・コンソールのユーザーは読み取り専用モードでリモート・コントロール・パネルを表示することができます。

### 制御権の解放

制御権を解放するには、次のようにします。

1. 構成名を選択します。
2. 「接続」メニューから「制御権の解放 (Release Control)」をクリックします。  
この時点で、「現行のユーザー (Current User)」フィールドに「SERVER」が表示されます。「リモート・コントロール・パネル (remote control panel)」ウィンドウとコンソールが消えます。そして制御権が自動的に最初の要求元に認可されます。リモート・コントロール・パネルは、引き続き読み取り専用モードで使用可能です。

### 制御権を持つリモート・コンソールにメッセージを送信

オペレーション・コンソールを使用している間に、iSeries の制御権を持つユーザーと通信する必要がある場合があります。オペレーション・コンソールを使用することによって、接続時にローカル・コンソールとリモート・コンソール間でメッセージを交換できます。制御権を持たないユーザーだけがメッセージを開始することができます。

制御権を持つユーザーにメッセージを送信するには、次のステップを実行してください。

1. 「オペレーション・コンソール接続 (Operations Console Connection)」ウィンドウから構成名を選択します。
2. 「接続」メニューから「メッセージの送信 (Send Message)」をクリックします。
3. メッセージを入力します。
4. 「送信 (Send)」をクリックします。

このとき、受信側は次のようにして応答します。

1. 応答を入力します。
2. 「応答 (Reply)」をクリックします。

### リモート・コンソールにおける制御権の要求

リモート・コンソールで iSeries の制御権を要求することによって、リモート・コンソールで活動状態のコンソールと操作可能なリモート・コントロール・パネルを使用することができます。活動状態のコンソールは、現在サーバーと対話中のサーバー (5250 エミュレーション) へのコマンド・インターフェースです。操作可能なリモート・コントロール・パネルを使用することによって、サーバーで直接操作する場合と同様に、制御パネルを操作できます。モデム経由で、リモート・コンソールをローカル・コンソールに接続している必要があります。

リモート・コンソールで制御権を要求するには、次のステップを実行します。

1. 制御権を持っているユーザーを識別します。
2. 「現行ユーザー (Current User)」フィールドに「SERVER」が表示された場合、次のようにします。
  - a. 「オペレーション・コンソール接続 (Operations Console Connection)」ウィンドウから構成名を選択します。
  - b. 「接続」メニューから「制御権の要求 (Request Control)」をクリックします。リモート・コントロール・パネルがローカル・コンソールでインストール済みおよび構成済みである場合は、リモート・コントロール・パネルは操作可能になります。活動状態のコンソールを持つユーザーがいない場合、サインオン・ウィンドウが表示されます。
  - c. 「サービス装置サインオン」ウィンドウが表示された場合、ユーザーの保守ツールのユーザー ID とパスワードを使用してサインオンします。オペレーション・コンソールがサーバーと PC 間の接続を許可するには、有効なユーザー ID とパスワードが必要です。サインオンの際に問題が生じた場合は、『認証に関する問題のトラブルシューティング』を参照してください。サインオンが正常に完了すると、コンソールが表示されます。
3. 他のユーザーが制御権を持っている場合は、以下を行います。
  - a. (オプション) 制御権が必要である理由を説明するメッセージをローカル・コンソールに送信します。

**重要:** 制御権を要求する前にメッセージを送信する必要はありません。
  - b. 「接続」メニューから「制御権の要求 (Request Control)」をクリックします。



現行ユーザーがリモート・コンソールに制御権を認可すると、リモート・コントロール・パネルが操作可能になり (ローカル・コンソールでインストール済みおよび構成済みの場合)、コンソールが表示されます。現行ユーザーがリモート・コンソールへの制御権付与を拒否した場合、拒否したことを示すウィンドウが表示されます。

## リモート・コンソールにおける制御権の解放

リモート・コンソールで iSeries の制御権を解放することによって、最初にリモート・コンソールが制御権を要求した際のローカル・コンソールの状態に制御権を戻すことができます。たとえば、ローカル・コンソールが最初の要求元リモート・コンソールに制御権を認可した場合、リモート・コンソールで制御権を解放すると、ローカル・コンソールが制御権を取り戻すことができます。しかし、最初の要求元リモート・コンソールに対して制御権が自動的に認可された場合、リモート・コンソールで制御権を解放すると、自動的に次の要求元に制御権が認可されます。

リモート・コンソールで制御権を解放するには、次のようにします。

1. 「オペレーション・コンソール接続 (Operations Console Connection)」ウィンドウから構成名を選択します。
2. 「接続」メニューから「**制御権の解放 (Release Control)**」をクリックします。  
「リモート・コントロール・パネル (remote control panel)」ウィンドウ (存在する場合) とコンソールがクローズします。

リモート・コンソールで制御権を解放した後は、次のことが実行できるようになります。

- 読み取り専用モードでリモート・コントロール・パネルを表示する。リモート・コントロール・パネルを表示するには、次のステップに従います。
  1. 構成名を選択します。
  2. 「接続」メニューから「**リモート・コントロール・パネル (Remote Control Panel)**」をクリックします。
- リモート・コンソールのローカル・コンソールへの接続を終了する。接続を終了するには、次のステップに従います。
  1. 構成名を選択します。
  2. 「接続」メニューから「**切断 (Disconnect)**」をクリックします。接続状況に「切断中 (Disconnecting)」が表示されます。
  3. 状況に「ローカル・コンソールに未接続 (Not connected to local console)」が表示されるまで待ちます。

## 制御権を持つローカル・コンソールまたはリモート・コンソールにメッセージを送信

オペレーション・コンソールを使用している間に、iSeries の制御権を持つユーザーと通信する必要がある場合があります。オペレーション・コンソールを使用することによって、接続時にローカル・コンソールとリモート・コンソール間でメッセージを交換できます。制御権を持たないユーザーだけがメッセージを開始することができます。

制御権を持つユーザーにメッセージを送信するには、次のステップを実行してください。

1. 「オペレーション・コンソール接続 (Operations Console Connection)」ウィンドウから構成名を選択します。
2. 「接続」メニューから「メッセージの送信 (Send Message)」をクリックします。
3. メッセージを入力します。
4. 「送信 (Send)」をクリックします。

このとき、受信側は次のようにして応答します。

1. 応答を入力します。
2. 「応答 (Reply)」をクリックします。

### ユーザー間での制御権の移動

次の例は、リモート・アクセスが許可されているサーバーに直接接続するローカル・コンソールとリモート・コンソール間の対話を表しています。これらの例は、オペレーション・コンソール構成を開始した後の、PC 間での iSeries の制御権の移動方法を示しています。

#### 制御権を持つローカル・コンソールとリモート・コンソール間での制御権の移動

この例は、iSeries の制御権を持つ、リモート・アクセスが許可されているサーバーに直接接続するローカル・コンソールとリモート・コンソール間の対話を表しています。リモート・コンソールが制御権を要求した場合の、ローカル・コンソールとリモート・コンソール間での制御権の移動方法について示しています。

ここでの対話は、ローカル・コンソールのユーザーおよびリモート・コンソールのユーザーが行うと予想される振る舞いを表しています。

1. ローカル・コンソールのユーザーはサーバーの制御権を持っています。この時点では、ローカル・コンソールのユーザーはすべての着信制御権要求を処理する必要があります。
2. リモート・コンソールが制御権を要求した場合、ローカル・コンソールのユーザーは要求元に制御権を認可するかまたは拒否するかを決定します。ローカル・コンソールのユーザーが制御権を認可すると、要求元に制御権が認可されます。

ローカル・コンソールのユーザーが要求元に制御権付与を拒否した場合、そのままローカル・コンソールのユーザーが制御権を持ちます。

#### 制御権を持たないローカル・コンソールとリモート・コンソール間での制御権の移動

この例は、iSeries の制御権を持たない、リモート・アクセスが許可されているサーバーに直接接続するローカル・コンソールと制御権を要求するリモート・コンソール間の対話を表しています。制御権を持つユーザーが存在せず、リモート・コンソールが制御権を要求したときの制御権の移動方法について示しています。

ここでの対話は、ローカル・コンソールのユーザーおよびリモート・コンソールのユーザーが行うと予想される振る舞いを表しています。

- サーバーの制御権を持つユーザーはいません。したがって、「**現行ユーザー (Current User)**」フィールドに「SERVER」が表示され、着信制御権要求は自動的に認可されます。

- リモート・コンソールが制御権を要求すると、制御権はそのリモート・コンソールに認可されます。

## キーボード定義の変更

キーボード定義を変更することができます。

1. 「エミュレーター (emulator)」ウィンドウでドロップダウン・メニューを使用して、次のようにします。
  - a. 「編集」をクリックします。
  - b. 「プリファレンス (preferences)」をクリックします。
  - c. 「キーボード (keyboard)」をクリックします。
2. 「ユーザー定義」をクリックします。
3. 「参照」をクリックし、iSeries Access for Windows がインストールされた場所にナビゲートします。その後、「Client Access」フォルダーの下で、「エミュレーター (Emulator)」フォルダー、続いて「専用 (Private)」フォルダーにナビゲートします。
4. 必要な項目を選択します。
5. 「OK」をクリックします。
6. 再度、「OK」をクリックします。

## 手動 IPL を使用したシステムの始動

このセクションを使用し、初期プログラム・ロード (IPL) を手動で実行することで、iSeries サーバーを始動します。

手動 IPL を実行するには、次のステップに従います。

1. iSeries 制御パネルの「機能 / データ (Function/Data)」画面を確認します。

キースティックが備わっているシステムでは、「機能 / データ (Function/Data)」画面においてモードが「手動 (Manual)」および「01 B」として表示されているはずです。
2. システムが手動モードであり、B 側で IPL を実行する場合、ステップ 8 に進みます。システムが手動モードではないか、または B 側で IPL を実行するように設定されていない場合は、ステップ 3 に進みます。
3. 「機能 / データ (Function/Data)」画面が明るくなっている場合は、ステップ 4 に進みます。

「機能 / データ (Function/Data)」画面が明るくない場合は、ハードウェアのサービス担当員に連絡する前に、次のようにします。

  - コンセントの電圧に対応する装置を差し込むことで、コンセントが機能していることを確認します。
  - 電源コードがシステム装置およびコンセントにしっかりと差し込まれていることを確認します。
4. 「02」が「機能 / データ (Function/Data)」画面に表示されるまで、「上 (Up)」または「下 (Down)」ボタンを押します。

**注:** システムがキースティックを使用する場合、この時点でキースティックを挿入し、「モード」ボタンを使用して「手動 (Manual)」を選択します。

5. iSeries 制御パネル上で、「実行 (Enter)」ボタンを押します。
6. 「B M」が「機能 / データ (Function/Data)」画面に表示されるまで、「上 (Up)」または「下 (Down)」ボタンを押します。システムがキースティックを使用する場合、「B」を選択します。「機能 / データ (Function/Data)」画面に「02 B」が表示されるはずですが。
7. iSeries 制御パネル上で、「実行 (Enter)」ボタンを押します。
8. iSeries 制御パネル上で、「電源 (Power)」ボタンを押します。

システムの電源がオンになり、IPL の実行が進行し、これらの説明を継続できるようになるには、約 10 ～ 30 分かかります。「機能 / データ (Function/Data)」画面で、データが変わることが確認できるはずですが。IPL の最後の段階が完了するのに 5 分かかる場合があり、その後でアテンション・ライトがオンになります。
9. 参照コード x6004031 または x6004501 (x は任意の文字) が、「機能 / データ (Function/Data)」画面に、数分間表示されます。
10. システムが手動 IPL の最初の段階が完了させたときに、「01 B」が表示され、コンソールが備わっているはずですが。

アテンション・ライトが明るくなっている場合は、ステップ 11 に進みます。アテンション・ライトが明るくない場合は、コンソールが備わっていないので、次の点を考慮します。

  - システムの IPL の実行が十分に進行しなかったために、これらの手順を継続できる状態にならなかった可能性があります。これ以上進む前に、少なくとも 30 分待ちます。
  - 30 分経ってもシステムで何もアクティビティが起これず、アテンション・ライトが明るくならなかった場合には、『トラブルシューティング』で、システムの問題の対処と報告に関する情報を参照してください。
  - 問題が解決したら、このセクションの最初から再度開始します。
11. システム参照コード (SRC) x6xx500x (x は任意の文字または数字) が「機能 / データ (Function/Data)」画面に表示されている場合、『システム参照コード (SRC) データに関するトラブルシューティング』に進みます。

システム参照コード (SRC) x6xx500x (x は任意の文字または数字) が「機能 / データ (Function/Data)」画面に表示されていない場合、『トラブルシューティング』で、システムの問題の対処と報告に関する情報を参照してください。その後、新しい構成を構成します。

サーバーが 270 または 8xx である場合は、トラブルシューティングのトピックで、『システム参照コード A6005008 および B6005008』を参照してください。

## サーバーの通信回線の活動化

これらの説明は、ダイヤルアップ・サポート使用のローカル・コンソール、または直接接続するローカル・コンソールのみに対応しています。これらの説明を使用して、サーバーの通信回線を手動で活動化します。

1. サーバーがキースティックを使用する場合、この時点でキースティックをキー・スロットに挿入します。
2. システムの制御パネルを使用して、サーバーを手動モードにします。

3. 「上 (Up)」および「下 (Down)」ボタンを使用して、機能「**25**」を選択し、「実行 (Enter)」ボタンを押します。
4. 「上 (Up)」ボタンを使用して、機能「**26**」を選択し、「実行 (Enter)」ボタンを押します。
5. 「下 (Down)」ボタンを使用して、機能「**66**」を選択し、「実行 (Enter)」ボタンを押します。

システムは、接続されているモデムを初期化しようとしています。初期化が正常に実行された場合、「機能 / データ (Function/Data)」ウィンドウに「D1008066」が表示されます。モデムを初期化できなかった場合は、「D1008065」が表示されます。予期された参照コードが数分以内に表示されない場合は、『機能呼び出しの後に、D1008065 および D1008066 の自動表示が失敗する』を参照してください。

## サーバーの通信回線の非活動化

これらの説明は、ダイヤルアップ・サポート使用のローカル・コンソール、または直接接続するローカル・コンソールのみに対応しています。これらの説明を使用して、サーバーの通信回線を非活動化します。システムが手動モードになっており、制御パネルの拡張機能が活動化されている必要があります。この拡張機能は、通信回線が活動化された時点から活動状態になっています。

サーバーの通信回線を非活動化するには、次のようにします。

1. システムが手動モードでない場合、または拡張機能が活動化されていない場合、あるいはその両方の場合は、次のようにします。
  - a. サーバーがキースティックを使用する場合、まず、キースティックをキー・スロットに挿入します。
  - b. システムの制御パネルを使用して、サーバーを手動モードにします。
  - c. 「上 (Up)」および「下 (Down)」ボタンを使用して、機能「**25**」を選択します。「実行 (Enter)」ボタンを押します。
  - d. 「上 (Up)」ボタンを使用して、機能「**26**」を選択します。「実行 (Enter)」ボタンを押します。
2. 「下 (Down)」ボタンを使用して、機能「**65**」を選択します。「実行 (Enter)」ボタンを押します。

非活動化が正常に実行された場合、「機能 / データ (Function/Data)」ウィンドウに「D1008065」が表示されます。予期した参照コードが数分以内に表示されない場合は、『機能呼び出しの後に、D1008065 および D1008066 の自動表示が失敗する』を参照してください。

## サーバーのダイヤル呼び出し

これらの説明は、ダイヤルアップ・サポート構成使用のローカル・コンソールのみに対応しています。サーバーで回線が活動化されたら、ローカル・コンソール PC はシステムにダイヤルする必要があります。ローカル・コンソールとの接続を開始するのと同じように、接続を開始します。完全に接続されたら、制御権を自動的に受信します。終了した時点で、切断します。

切断するには、次のようにします。

1. 構成名を選択します (「iSeries 接続 (iSeries Connection)」下から)。これは、オペレーション・コンソールが特定の iSeries システムを参照する際に使用する名前です。
2. 「接続」メニューから「切断 (Disconnect)」をクリックします。接続状況に「切断中 (Disconnecting)」が表示されます。
3. 接続状況に「切断 (Disconnected)」が表示されるのを待ちます。

切断した場合、iSeries サーバーは通信回線を自動的に非活動化します。

接続に失敗した場合、iSeries サーバーで回線を再度活動化する必要はありません。さらに、7857 モデルにダイヤルしている場合、このモデムの構成ステップを再度実行する必要があります。

---

## 複数コンソールの管理

同一のサーバーや論理区画のコンソールとして機能するワークステーションが複数ある場合、その装置をコンソールとして使用する複数の方法があります (構成や状況によって異なります)。次に、これに関するより一般的な手順について説明します。

### ネットワーク上の複数のローカル PC コンソール

ワークステーションがすでにコンソールとなっているときに、ネットワーク上の別のローカル・コンソールがコンソールになろうとすると、接続は正常に行われますが、エミュレーターは切断状態となり、エミュレーター・ウィンドウの左下部にこの状態が表示されます。このタイプの接続の多くは接続状態にすることができますが、活動状態になるコンソールは 1 つのみです。現在、どのユーザーまたは PC が活動状態のコンソールであるかをこの PC が認識するメカニズムはありません。また、新しく接続した PC をこの状態にしておくと、コンソールのアクティビティーがこの PC に自動的に転送されません。この場合、2 つの選択肢があります。

- 「オペレーション・コンソール (Operations Console)」ウィンドウを使用して、接続を切断します。接続を切断するには、次のステップに従います。
  1. 切断する接続名を選択します。
  2. 「接続」→「切断 (Disconnect)」をクリックします。
- エミュレーター・セッションを切断します。エミュレーターを切断するには、次のステップに従います。
  1. エミュレーター・ウィンドウで「接続」をクリックします。
  2. 「切断 (Disconnect)」を選択します。

次回に接続が確立されるときに、オペレーション・コンソールまたはエミュレーターを介してコンソールとして動作する装置がない場合、この PC がコンソールになります。この方法がコンソールのアクティビティーを管理する正しい方法かを判断するのは、ユーザー次第です。

**注:** サーバーに直接接続するローカル・コンソール、またはリモート・アクセスが許可されている、サーバーに直接接続するローカル・コンソールが、これと同一の方法を共用しています。

### サーバーに直接接続する同一のローカル・コンソールに接続している、ダイヤルアップ・サポート使用の複数のリモート・コンソール

この環境では、1 つのリモート・コンソールのみがローカル・コンソールに接続できます。別のリモート・コンソールがローカル・コンソールにアクセスできるように、ユーザー間で調整する必要があります。これを定期的に行う必要がある場合は、リモート・コンソールがそれぞれローカル・コンソールにアクセスする期間を割り当てるという方法でも簡単に調整できます。最初のリモート・コンソールが時間切れになった場合、制御権を解放して切断します。その後、次のリモート・コンソールが割り当てられた時間に接続し、制御権を要求します。これは、最初のリモート・コンソールが制御権を獲得したときに、ローカル・コンソールに制御権がなかったことを前提としています。

### 手動モードでサーバーの IPL 中にコマンド入力に対し IPL を完了していないときに、コンソール・タイプを別のコンソール・タイプに切り替える

**注:** オペレーション・コンソール (LAN) を、別のコンソール・タイプのバックアップとして使用する場合、コンソール・タイプをオペレーション・コンソール (LAN) に設定し、関連するネットワーク・アダプターをこの装置が必要になる前に構成する必要があります。コンソールをオペレーション・コンソール (LAN) に設定しても、オペレーション・コンソール (直接) または平衡型コンソールが IPL 中にコンソールになることを防ぐことはできません。IPL 時に使用可能となるコンソール・タイプは、必ず 1 つのみにしてください。

この環境では、サーバーに対して現在のコンソール・タイプを使用できないようにするだけです。オペレーション・コンソールについては、構成を切断することでコンソール・タイプが使用できないようになります。その後、ターゲットのコンソール・タイプを使用可能にします。オペレーション・コンソールについては、接続を開始します。この時点で、制御パネル (またはリモート・コントロール・パネル) 上で機能 21 を実行します。これにより、サーバーは強制的にコンソール装置の検索を再開します。サーバーはターゲットのコンソール・タイプを見つけるはずですが、平衡型ワークステーションが関与している場合、電子機器の電源を切るか、または装置あるいは 4 ポート (または 8 ポート) のポート・コネクタからケーブルを外すことで、装置が使用できなくなります。

### サーバーをコマンド入力に対し IPL している間に、コンソール・タイプを別のコンソール・タイプに切り替える

上記で説明したのと同じ、機能 21 を実行する方法を使用できますが、この方法には一貫性がないことを認識しておく必要があります。サーバー、既存のコンソール・タイプ、ターゲットのコンソール・タイプ、システム負荷、およびその他の要因により、一部の状況においては、システムが新しいコンソール・タイプを使用できない場合があります。このような状況では、あるコンソール・タイプから別のコンソール・タイプへの切り替えを完了させるには、IPL が必要です。

LPAR 環境で IOP を共有している場合、1 つの区画と別の区画との間でリソースの割り振り解除と割り振りを行います (ハードウェアがこの方法をサポートする場合)。

---

## ネットワーク上のローカル・コンソールの管理

これらの説明は、ネットワーク上でローカル・コンソールを構成した場合にのみ適用されます。次のトピックを使用して、保守ネットワーク接続を管理する際に役立ててください。

### 保守ツール装置の ID パスワードの変更に関する考慮事項

保守ツール装置のパスワードを変更する場合、これらの考慮事項を使用します。

### PC およびサーバー上で、保守ツール装置の ID パスワードを変更

これらの説明を使用して、PC およびサーバー上で、保守ツール装置の ID パスワードを変更します。

### アクセス・パスワードの変更

これらの説明を使用して、アクセス・パスワードを変更します。

### PC と保守ツール装置 ID のパスワードの再同期

これらの説明を使用して、PC と保守ツール装置の ID パスワードの同期を再度取ります。

### サーバー上での保守ツール装置の ID の作成

これらの説明を使用して、サーバー上で保守ツール装置の ID を作成します。

### 保守ホスト名の構成

これらの説明を使用して、保守ホスト名を構成します。

### オペレーション・コンソールによる LAN カード使用の非活動化

これらの説明を使用して、オペレーション・コンソールによる LAN カード使用を非活動化します。

### オペレーション・コンソール (LAN) のネットワーク値の変更

これらの説明を使用して、オペレーション・コンソール (LAN) のネットワーク値を変更します。

## 保守ツール装置の ID パスワードの変更に関する考慮事項

保守ツール装置の ID パスワードを変更する前に、次の考慮事項を検討します。

- PC 上の保守ツール装置の ID パスワードは、サーバー上の保守ツール装置の ID パスワードと同一にする必要があります。
- オペレーション・コンソールは、保守ツール装置の ID パスワードを「**アクセス・パスワード (Access Password)**」ウィンドウの「**次へ**」をクリックしたとき、暗号化します。
- 新しいローカル・コンソールをネットワーク構成上で作成していて (まだ接続していない)、**「アクセス・パスワード (Access Password)」**ウィンドウの後に「**取り消し (Cancel)**」をクリックすると、同一の保守ツール装置の ID を使用して、構成を再作成することができます。



- ネットワーク構成上で以前にこのローカル・コンソールを使用して正常に接続していた場合は、保守ツール装置の ID パスワードを PC およびサーバー上でリセットする必要があります。これを行うには、「PC と保守ツール装置 ID のパスワードの再同期」を参照してください。
- ネットワーク構成上でローカル・コンソールを変更している場合、保守ツール装置の ID パスワードは「保守装置の ID の指定 (Specify Service Device ID)」ウィンドウで唯一の編集可能なフィールドです。
- オペレーション・コンソールは、正常接続時それぞれにおいて、保守ツール装置の ID パスワードを変更して再度暗号化します。
- ネットワーク構成上でローカル・コンソールを削除した場合は、ネットワーク構成上で新しいローカル・コンソールのプロファイルを再度使用する前に、保守ツール装置の ID パスワードをサーバー上でリセットする必要があります。これにより、新しい構成の作成時に、リセットされた保守ツール装置の ID 名を使用できます。装置プロファイルのパスワードのリセットについては、『PC と保守ツール装置 ID のパスワードの再同期』を参照してください。

保守ツール装置の ID パスワードの変更が必要な場合は、『PC およびサーバー上で、保守ツール装置の ID パスワードを変更』を参照してください。

## PC およびサーバー上で、保守ツール装置の ID パスワードを変更

保守ツール装置の ID パスワードが PC とサーバー間で非同期になった場合を除き、このパスワードを変更する利点は現在のところありません。非同期になった場合、トピック『PC と保守ツール装置 ID のパスワードの再同期』を使用して、両方を再度同じにします。このパスワードは実際、正常接続時それぞれにおいて変更されるため、同期を取る場合を除き、手動によるパスワードの変更は推奨されません。

## アクセス・パスワードの変更

ネットワーク構成上で新しいローカル・コンソールの作成中、またはネットワーク構成上で既存のローカル・コンソールの変更中に、いつでも保守ツール装置の ID 情報にアクセスするためのパスワードを変更できます。論理区画で作業している場合、対応する区画に対しこのパスワードを変更できます。

**注:** このパスワードは大文字小文字の区別があり、大文字小文字混合で最大 128 文字を指定できます。このパスワードを覚えておくことは重要です。後の接続プロセス中に、「サービス装置サインオン」ウィンドウにサインオンする際に、このパスワードを使用します。

アクセス・パスワードを変更するには、次の方法のうち 1 つを使用します。

接続プロパティを使用してアクセス・パスワードを変更するには、次のステップに従います。

1. アクセス・パスワードを変更する接続名を選択します。
2. 「接続」 → 「プロパティ」とクリックします。
3. 「アクセス・パスワード (Access Password)」タブを選択します。
4. 「現行のパスワード (Current Password)」に、アクセス・パスワードとして現在使用中のものを入力します。

5. 新しいパスワードを「**新規パスワード (New Password)**」および「**パスワードの確認 (Confirm password)**」フィールドに入力し、「**OK**」をクリックします。

構成ウィザードを使用してアクセス・パスワードを変更するには、次のステップに従います。

**注:** 「プロパティ」を使用した、論理区画のリモート・コントロール・パネル用アクセス・パスワードの変更は、現在サポートされていません。構成ウィザードを使用してパスワードを変更する必要があります。

1. アクセス・パスワードを変更する接続名を選択します。
2. 「**接続**」 → 「**接続の構成 (Configure Connection)**」 とクリックします。
3. 「**次へ**」をクリックし、「**アクセス・パスワード (Access Password)**」ウィンドウが表示されるまで、それぞれのウィンドウでデフォルトのデータの使用を続けます。
4. チェック・ボックス「**アクセス・パスワードの変更 (Change the access password)**」をクリックします。
5. 「**現行のパスワード (Current Password)**」に、アクセス・パスワードとして現在使用中のものを入力します。
6. 新しいパスワードを「**新規パスワード (New Password)**」および「**パスワードの確認 (Confirm password)**」フィールドに入力し、「**次へ**」をクリックします。
7. 残りのウィンドウでデフォルトのデータの使用を続け、最後のウィンドウで「**終了**」をクリックして、新しいデータを保管します。

## PC と保守ツール装置 ID のパスワードの再同期

サーバーとオペレーション・コンソール PC との間で保守ツール装置 ID のパスワードのミスマッチが起こった場合、PC とサーバーの両方でリカバリー・ステップを実行してパスワードを再同期する必要があります。

**注:** 専用保守ツール (DST) にアクセスし、保守ツール装置を使用してリセットを実行する必要があります。すでにコンソール装置がある場合は、それを使用することができます。それ以外の場合は、以下のような別のコンソールを一時的に接続する必要があります。

- 使用可能な場合、ネットワーク (LAN) 上で異なるローカル・コンソールを使用。
- 未使用の緊急保守ツール装置の ID を使用して、ネットワーク (LAN) 上で同一のローカル・コンソールを再構成する。
- サーバーに直接接続するオペレーション・コンソール・ローカル・コンソールを使用 (オペレーション・コンソールのケーブルが使用可能な場合)。
- 平衡型接続のコンソールを使用。

### サーバー上で保守ツール装置の ID パスワードをリセット

再度同期を取るためのタスクを完了させるには、サーバー上で保守ツール装置の ID パスワードをリセットする必要があります。

### PC 上で保守ツール装置の ID パスワードをリセット

再度同期を取るためのタスクを完了させるには、PC 上で保守ツール装置の ID パスワードをリセットする必要があります。

### サーバー上で保守ツール装置の ID パスワードをリセット

サーバー上で保守ツール装置の ID パスワードをリセットするには、次のうち 1 つを実行します。

- 別の装置を使用してコンソール・セッションを取得できる場合は、次のうち 1 つを実行します。

- 保守ツール装置の ID パスワードをリセットします。これにより、保守ツール装置の ID パスワードは保守ツール装置の ID 名 (大文字) になります。保守ツール装置の ID をリセットするには、次のステップを実行します。

1. 専用保守ツール (DST) にアクセスします。
2. DST メイン・メニューから、次のようにします。
  - a. 「**DST 環境の処理**」を選択します。
  - b. 「**保守ツール装置 ID (Service tools device IDs)**」を選択します。
3. リセットする保守ツール装置の ID の前に「2」と入力し、**Enter** を押します。
4. **Enter** を再度押してリセットを確認します。

**注:** DST でパスワードをリセットすると、保守ツール装置の ID パスワードは保守ツール装置の ID 名 (大文字) になります。装置名以外のパスワードを使用する場合、現在の保守ツール装置の ID を削除して、お望みのパスワードを使用して新しい ID を作成する必要があります。

- 保守ツール装置の ID と保守ツール装置の ID パスワードを同一にしない場合は、保守ツール装置の ID を削除して、お望みのパスワードを使用して新しい保守ツール装置の ID を作成します。これを行うには、DST メイン・メニューから次のステップを実行します。

1. 「**DST 環境の処理**」を選択します。
2. 「**保守ツール装置 ID (Service tools device IDs)**」を選択します。
3. 削除する保守ツール装置の ID の前に「3」と入力し、**Enter** を押します。
4. **Enter** を再度押して削除を確認します。
5. オプション「1」を使用すると、新しい保守ツール装置の ID が作成され、お望みのパスワードが割り当てられます。

- システムにサインオンするための装置が他には存在しないのに、未使用の保守ツール装置の ID が存在する場合は、PC で次を実行します。

1. 次のように、現在の構成を削除します。
  - a. 構成名を選択します (「iSeries 接続 (iSeries connection)」下から)。
  - b. 「**接続**」メニューから「**削除**」をクリックします。
  - c. 「**はい**」をクリックして削除を確認します。
2. 構成中に、新しい構成を作成し、未使用の保守ツール装置の ID を使用します。
3. 上記の方法の 1 つを使用して、接続後に失敗した保守ツール装置の ID をリセットします。

- 別の保守ツール装置または保守ツール装置の ID を使用してサインオンできず、QCONSOLE 保守ツール装置の ID を使用している場合、次のステップに従って制御パネルから保守ツール装置の ID パスワードをリセットします。

1. システムを手動モードにします。キースティックのないシステムでは、「機能 / データ (Function/Data)」画面に「01 B」が表示されます。

**注:** キースティックのあるシステムでは、「機能 / データ (Function/Data)」画面に「手動 (Manual)」モードおよび「01 B」が表示されます。

2. 次の方法のうち 1 つを使用して、次のような区画タイプに応じて、保守ツール装置の ID、QCONSOLE をリセットします。

– 独立システムまたは 1 次区画の場合は、次のステップに従います。

- a. 制御パネルから「上 (Up)」または「下 (Down)」ボタンを使用して「機能 / データ (Function/Data)」画面に「25」が表示されるようにします。その後、「実行 (Enter)」ボタンを押します。「機能 / データ (Function/Data)」画面には、「25 00」が表示されるはずですが。
- b. 「上 (Up)」ボタンを一回使用して、データを「26」に増分します。その後、「実行 (Enter)」ボタンを押します。システムはたいいていの場合、「機能 / データ (Function/Data)」画面に「01 B」を表示します。

**注:** システムが「65 FF」を表示する場合は、ステップ a および b を再度繰り返します。

- c. 「上 (Down)」ボタンを使用して、データを「65」に減分し、「実行 (Enter)」ボタンを押します。システムは、「65 00」を表示します。機能の処理後、システムは「D1008065」を表示します。このステップを繰り返し、65 を 7 回入力します。このタスクを完了するために使用できる時間は 5 分です。7 回目の 65 が入力されたときに、5 分より長い時間が経過していた場合、リセットは完了せず、カウントはゼロに戻ります。

– 2 次区画の場合は、1 次区画のコンソールを使用して、次のステップに従います。

- a. 専用保守ツール (DST) にアクセスします。
- b. 「システム区画の処理」を選択します。
- c. 「区画状況の処理」を選択します。
- d. リセットする区画に使用する行に「65」と入力し、Enter を押します。
- e. このステップを繰り返し、65 を 7 回入力します。このタスクを完了するために使用できる時間は 5 分です。7 回目の 65 が入力されたときに、5 分より長い時間が経過していた場合、リセットは完了せず、カウントはゼロに戻ります。

3. 次の情報を使用して、リセットの進行状況と正常に完了したかを判別します。

**注:** システムで、新しい 2 行の「機能 / データ (Function/Data)」画面の制御パネルを使用する場合、結果 (D1008065) を表示するには、機能 11 を実行する必要がある場合があります。画面に D1008065 と表示されない場合は、機能 11 を実行する前に、最初の機能 65 の完了に少なくとも 15 秒みてください。

2 行表示の制御パネルには、次のようにデータが表示されます。

```
XXXXXXXXXXXXXXXXXX  
XXXXXXXXXXXXXXXXXX
```

ワードはそれぞれ 8 文字ですが、ワード 12 ~ 19 までは 4 ワード一度に表示されます。たとえば、ワード 12 を要求すると次のように表示されます。

```
word__12word__13  
word__14word__15
```

ワード 13 を要求すると次のように表示されます。

```
word__16word__17  
word__18word__19
```

1 行表示の制御パネルには、次のようにデータが表示されます。

```
XXXXXXXXXX
```

ワードはそれぞれ 8 文字のみで、個別に表示されます。ワード 17 を表示するには、機能 17 を要求する必要があります。

**重要:** プロセスのどの部分を行っているかを認識するために、次の情報が提供されます。

- SRC D1008065 のワード 17 には、機能 65 を実行した回数が含まれます。カウントが 7 になると、保守ツール装置の ID パスワードのリセットが行われます。その後、ワード 18 は 00000000 に設定されます。
- 機能 65 を 7 回入力するまで、ワード 18 には 00000001 が表示されます。リセットが完了すると、経過した時間が 5 分以内の場合は、このワードは 00000000 に設定されます。

『PC 上で保守ツール装置の ID パスワードをリセット』に進みます。

## PC 上で保守ツール装置の ID パスワードをリセット

次のうち 1 つを実行して、PC 上で保守ツール装置の ID パスワードをリセットします。

- 構成を削除して再作成するには、次のステップに従います。
  1. 接続中の場合は、次のようにして切断します。
    - a. 構成名を選択します (「iSeries 接続 (iSeries connection)」の下から)。これは、オペレーション・コンソールが特定のシステムを参照する際に使用する名前です。
    - b. 「**接続**」メニューから「**切断 (Disconnect)**」をクリックします。接続状況に「**切断中 (Disconnecting)**」が表示されます。
    - c. 状況に「ローカル・コンソールに未接続 (Not connected to local console)」または「**切断 (Disconnected)**」が表示されるまで待ちます。
  2. 次のように、構成を削除します。
    - a. 削除する構成名を選択します (「iSeries 接続 (iSeries Connection)」下から)。
    - b. 「**接続**」メニューから「**削除**」をクリックします。
    - c. 「はい」をクリックして削除を確認します。
  3. 以前にリセットした保守ツール装置の ID パスワードまたは新しい保守ツール装置の ID を使用して、構成を再作成します。

- 同一の保守ツール装置の ID のパスワードを変更またはリセットするには、次のステップの 1 つに従います。
  - 接続プロパティを使用して保守ツール装置の ID パスワードを変更またはリセットするには、次のステップに従います。
    1. 変更する接続名を選択し、「接続」→「プロパティ」をクリックします。
    2. 「装置 ID (Device ID)」タブを選択します。
    3. 該当するパスワードを「パスワード (Password)」および「パスワードの確認 (Confirm password)」フィールドに入力し、「OK」をクリックします。
    4. 「アクセス・パスワード (Access Password)」ウィンドウが表示されます。現在のアクセス・パスワードを入力し、「OK」をクリックします。
  - 接続ウィザードを使用して保守ツール装置の ID パスワードを変更またはリセットするには、次のステップに従います。
    1. 変更する接続名を選択し、「接続」→「接続の構成 (Configure Connection)」とクリックします。
    2. 各ウィンドウの値を受け入れ、「保守装置の ID の指定 (Specify Service Device ID)」ウィンドウが表示されるまで、ウィザードを継続します。
    3. 該当するパスワードを「パスワード (Password)」および「パスワードの確認 (Confirm password)」フィールドに入力し、「次へ」をクリックします。
    4. 「アクセス・パスワード (Access Password)」ウィンドウが表示されます。現在のアクセス・パスワードを入力し、「OK」をクリックします。
    5. 最後のウィンドウまでウィザードを継続し、「完了」をクリックしてデータを再度書き込み、ウィザードを終了します。

## サーバー上での保守ツール装置の ID の作成

ネットワーク構成上のローカル・コンソールについては、サーバー上で保守ツール装置の ID をセットアップする必要があります。

1. 専用保守ツール (DST) にアクセスします。
2. 「DST 環境の処理」を選択します。
3. 「保守ツール装置 ID (Service tools device IDs)」を選択します。
4. オプション 1 を使用して新しい保守ツール装置の ID を作成し、最初のブランクの名前フィールドに新しい保守ツール装置の ID 名を入力します。Enter を押します。
5. 保守ツール装置の ID パスワードを入力します。確認のために再度入力します。記述を入力することもできます。

**注:** 保守ツール装置の ID パスワードは大文字小文字の区別があります。

Enter を押します。保守ツール装置の ID の作成が終了しました。

6. 保守ツール装置の ID をさらに作成するには、ステップ 4 からステップを繰り返します。
7. 保守ツール装置の ID の作成が終了したら、**F3** を押します。

**注:**

1. 保守ツール装置の ID をリセットする必要がある場合、パスワードは保守ツール装置の ID 名 (大文字) になります。
2. サーバーに論理区画が存在する場合、またはコンソールに接続されている PC が複数存在する場合、保守ツール装置の ID をいくつか作成する必要があります。
3. PC とサーバー間でパスワードの再同期を取る必要がある場合など、保守ツール装置の ID パスワードの変更が必要なことがあります。サーバーとオペレーション・コンソール PC との間で保守ツール装置 ID のパスワードのミスマッチが起こった場合、PC とサーバーの両方でリカバリー・ステップを実行してパスワードを再同期する必要があります。詳細は、『PC と保守ツール装置 ID のパスワードの再同期』を参照してください。保守ツールの概念に関する詳細は、『保守ツール』を参照してください。

## 保守ホスト名の構成

iSeries 保守ホスト名は、ネットワーク (LAN) 構成上のオペレーション・コンソール・ローカル・コンソールなどの保守ツールに使用されるネットワーク上の iSeries 保守接続を識別する名前です。これは、システム管理者またはネットワーク管理者が割り当てます。ネットワーク接続を使用してコンソールまたはリモート・コントロール・パネルに接続しているときに、保守ホスト名が必要になります。この機能を追加する理由の 1 つは、論理区画に分割されているサーバーにおいて、1 次区画にネットワークに接続されていないコンソールが存在する可能性がある場合でも、2 次区画のリモート・コントロール・パネルが使用されるからです。論理区画のデータは 1 次区画から送信されるので、保守ホスト名が必要になります。

保守ホスト名を作成する方法は 2 つあります。

- 1 つ目は、注文した、ネットワーク (LAN) 構成上にオペレーション・コンソール・ローカル・コンソールを持つシステムの製造過程で作成する方法です。LAN アダプターがインストールされ、正しいコンソール・タイプが指定されます。その後、ユーザーがシステムを入手する際に、保守ホスト名を含むカスタマー・ネットワーク・パラメーターがオペレーション・コンソール構成ウィザードと共に提供されます。初期接続時に、このデータによってネットワークのサーバー構成が完了します。
- 2 つ目は、既存のコンソールを使用して保守ホスト名を作成する方法です。この方法は、古いコンソールを切断する前の、マイグレーションまたはアップグレード中に使用することができます。次の手順を使用すると、iSeries 保守接続を検証または作成することができます。構成している区画の専用保守ツール (DST) から保守ホスト名を見つけ、「保守ツール・アダプターの構成 (Configure Service Tools Adapter)」画面を使用します。DST に定義されている既存の保守ホスト名と同じ名前を PC で入力します。保守ホスト名を見つけるには、次のようにします。

**注:** この作業を完了させるために、コンソール・タイプを一時的に変更する必要がある場合があります。たとえば、1 次区画で平衡型を使用しているが、1 つ以上の論理区画にリモート・コントロール・パネル機能が必要な場合です。

保守ホスト名を作成するには、次のようにします。

1. 専用保守ツール (DST) にアクセスします。

2. 「**DST 環境の処理**」を選択します。
3. 「**システム装置 (System devices)**」を選択します。
4. 「**コンソール・モード (Console Mode)**」を選択します。
5. 「**オペレーション・コンソール (LAN) (Operations Console (LAN))**」を選択します。これで、「オペレーション・コンソール・アダプターの検査 (Verify Operations Console Adapters)」が表示されるはずですが。
6. **F11** を押して、構成します。
7. 「保守ホスト名 (service host name)」フィールドに名前が挿入されます。新しい保守接続を作成する場合は、次のステップに従います。
  - a. 該当するフィールドにネットワーク・データを入力します。
  - b. **F7** キーを押して、構成を保管します。
  - c. **F14** キーを押して、LAN アダプターを活動化します。
  - d. **F3** または **F13** を使用して、終了します。
  - e. コンソール・タイプを、現在使用中のコンソールからネットワーク構成上のオペレーション・コンソール・ローカル・コンソールに変更する必要がある場合、そのときの選択項目がコンソールとして残る場合は、元のコンソール・タイプを再度選択します。

詳細は、『保守ツール』を参照してください。

## オペレーション・コンソールによる LAN カード使用の非活動化または LAN カードの移動

マイグレーション中は、オペレーション・コンソールによる LAN カード使用を非活動化する必要がある場合があります。ネットワーク構成上で、オペレーション・コンソール・ローカル・コンソールを使用する予定がない場合は、LAN カードを非活動化する必要があります。LAN カードを非活動化すると、そのカードを移動して別の目的に使用することができます。また、ネットワーク (LAN) 上のオペレーション・コンソール・ローカル・コンソール以外のコンソール・タイプを使用する必要もあります。使用しないと、次のステップにおいてコンソールが切断されます。次のステップに従って、ネットワーク (LAN) 上のオペレーション・コンソール・ローカル・コンソールに現在関連付けられている LAN アダプターを非活動化します。

1. 専用保守ツール (DST) にアクセスします。
2. 「**DST 環境の処理**」を選択します。
3. 「**システム装置 (System devices)**」を選択します。
4. 「**コンソール・モード (Console mode)**」を選択します。
5. 「**オペレーション・コンソール (LAN) (Operations Console (LAN))**」を選択します。現在使用中の LAN アダプターが表示されます。
6. **F11** を押します。
7. **F6** を押して、消去します。
8. **F7** を押して、新しい値を保管します。
9. コンソールにこのリソースを使用していない場合は、**F13** を押してアダプターを非活動化します。次の IPL 実行時に、別のコンソール・タイプまたはリソースを使用するよう要求されます。



10. **F12** を押して、このウィンドウを終了します。  
「システム装置の処理 (**Work with System Devices**)」ウィンドウに戻ります。
11. 「コンソール・モード (**Console mode**)」を選択します。
12. 現在使用中のコンソール・タイプを選択します。

**重要:** コンソール・タイプをオペレーション・コンソール (LAN) 以外のものにしてください。そうしないと、次回の IPL 時にアダプターが再度割り振られます。

## オペレーション・コンソール (LAN) のネットワーク値の変更

新しい IP アドレスや新しいアダプター・カードなど、オペレーション・コンソール (LAN) に使用されるネットワーク・アダプターに変更を加える必要がある場合は、次の手順を実行します。

1. 専用保守ツール (DST) にアクセスします。
2. 「**DST 環境の処理**」を選択します。
3. 「システム装置 (**System Devices**)」を選択します。
4. 「コンソール・モード (**Console mode**)」を選択します。
5. 「オペレーション・コンソール (LAN) (**Operations Console (LAN)**)」を選択します。現在使用中の LAN アダプターが表示されます。
6. **F11** を押します。
7. 変更を行うには、次のいずれかの方法を使用します。
  - IP アドレスなどの簡単な変更を行う場合は、新しい値を入力して、ステップ 8 に進みます。
  - アダプター・カードの変更を行う場合は、**F6** を押して、消去を行います。ステップ 8 に進みます。
8. **F7** を押して、新しい値を保管します。
9. DST のメインメニューが表示されるまで **F3** を押して、メニューを表示します。
10. サーバー上の保守ツール装置 ID パスワードをリセットします。これを行うには、次のステップを実行します。
  - a. 「**DST 環境の処理**」を選択します。
  - b. 「**保守ツール装置 ID (Service tools device IDs)**」を選択します。
  - c. リセットする保守ツール装置 ID の前に「**2**」と入力し、**Enter** を押します。
  - d. **Enter** を再度押してリセットを確認します。

**注:** DST でパスワードをリセットすると、装置 ID のパスワードは装置の ID 名 (大文字) になります。装置名以外のパスワードを使用する場合は、現在の装置 ID を削除して、希望するパスワードで新規の ID を作成する必要があります。

- e. DST のメインメニューが表示されるまで **F3** を押して、メニューを表示します。

ここで、サーバー上で初期プログラム・ロード (IPL) を完了して、新しいネットワーク・データを有効にする必要があります。ネットワーク・アダプターのネットワーク IP アドレスを変更する場合は、次のステップを実行して PC クライアントを変更します。

1. 古い構成を削除することをお勧めします。これを行うには、次のステップを実行します。
  - a. 構成名を (「iSeries 接続 (iSeries Connection)」の下から) 選択します。これは、オペレーション・コンソールが特定の iSeries サーバーを参照するために使用する名前です。
  - b. 「接続」メニューから「切断 (**Disconnect**)」をクリックします。接続状況に「切断中 (**Disconnecting**)」が表示されます。
  - c. 状況が「切断中 (**Disconnected**)」になるまで待ちます。
  - d. 構成名を (「iSeries 接続 (iSeries Connection)」の下から) 選択します。
  - e. 「接続」メニューから「削除」をクリックします。
  - f. 「はい」をクリックして削除を確認します。
2. 変更する構成に関連付けられたネットワーク・データを PC から消去するために、オペレーション・コンソールをクローズしてから再オープンします。
3. 次のステップを使用して、新しい構成を作成します。
  - a. 「接続」メニューから「新しい構成 (**New configuration**)」を選択します。
  - b. 構成を続行し、適切な時点で新規の IP データを入力します。
  - c. 新しい構成の残りの部分を完了させます。

これで、PC クライアントの接続準備が完了します。システム上ですでに IPL が実行されたことがある場合は、これによって、新しいネットワーク・データまたはアダプターを使用しての再接続の準備が完了します。

---

## 第 6 章 オペレーション・コンソール接続に関するトラブルシューティング

オペレーション・コンソールの構成中に問題が発生する可能性があります。構成の初期セットアップと管理中に発生する、共通の問題に対する解決策を一部記載します。

### 状況メッセージのトラブルシューティング

このトピックでは、接続のトラブルシューティングに役立つ状況メッセージを記載します。

### 接続に関する問題のトラブルシューティング

このトピックでは、オペレーション・コンソールの接続中に発生する接続の問題に対する解決策を記載します。

### 認証に関する問題のトラブルシューティング

このトピックでは、オペレーション・コンソールの接続中に発生する認証の問題に対する解決策を記載します。

### エミュレーターに関する問題のトラブルシューティング

このトピックでは、オペレーション・コンソールの接続中に発生する場合があるエミュレーターの問題に対する解決策を記載します。

### システム参照コード (SRC) データに関するトラブルシューティング

このトピックでは、サーバーで受信する SRC データに対する解決策を記載します。

### リモート・コントロール・パネルまたは仮想制御パネルに関する問題のトラブルシューティング

このトピックでは、オペレーション・コンソールの接続中に発生する制御パネルの問題に対する解決策を記載します。

### 構成ウィザードに関する問題のトラブルシューティング

このトピックでは、オペレーション・コンソール構成ウィザードを完了させる間に発生する問題に対する解決策を記載します。

### オペレーション・コンソールに関するその他の問題のトラブルシューティング

このトピックでは、オペレーション・コンソールの接続中に発生するその他の問題に対する解決策を記載します。

---

## 状況メッセージのトラブルシューティング

コンソールの接続中に接続に関する問題が発生した場合、オペレーション・コンソールは状況メッセージを表示して、接続のトラブルシューティングを支援します。状況メッセージは、接続の問題があるかどうかを示します。状況メッセージは、「iSeries オペレーション・コンソール (iSeries Operations Console)」ウィンドウの接続の詳細部分にある「状況 (Status)」の下に表示されます。

接続のトラブルシューティングを開始する前に、以下を行なってください。

- 最新の Service Pack が iSeries Access for Windows に適用されていることを確認してください。
- リモート・コンソールからローカル・コンソールへの接続を許可する場合は、ローカル・コンソールとリモート・コンソールで同一の Service Pack が適用されていることを確認してください。

接続に関する問題がある場合は、次の状況メッセージを検討します。

**構成が正常に実行されている場合の状況メッセージ**  
接続に関する問題がないことを示す状況メッセージ。

**接続に関する問題がある場合の状況メッセージ**  
接続に関する問題があることを示す状況メッセージ。

## 構成が正常に実行されている場合の状況メッセージ

接続に関する問題があるかどうかを特定する際に、以下の状況メッセージが役に立ちます。

次の状況メッセージは、接続に関する問題がないことを示します。

### 接続中 (Connecting)

これはローカル・コンソールへの初期接続実行中に、リモート・コンソールに表示されます。

### コンソールに接続中またはリモート・コントロール・パネルに接続中 (Connecting console or Connecting remote control panel)

この状況メッセージは、コンソールによる iSeries サーバーへの初期接続実行中に表示される通常の状況メッセージです。この状況メッセージが 2、3 分以上表示される場合は、接続の問題を示す状況メッセージのリストの「コンソールに接続中 (Connecting console)」を参照してください。

### 許可の保留 (Pending authorization)

これは、iSeries サーバーへの初期接続実行中に「サービス装置サインオン」ウィンドウが表示された場合に表示されます。この状況は、最初のユーザー (ローカル・コンソールまたはリモート・コンソールのいずれか) が正常にサインオンするまでこのままです。ユーザーが正常にサインオンすると、ローカル・コンソールがサーバーに接続し続けている限り、サインオン・ウィンドウとこの状況は他のダイヤルイン・ユーザーに対しては表示されません。ネットワーク (LAN) 上のローカル・コンソールでは、最初に接続する際に常に「サービス装置サインオン」ウィンドウが表示されます。同じサーバーに対する以後の接続では、ユーザーへの再プロンプトはありません。

### 接続 (Connected)

これは、iSeries サーバーへの初期接続が完了 (ユーザーがオペレーション・コンソールに正常にサインオンする) すると、ローカル・コンソールに表示されます。この状況は、ローカル・コンソールへの接続が完了したときにリモート・コンソールにも表示されます。

### **切断中 (Disconnecting)**

これは、ローカル・コンソールのユーザーが iSeries サーバーから切断され、PC が接続を切断しているときに、ローカル・コンソールに表示されます。この状況は、リモート・コンソールのユーザーがローカル・コンソールから切断され、PC が接続を切断しているときに、リモート・コンソールで表示されます。

### **切断 (Disconnected)**

これは、ローカル・コンソールのユーザーが iSeries サーバーから切断され、PC がサーバーと通信しなくなると、ローカル・コンソールに表示されます。

### **ローカル・コンソールに未接続 (Not connected to local console)**

これは、PC が ローカル・コンソールに接続していないときにリモート・コンソールに表示されます。

受信した状況メッセージがリストされていない場合は、『接続に関する問題がある場合の状況メッセージ』を参照してください。

## **接続に関する問題がある場合の状況メッセージ**

接続に関する問題があるかどうかを特定する際に、以下の状況メッセージが役に立ちます。

次の状況メッセージは、接続に関する問題があることを示します。

### **リモート・コントロール・パネルが使用不可 (Remote Control Panel unavailable)**

これは、iSeries サーバーへの初期接続中に表示されます。リモート・コントロール・パネル・ケーブルと接続に問題があるときに表示されます。接続を再試行しないようにしてください。考えられる解決策を見つけるには、『リモート・コントロール・パネルが開始に失敗する』を参照してください。

### **リモート・コントロール・パネルに接続中 (Connecting remote control panel)**

これは、初期接続中に接続が失敗したとき、または初期接続後に作動が停止したときに表示されます。リモート・コントロール・パネルのケーブルが切断されたことが考えられます。考えられる解決策を見つけるには、『接続に関する問題のトラブルシューティング』を参照してください。問題が解決されれば、この状況は消えます。

### **コンソールに接続中 (Connecting console)**

これは、コンソールが iSeries サーバーへの初期接続実行中に表示される通常の状況メッセージです。この状況メッセージが 2、3 分以上表示される場合は、接続に障害があります。この状況メッセージはまた、最初に接続してから、おそらくケーブルの切断が原因で、接続が停止したときに表示されます。考えられる解決策を見つけるには、『接続に関する問題のトラブルシューティング』を参照してください。

### **コンソールに接続中またはリモート・コントロール・パネルに接続中 (Connecting console or Connecting remote control panel)**

これは、おそらくオペレーション・コンソールのケーブルとリモート・コント

ローカル・パネルのケーブルが切断されたことが原因で、コンソールおよびリモート・コントロール・パネルの接続が失敗または作動停止した場合に表示されます。考えられる解決策を見つけるには、『接続に関する問題のトラブルシューティング』を参照してください。問題が解決されれば、この状況は消えます。

#### **コンソールが使用不可 (Console unavailable)**

これは、iSeries サーバーへの初期接続中に問題があるときに表示されます。接続を再試行しないようにしてください。これは通常、AS400 オペレーション・コンソールの接続モデムは使用できないが、オペレーション・コンソールのケーブルは接続されているときに表示されます。AS400 オペレーション・コンソールの接続モデムは物理モデムではなく、オペレーション・コンソールと共に出荷される論理装置ドライバーであり、ローカル・コンソールのサーバーへの接続を可能にするものです。考えられる解決策を見つけるには、『接続に関する問題のトラブルシューティング』を参照してください。

#### **コンソールが使用不可 / リモート・コントロール・パネルが使用不可 (Console unavailable / Remote Control Panel unavailable)**

これは、iSeries サーバーへの初期接続中に問題があるときに表示されます。コンソールおよびリモート・コントロール・パネルの接続を再試行しないようにしてください。これは、おそらく AS/400 オペレーション・コンソールの接続モデムが使用できないか、コンソールのケーブルが切断されていることが原因で、コンソール接続の問題が生じていることを示すものです。AS400 オペレーション・コンソールの接続モデムは物理モデムではなく、オペレーション・コンソールと共に出荷される論理装置ドライバーであり、ローカル・コンソールのサーバーへの接続を可能にするものです。また、リモート・コントロール・パネルのケーブルが切断していることが原因と考えられる、リモート・コントロール・パネル接続の問題が生じていることを示すものでもあります。考えられる解決策を見つけるには、『ローカル・コンソールがケーブルを検出しない』および『リモート・コントロール・パネルが開始に失敗する』を参照してください。

**注:** 不在モードで開始するようにローカル・コンソールを構成した場合、ローカル・コンソールに制御権はなく、通常どおりに切断することはできません。

#### **コンソールに接続中 / リモート・コントロール・パネルが使用不可 (Connecting console / Remote control panel unavailable)**

これは、おそらくコンソールのケーブルが切断されたことが原因で、コンソールの接続が失敗または作動停止した場合に表示されます。また、リモート・コントロール・パネルの接続に問題があることを示すものでもあります。接続を再試行しないようにしてください。リモート・コントロール・パネルのケーブルが切断したことが考えられます。考えられる解決策を見つけるには、『ローカル・コンソールがケーブルを検出しない』および『リモート・コントロール・パネルが開始に失敗する』を参照してください。

#### **コンソールが使用不可 / リモート・コントロール・パネルに接続中 (Console unavailable / Connecting remote control panel)**

これは、おそらくリモート・コントロール・パネルのケーブルが切断されたこ

とが原因で、リモート・コントロール・パネルの接続が失敗または作動停止した場合に表示されます。また、コンソールの接続に問題があることを示すものでもあります。接続を再試行しないようにしてください。コンソールのケーブルが切断したことが考えられます。考えられる解決策を見つけるには、『ローカル・コンソールがケーブルを検出しない』および『リモート・コントロール・パネルが開始に失敗する』を参照してください。

受信した状況メッセージがここにリストされていない場合は、『構成が正常に実行されている場合の状況メッセージ』を参照してください。

---

## 接続に関する問題のトラブルシューティング

初期接続をセットアップするときに、オペレーション・コンソール構成の接続に関する問題が発生する場合があります。接続に関する問題には、次のものがあります。

### ローカル・コンソールの接続に関する問題

ローカル・コンソールの構成中に発生した接続に関する問題のトラブルシューティング解決策

### リモート・コンソールの接続に関する問題

リモート・コンソールの構成中に発生した接続に関する問題のトラブルシューティング解決策。

## ローカル・コンソールの接続に関する問題

ローカル・コンソールのセットアップ時に、接続の問題が発生する場合があります。接続できないと、結果として、**接続されない状況の問題**として定義され、エミュレーターが開始されません。状況が**接続**に変わり、エミュレーターが開始することは可能ですが、コンソール・データは存在しません。この場合は、『エミュレーターに関する問題のトラブルシューティング』を参照してください。考えられるトラブルシューティング解決策は次のとおりです。

### コンソールが接続に失敗する

ローカル・コンソールが iSeries サーバーとの接続に失敗した場合に発生する問題の解決策。

### ネットワーク接続エラー

ローカル・コンソールがネットワークを介して iSeries サーバーとの接続に失敗した場合に発生する問題の解決策。

### エラー・メッセージ: システムへの接続がセキュアな接続ではない (The connection to the system is not a secure connection)

ローカル・コンソールがセキュアな接続に失敗した場合に発生する問題の解決策。

### ローカル・コンソールまたはリモート・コンソールの状況が接続中のままである

ハードウェア構成またはソフトウェア構成が正しくないために、ローカル・コンソールがサーバーに接続できないまたはリモート・コンソールがローカル・コンソールに接続できないという問題に対する解決策。

### Windows Me が接続を 20 分ごとに除去する

Windows Me を使用しており、アクティビティがない場合に接続が 20 分経過すると除去されるときへの解決策。

### コンソールが接続に失敗し、ポートの検出に失敗する

コンソールが接続に失敗し、ポートの検出に失敗する場合の解決策。

### ローカル・コンソールにおけるパフォーマンスの低下

通信ポートが、バッファに入れられた UART (汎用非同期送受信器、シリアル・ポート・チップ) を実行していない場合のパフォーマンス低下の理由。

### 赤外線装置がインストール済みの場合に接続を確立できない

赤外線装置を使用する場合に、PC で発生する接続に関する問題の解決策。

### 予期しない切断

PC、またはローカル・コンソールあるいはリモート・コンソール (あるいはその両方) に電源管理機能がある場合の解決策。

### ハイパーターミナルを使用した、クライアントとサーバー間の接続の妥当性検査

さまざまなソースとの接続にハイパーターミナルを使用する場合の解決策。

## コンソールが接続に失敗する

状況によっては、直接接続のコンソールが接続に失敗することがあります。これは、例外の発生など、何らかの理由でサーバーの通信アダプターが非活動化された結果、起こる場合があります。たいていの場合、これは IPL 中に発生し、アテンション・ライトがと共に、関連するシステム参照コード (SRC) が制御パネルに表示される場合があります。機能「65」、続いて機能「66」を制御パネルまたはリモート・コントロール・パネルで実行することで、通信回線をリセットすることができます。通信アダプターをリセットするには、次のようにします。

サーバーの通信回線を非活動化するには、次のようにします。

1. システムが手動モードでない場合、または拡張機能が活動化されていない場合、あるいはその両方の場合は、次のステップに従います。
  - a. サーバーがキースティックを使用する場合、まずキースティックをキー・スロットに挿入します。
  - b. システムの制御パネルを使用して、サーバーを手動モードにします。
  - c. 「上 (Up)」および「下 (Down)」ボタンを使用して、機能「25」を選択します。
  - d. 「実行 (Enter)」ボタンを押します。
  - e. 「上 (Up)」ボタンを使用して、機能「26」を選択します。
  - f. 「実行 (Enter)」ボタンを押します。
2. 「下 (Down)」ボタンを使用して、機能「65」を選択します。
3. 「実行 (Enter)」ボタンを押します。

非活動化が正常に実行された場合、「機能 / データ (Function/Data)」ウィンドウに「D1008065」が表示されます。



サーバーの通信回線を活動化するには、次のようにします。

1. 「下 (Down)」 ボタンを使用して、機能「66」を選択します。
2. 「実行 (Enter)」 ボタンを押します。

システムは、回線を初期化しようとしています。初期化が正常に実行された場合、「機能 / データ (Function/Data)」 ウィンドウに「D1008066」が表示されます。回線を初期化できなかった場合は、「D1008065」が表示されます。予期される参照コードが数分以内に表示されない場合は『機能呼び出しの後に、D1008065 および D1008066 の自動表示が失敗する』を参照してください。

## ネットワーク接続エラー

これらは、ローカル・コンソールがネットワークを介してサーバーとの接続に失敗した場合に発生する問題の解決策です。

次の考えられる解決策を試してください。

- ネットワークが作動していることを確認する。
- 構成ウィザード実行時に、サーバーが保守装置情報にアクセスするための正しいパスワードを指定したことを確認する。また、保守ツールの正しいユーザー ID およびパスワードを指定したことを確認する。
- ネットワークにイーサネットを使用している場合は、クロスケーブルを使用し、PC を一時的にアダプター・カードに直接接続することができます。これにより、正しい操作を妨害する可能性があるネットワーク上の潜在的な問題から、PC およびサーバーが分離されます。

**注:** クロスケーブルは標準的なネットワーク・ケーブルですが、送信と受信のシグナル・ワイヤーが逆になっています。これにより事実上、それぞれの末端はハブ、スイッチ、またはルーターがその末端の間に存在するかのよう機能します。

## エラー・メッセージ: システムへの接続がセキュアな接続ではない (The connection to the system is not a secure connection)

エラー・メッセージ: システムへの接続がセキュアな接続ではない (The connection to the system is not a secure connection) を受信する場合があります。リモート・コントロール・パネルが構成済みである場合にも、このメッセージの前に、「リモート・コントロール・パネルの <接続名> への接続が失敗。再試行しますか。(Remote control panel connection to <your connection name --> failed. Do you want to try again?)」というメッセージが発行される場合があります。このメッセージは、保守ツール装置の ID パスワードが PC とサーバー間で非同期であることを示します。『PC と保守ツール装置 ID のパスワードの再同期』を参照してください。

**重要:** これらのメッセージが表示される適切な場合は、D モードでの (インストーラ) IPL 中です。この IPL のタイプでは、認証は実行されず、リモート・コントロール・パネル (LAN) はサポートされません。

## ローカル・コンソールまたはリモート・コンソールの状況が接続中のままである

これらは、ハードウェア構成またはソフトウェア構成が正しくないために、ローカル・コンソールがサーバーに接続できない、またはリモート・コンソールがローカル・コンソールに接続できないという問題に対する解決策です。

- PC のリソースに、アドレスまたは割り込み要求 (IRQ) の矛盾がないことを確認してください。オペレーション・コンソールは、192.168.0.0 から 192.168.0.255 の範囲のアドレスを使用します。PC を SOCKS 対応にするソフトウェアを実行している場合、SOCKS 構成を検査して、項目が次のようになっていることを確認してください。

Direct 192.168.0.0 255.255.255.0 **SOCKS 対応 PC** は、Microsoft Proxy Client、Hummingbird SOCKS Client などのファイアウォールを介して、インターネットにアクセスします。

- iSeries サーバー名およびローカル・コンソール名が正しいことを確認してください。
- ネットワークにイーサネットを使用している場合は、クロスケーブルを使用して、PC を一時的にアダプター・カードに直接接続することができます。これにより、正しい操作を妨害する可能性があるネットワーク上の潜在的な問題から、PC およびサーバーが分離されます。

**注:** クロスケーブルは標準的なネットワーク・ケーブルですが、送信と受信のシグナル・ワイヤーが逆になっています。これにより事実上、それぞれの末端はハブ、スイッチ、またはルーターがその末端の間に存在するかのよう機能します。

- リモート・アクセスが許可されているサーバーに直接接続するローカル・コンソールで Windows NT を実行している場合、次のことを確認してください。
  - ローカル・コンソールで呼び出しを受信するモデムの構成が「**ダイヤルアウトのみ**」に設定されていないことを確認してください。
  - リモート・アクセス・サービスのインストール後に、Microsoft Service Pack 6 (以降) をインストールしたことを確認してください。

## Windows Me が接続を 20 分ごとに除去する

Microsoft は、Windows Me に、他のオペレーティング・システムには存在しない新しい一連のオプションを追加しました。Windows Me は、オペレーション・コンソールのデータ転送をアクティビティーとは見なしません。Windows Me には、アクティビティーがない場合、20 分後に接続を除去するオプションがあります。この問題を修正するには、次の説明に従います。

**注:** 「ダイヤルアップ ネットワーク」で接続オブジェクトが作成されるには、構成が存在し、少なくとも一回正常に接続を確立している必要があります。

1. 「**スタート**」をクリックします。
2. 「**設定**」をクリックします。
3. 「**コントロール パネル**」をクリックします。
4. 「**ダイヤルアップ ネットワーク**」をクリックします。
5. 「**接続**」アイコンを右クリックし、「**プロパティ**」を選択します。
6. 「**ダイヤリング**」タブを選択します。

7. 「アイドル切断を使用する」および「接続が不要な場合に切断する」のチェックを外します。
8. 新しいオプションを有効するために、PC を再起動します。

### コンソールが接続に失敗し、ポートの検出に失敗する

コンソールが接続に失敗し、ポートの検出に失敗する場合、考えられる理由には次のようなものがあります。

- RealPlayer や RealJukebox がポートの検出と使用を妨げることがあります。
- 一部の PDA ドライバーやソフトウェアも接続やポートの検出を妨げる場合があります。

### ローカル・コンソールにおけるパフォーマンスの低下

たいていの場合、通信ポートがバッファーに入れられた UART (汎用非同期送受信器、シリアル・ポート・チップ) を実行していないことが、パフォーマンス低下の理由として考えられます。

オペレーティング・システムが Windows 98 の場合、次のことを実行できます。

1. 通信ポートの「**拡張**」設定を表示し、バッファーに入れられた UART を使用するようにチェック・マークがチェックされていることを確認します。しかし、これはほとんどの場合、チェックされています。「バッファーの受信 (Receive Buffer)」設定が一番右の設定値に設定されていないことを確認します。
2. チェック・ボックスのチェックを外します。
3. PC を再起動します。
4. 「**拡張**」設定に戻り、オプションを再度チェックします。
5. 再度 PC を再起動します。

これでも問題が解決せず、PC にはバッファーに入れられた UART が実際に存在しない可能性があると思われる場合は、PC とサーバー間の接続を減速することを IBM はお勧めします。オペレーティング・システムによっては、レジストリー、DUN オブジェクト、または電話帳の項目、あるいはこの 3 つすべてを変更する必要がある場合があります。

UART がバッファーに入れられていない場合の問題は、高速のために UART がデータでいっぱいになり、その結果パケットのデータが紛失し、30 秒ごとに再試行するようになることです。この問題は不特定に発生しますが、発生すると持続します。減速することにより、データのオーバーランが軽減されるため、30 秒ごとに再試行しなくてもよくなります。

### 赤外線装置がインストール済みの場合に接続を確立できない

接続に関する問題がある PC に赤外線装置が備わっている場合、場合によっては、これらの装置を使用できないようにする必要があります。これらの装置の大半は、**COM1** から作動しますが、関連するハードウェア・リソースを使用中であると表示されません。オペレーション・コンソールの構成中に実験を行い、問題を分離する必要がある場合があります。

### 予期しない切断

PC、またはローカル・コンソールあるいはリモート・コンソール (あるいはその両方) に電源管理機能がある場合、この機能を使用できないようにする必要があります。

す。大半の PC、特にラップトップでは、指定時間後に電源管理を起動したときに、通信ポートがリセットされます。このため、すでに確立された接続が切断される可能性があります。その結果、ローカル・コンソールがパワー・セーバー・モードになると、サーバーから切断し、活動状態のリモート・コンソールを切断する場合があります。

## ハイパーターミナルを使用した、クライアントとサーバー間の接続の妥当性検査

ハイパーターミナルは、さまざまなソースへの接続に使用される Windows アプリケーションであり、すべての Windows オペレーティング・システムのインストール・メディアで提供されます。しかし、自動的にインストールされない場合もあります。サーバーに直接接続するローカル・コンソールが接続できない場合、ハイパーターミナルを使用して、PC がサーバーと接続しているかを判別できます。

### 注:

1. データが表示されるには時間がかかるので、次のステップに進む前に、アクションが完了するのに 15 ~ 20 秒みるようにしてください。ステップによっては、ウィンドウにデータを表示しないものもあることも注意してください。少しの間待ってから、継続してください。
2. 次の例が Windows 2000 PC で実行されました。オプションの表示は、他のオペレーティング・システムでは多少異なる場合があります。このテストの重要な部分は、文書の終わりで NEGOTIATE から応答を得ることです。

次の説明を参考にして、ハイパーターミナルをインストールして使用します。

### ハイパーターミナルのインストール

PC でハイパーターミナルをインストールするための説明を参照できます。

### ハイパーターミナルの使用

ハイパーターミナルの使用に関する説明を記載しています。

**ハイパーターミナルのインストール:** ハイパーターミナルをインストールするには、次のようにします。

1. パスをクリックします。
  - 「スタート」->「プログラム」->「アクセサリ」->「ハイパーターミナル」
  - 「スタート」->「プログラム」->「アクセサリ」->「通信」->「ハイパーターミナル」

**注:** 定義済みの接続やフォルダーではなく、実行可能プログラムが必要です。

2. 見つからない場合は、次の説明を使用して、インストールします。
  - a. インストール・メディア (CD-ROM の場合) を CD-ROM ドライブに挿入し、プログラムが開始するのを待ちます。その後、ウィンドウをクローズします。プログラムが自動的に開始しないか、またはインストール・メディアが CD-ROM でない場合は、次のステップに進みます。
  - b. 「スタート」->「設定」->「コントロール パネル」をクリックします。
  - c. 「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックします。
  - d. オペレーティング・システムに基づき、次のうち 1 つをクリックします。
    - 「Windows セットアップ」タブ

- 「Windows NT セットアップ」タブ
- e. 「通信」を選択します。
- f. 「詳細」をクリックします。
- g. 「ハイパーターミナル」の前のボックスをクリックして、チェック・マークを付けます。
- h. 「OK」をクリックします。
- i. 「適用」をクリックします。
- j. 表示される指示に従います。古いファイルを新しいファイルに置き換えるウィンドウが表示された場合、「はい」をクリックして、より新しいファイルを保持します。

ハイパーターミナルを使用する準備ができたなら、『ハイパーターミナルの使用』のトピックを参照してください。

**ハイパーターミナルの使用:** ハイパーターミナルをインストール済みでない場合は、『ハイパーターミナルのインストール』のトピックを参照してください。ハイパーターミナルを使用するには、次のようにします。

1. パスをクリックします。
  - 「スタート」->「プログラム」->「アクセサリ」->「ハイパーターミナル」
  - 「スタート」->「プログラム」->「アクセサリ」->「通信」->「ハイパーターミナル」
2. 「接続」ウィンドウで、名前を入力してアイコンを選択し、「OK」をクリックします。
3. 新しい「接続」ウィンドウが表示されます。「次を使用して接続」の行の最後にある小さい矢印をクリックします。
4. コンソールに使用中の通信ポートを選択します。「COMn に直接」(n は 1 ～ 4) としてリストされている場合もあります。「OK」をクリックします。
5. 「COMn プロパティ」ウィンドウが表示されます。速度を「9600」に変更します。「OK」をクリックします。

**注:** 速度を 9600 に設定しないと、テキストが不鮮明になり、望む結果が得られません。

6. 「ハイパーターミナル」ウィンドウがオープンします。左下部で、状況は「接続」と報告され、時間が増分します。
7. 「データ」ウィンドウで、次の項目が表示される場合があります。
  - 「なし」
  - 「不鮮明」
  - 「+++ATH0」
8. 「切断」を実行します。
9. 「ファイル」->「プロパティ」と選択します。
10. 作成したばかりの接続の「プロパティ」が表示されているはずですが、「設定」タブを選択します。
11. 「ASCII セットアップ」ボタンをクリックします。

12. チェック・ボックスにチェック・マークが付くように、次の設定を変更します。
  - 「改行で終わる行を送信」
  - 「入力文字をローカルでエコーする」
  - 「着信行の終わりに改行を追加」
  - 「端末の幅より長い行を折り返す」
13. 「**OK**」をクリックします。「**OK**」をクリックします。
14. 「**接続**」を実行します。
15. サーバーの制御パネルで、機能「**65**」を入力します (サーバーを識別できる状態にする必要があります)。

注: 上位機能にアクセスするには、機能「**25**」および「**26**」を入力する必要があります。

16. 少したってから、サーバーの制御パネルに「D1008065」が表示される場合があります。また、「ハイパーターミナル」ウィンドウに、データが一部表示される場合もあります。
17. サーバーの制御パネルで、機能「**66**」を入力します。「D1008066」が表示される場合があります。この参照コードが表示されなくても、心配する必要はありません。また、「ハイパーターミナル」ウィンドウに、データが一部表示される場合もあります。
18. 大文字を使用して、「ハイパーターミナル」ウィンドウに「**NEGOTIATE 1**」と入力します。「**Enter**」を押します。「ハイパーターミナル」データ・ウィンドウに、「115200」と表示されます。

注: 何も戻されない場合は、「**NEGOTIATE 1**」を再度入力します。

速度が戻される場合は、データが双方向で交換され、接続は完全に確立しています。オペレーション・コンソールが接続できない場合は、クライアント側のセットアップに問題がある可能性が極めて高いです。

速度が戻されない場合は、クライアント PC に問題がある可能性が高いです。PC の電源を切ってから再び電源を入れ、テストを繰り返してください。または、再度コンソールを接続してください。サーバーの IPL が必要な場合が、まれにあります。最良の結果を得るには、次のことを順番に実行することをお勧めします。

- a. サーバーの電源を切ります。
- b. PC の電源を切ります。
- c. PC の電源を入れます。
- d. コンソールの接続を開始します。
- e. サーバーの電源を入れます。

上記のプロセスを実行しても接続に関する問題が解決しない場合は、サービス・プロバイダーに連絡してください。

## リモート・コンソールの接続に関する問題

リモート・コンソールのセットアップ時に、接続に関する問題が発生する場合があります。考えられるトラブルシューティング解決策は、次のとおりです。

### ダイヤルアップ使用のリモート・コンソールがローカル・コンソールへの接続に失敗する

リモート・コンソールのモデムがローカル・コンソールとの接続の確立に失敗したときに発生する問題に対する解決策。

### リモート・コンソールがローカル・コンソールに接続するときのローカル・コンソール名のミスマッチ

リモート・コンソールがローカル・コンソールに接続するとき起こりうるコンソール名のミスマッチの理由。

## ダイヤルアップ使用のリモート・コンソールがローカル・コンソールへの接続に失敗する

リモート・コンソールをサーバーに接続しているときに、リモート・コンソールの接続に関する問題が発生する場合があります。これらは、リモート・コンソールのモデムがローカル・コンソールとの接続の確立に失敗したときに発生する問題の解決策です。

- PC モデムが「**モデム (Modems)**」フォルダーで「**標準モデム (Standard Modem)**」オプションとしてリストされる場合は、別の製造会社とモデルで構成してください。
- 相手先商標製造会社 (OEM) モデムを使用する場合は、ご使用の OEM モデムが正しく構成されていない可能性があります。この場合は、同じようなモデムのセットアップを使用して構成してみてください。

詳細は、『**モデムの初期化および構成**』を参照してください。

## リモート・コンソールがローカル・コンソールに接続するときのローカル・コンソール名のミスマッチ

両方の末端において、ユーザーが「オペレーション・コンソール (Operation Console)」ウィンドウで「**ローカル・コンソール (Local Console)**」列をチェックすることが重要です。TCP/IP が名前に使用するものがそこに取り出され、置かれます。その後、リモート・コンソールが構成されるときに、ローカル・コンソール名がその名と同一であることを確認します。同一 PC で 2 つの異なるシステム名が存在する可能性があります。オペレーション・コンソールに使用する名は TCP/IP サービスの DNS 項目から取り出されます。

---

## 認証に関する問題のトラブルシューティング

初期接続をセットアップするときに、認証に関する問題が発生する場合があります。考えられる認証に関する問題は次のとおりです。

### 認証エラー

PC がローカル・コンソールとサーバー間の接続を確立できない場合の解決策。

**Windows 98/Me のリモート・コンソールを Windows 2000 に接続する場合の内部認証エラー**  
内部認証エラーの解決策。

**Windows NT Service Pack 6 での認証エラー**  
Windows NT における認証エラーの解決策。

## 認証エラー

ローカル・コンソールをサーバーに接続しているときに、ローカル・コンソールの接続に関する問題が発生する場合があります。これらは、オペレーション・コンソールがサーバーとローカル・コンソール (PC) 間での接続を確立できないときに発生するエラーの解決策です。エラーには、ソフトウェア構成上の問題と保守ツールのユーザー ID を認識できないという問題があります。

- 構成ウィザードの実行中に、有効な保守ツールのユーザー ID およびパスワードを入力していることを確認します。
- Windows NT を使用している場合は、次のようにします。
  - 最新の Windows NT Service Pack (最低限 Service Pack 6) をインストール済みであることを確認します。
  - リモート・アクセス・サービスのインストール後に、Windows NT Service Pack をインストール (または再インストール) したことを確認します。

セキュアな接続に関するエラー・メッセージを受信する場合があります。『エラー・メッセージ: システムへの接続がセキュアな接続ではない (The connection to the system is not a secure connection)』を参照してください。

## Windows 98/Me のリモート・コンソールを Windows 2000 に接続する場合の内部認証エラー

このエラーが発生する場合は、ローカル・コンソールで次の説明に従います。

1. 「着信接続のプロパティ」を表示します。
2. 「ユーザー」タブをクリックします。
3. オプション「すべてのユーザーがパスワードとデータを保護する必要がある (Require all users to secure their passwords and data)」をチェックします。リモート・コンソールがオフになるはずですが。
4. このオプションを変更した場合、Windows 2000 PC をリブートします。

また、リモート・コンソールが Windows 98/Me である場合、98/Me でローカル・コンソール接続が確立されていないことを確認します。接続は 1 つのみ活動状態にできます。

## Windows NT Service Pack 6 での認証エラー

ユーザーが「管理者」グループに存在しない場合、ソケット呼び出しが正しく機能しない場合があります。

ユーザーにローカル管理者権限がない場合に、Winsock 呼び出しが失敗する

詳細は、<http://www.microsoft.com>  を参照してください。



---

## エミュレーターに関する問題のトラブルシューティング

初期接続をセットアップするときに、エミュレーターに関する問題が発生する場合があります。考えられるエミュレーターに関する問題は次のとおりです。

### ローカル・コンソール・エミュレーターが切断状態になる

ローカル・コンソール・エミュレーター・データに関する解決策。

### PC5250 ウィンドウがユーザー・データを表示しない

PC5250 エミュレーターに関する問題の解決策。

エミュレーター・ウィンドウが開始せず、接続状況が「**接続 (Connected)**」でない場合、『ローカル・コンソールの接続に関する問題』のトピックを参照してください。

## ローカル・コンソール・エミュレーターが切断状態になる

この問題は、ほとんどの場合、ネットワーク上のローカル・コンソールに影響します。サーバーがネットワーク上のローカル・コンソールをサポートする場合、サーバーに直接接続するローカル・コンソールにも影響する可能性があります。原因として、他のユーザーがサーバーの制御権を持っていることが考えられます。ローカル・コンソールにサーバーの制御権があるかどうかを確認するには、エミュレーター・ウィンドウで次のことを実行してください。

1. 「**出現 (Appearance)**」 → 「**表示 (Show)**」 → 「**ステータス・バーの履歴 (Status bar history)**」とクリックします。
2. 最後の項目が「**切断 (Disconnected)**」である場合、制御権は他のユーザーにある場合があります。
3. この場合、後でサーバーに再度接続してください。

## PC5250 ウィンドウがユーザー・データを表示しない

これは、PC のシリアル接続用の UART がバッファーに入れられていないことが原因である可能性があります。画面データを提供するときに、データの packets サイズが大きくなるために、バッファーのオーバーランが発生し、再試行するのに 30 秒間待つこととなります。モデムの速度を減速する前に、サービス・プロバイダーに連絡してください。

---

## システム参照コード (SRC) データに関するトラブルシューティング

次のシステム参照コード (SRC) が戻された場合は、オペレーション・コンソールの構成に問題がある可能性があります。

システム参照コード **A6005001**、**A6005004**、**A6005007**、**B6005001**、**B6005004**、および **B6005007**

システム参照コード A6005001、A6005004、A6005007、B6005001、B6005004、および B6005007 に対する解決策。

システム参照コード **A6005008** および **B6005008**

システム参照コード A6005008 および B6005008 に対する解決策。

**システム参照コード A9002000**

システム参照コード A9002000 に対する解決策。

**システム参照コード A6005082**

システム参照コード A6005082 に対する解決策。

機能呼び出しの後に、**D1008065** および **D1008066** の自動表示が失敗する機能呼び出しの後の **D1008065** および **D1008066** の自動表示の失敗に対する解決策。

**IPL ステップ C6004031 が予想以上に時間がかかる**

V5R1 以降において、IPL ステップの **C6004031** が 45 分かかる場合の解決策。

## **システム参照コード A6005001、 A6005004、 A6005007、 B6005001、 B6005004、 および B6005007**

次の参照コードは、オペレーション・コンソール (直接接続) コンソールだけではなく、平衡型コンソールにも表示される場合があります。

**A6005001 および B6005001**

手動 IPL 中にコンソール・リソース (コントローラー) が見つかりませんでした。

**A6005004 および B6005004**

手動 IPL 中にコンソール装置が見つかりませんでした。平衡型コントローラーは見つかりましたが、使用されていない可能性があります。これは、コントローラーが存在することを示しているのみです。コントローラーに欠陥が存在する可能性があることを示してはいません。

**A6005007 および B6005007**

手動 IPL 中にコンソール装置が見つかりませんでした。この参照コードはハードウェアの存在を示しており、これは別のコンソール・タイプ (平衡型またはオペレーション・コンソール (直接) 以外) が見つかったことを示している場合があります。例として、すでにサポートされていない古い非同期コンソールなどがあります。これは、そのハードウェアに障害があることや、これが対象のコンソールであることを示してはいません。

コンソールが検出されて活動状態になったときに、アテンション・ライトだけでなくこれらの参照コードもリセットされます。モデル、存在するハードウェアなど多くの要因によって、長期間にわたってこれらの参照コードの 1 つが表示される場合、コンソール装置を再び見つけるには IPL の実行が必要な可能性があります。制御パネル、リモート・コントロール・パネル、または仮想制御パネルから機能 21 を実行することで、サーバーにコンソールを再度見つけるよう強制することができます。

## **システム参照コード A6005008 および B6005008**

システム参照コード A6005008 または B6005008 が戻された場合、この表を使用してください。IPL によってコンソールが見つからず、コンソール・タイプが 1 以外に設定されている場合、システムはコード A6005008 または B6005008 を表示します。

- 平衡型コンソールの使用を試行している場合、この SRC で関係するデータはワード 16 のみです。下の表を使用して平衡型の障害を判別してください。このワードの最初の 4 文字には、元の障害タイプの最後の 4 文字が含まれます。例えば、ワード 16 に 50010001 が含まれていた場合、平衡型関連の SRC コードは A6005001 であり、コンソール・タイプは平衡型コンソールを使用するよう設定されます。
- オペレーション・コンソールの使用を試行している場合は、下記の表から次のようにして適切なセクションを選択してください。
  - ネットワーク上のローカル・コンソールでは、ワード 13、14、および 15 を使用します。
  - サーバーに直接接続するローカル・コンソールでは、ワード 17、18、および 19 を使用します。

**注:** オペレーション・コンソールに関連する LAN アダプターを置き換えたばかりである場合、サーバーが新しい LAN アダプター・カードを見つけて使用するまでに、少なくとも 35 分待つ必要があります。この場合、サーバーは準備が整った後で新しいアダプターの使用を開始し、コンソールが開始して参照コードが表示されなくなります。

LAN			
ワード 13 の値	失敗	ワード 14 の意味	ワード 15 の意味
2	LAN IOA が報告に失敗した		
3	ハードウェア・エラー	エラー・コード	カードの位置
		ネットワークまたはケーブルこれ以外の場合、LAN IOA が操作可能でない	
4	BOOTP 状況: 試行がゼロの場合、呼び出し時に BOOTP は作動可能。試行に値がある場合、PC が反応しなかった。	試行	カードの位置
5	ホストの LAN 接続が活動状態 - 構成エラーの可能性 (ホストまたはクライアント)	IP アドレス (16 進数)	

ワード 16	最初の 4 文字は平衡型関連の SRC を表す 最後の 2 文字はコンソール・タイプの値を表す 00 = ユーザー定義ではない (古いデフォルト値) 01 = 平衡型 02 = オペレーション・コンソール (ケーブルまたはダイヤル) 03 = オペレーション・コンソール (LAN)
--------	--

<b>ケーブル</b>
-------------

ワード 17 の値	失敗	ワード 18 の意味	ワード 19 の意味
1	非同期カードが検出されない		
2	ケーブルが検出されない	カードの位置	
3	間違ったケーブルが検出された	カードの位置	ケーブル ID
4	使用中のポート	カードの位置	

## システム参照コード A9002000

システム参照コード A9002000 を受信する理由として考えられるものは、次のとおりです。

- システムがこの SRC コードを表示する場合、通常、コンソールが検出されなかったことを意味します。
- iSeries システム値 **QAUTOCFG** を **オン** に設定する必要があります。これがオフであると、OS/400 は新しいコンソール装置を作成できません。
- コンソールをあるタイプから別のタイプへマイグレーションした直後で、新しいコンソールが OS/400 上で作動しない場合、別のワークステーションを使用して、古いコンソール装置に関連付けられた制御装置記述および装置記述の手動での削除が必要となる場合があります。

## システム参照コード A6005082

システム参照コード A6005082 を受信する理由として考えられるものは、次のとおりです。

- システムがこの SRC コードを表示する場合は、通常、コンソールが検出され、その後サーバーからコンソールが失われたことを意味します。
- コンソールが再割り当てされ、サーバーがコンソールを検出できた場合は、SRC コードは表示されなくなります。この場合、サーバーで準備が整い、コンソールが検出されると、参照コードが表示されなくなります。
- コンソール・タイプはこの SRC コードには影響しません。

## 機能呼び出しの後に、D1008065 および D1008066 の自動表示が失敗する

2 行の「機能 / データ (Function/Data)」表示のモデルで作業している場合、機能呼び出した後、制御パネル (およびリモート・コントロール・パネル) が結果の SRC コードを自動的に表示しない場合があります。この場合、機能 65 または機能 66 が正常に終了したかどうかを判別するために、機能 11 を実行する必要があります。機能が正常に完了しなかった場合は、次のようにします。

1. 制御パネルまたはリモート・コントロール・パネルを使用して、「11」が表示されるまで、「上 (Up)」または「下 (Down)」ボタンを押します。
2. Enter を押します。

## IPL ステップ C6004031 が予想以上に時間がかかる

V5R1 で変更が行われ、ユーザーは処理装置 (最初のタワー) の任意の場所に 2771 (9771) を配置し、それをオペレーション・コンソール用に検出および使用できるようになりました。検出される、コンソールとして機能できる他のリソースやバスの走査にかかる時間にもよりますが、このアクティビティーによってこの IPL ステップで費やされる時間が増えます。

---

## リモート・コントロール・パネルおよび仮想制御パネルに関する問題のトラブルシューティング

初期接続をセットアップするときに、制御パネルへのアクセスに関する問題が発生する場合があります。制御パネルに関する問題には、次のものがあります。

### リモート・コントロール・パネルが開始に失敗する

リモート・コントロール・パネルのケーブルに関する問題の解決策。

### モード機能を使用できない

リモート・コントロール・パネルまたは仮想制御パネルでモード機能を使用できない場合の解決策。

## リモート・コントロール・パネルが開始に失敗する

リモート・コントロール・パネルが開始に失敗する場合、次のことを確認してください。

- ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。詳細は、『オペレーション・コンソール・ケーブルのインストール』を参照してください。
- PC のリソースに、アドレスまたは割り込み要求 (IRQ) の矛盾がないことを確認してください。オペレーション・コンソールは、192.168.0.0 から 192.168.0.255 の範囲のアドレスを使用します。PC を SOCKS 対応にするソフトウェアを実行している場合、SOCKS 構成を検査して、項目が次のようになっていることを確認してください。

```
Direct 192.168.0.0 255.255.255.0
```

SOCKS 対応 PC は、Microsoft Proxy Client、Hummingbird SOCKS Client などのファイアウォールを介して、インターネットにアクセスします。

## モード機能を使用できない

リモート・コントロール・パネルまたは仮想制御パネルでモード機能を使用できない場合、接続 (保守装置サインオン) を認証したユーザーが、接続した区画に対する区画リモート・パネル鍵特権を持っていないことを確認します。

1. 専用保守ツール (DST) にアクセスします。
2. 「**DST 環境の処理**」を選択します。
3. 「**保守ツールのユーザー・プロファイル (Service tools user profiles)**」を選択します。
4. 「**特権の変更 (Change privileges)**」(オプション 7) を選択します。

モード機能を使用するには、そのユーザーには区画ごとにこの特権が認可されている必要があります。また、システムでキースティックがサポートされている場合、モード機能が活動状態になる前に、キースティックを挿入する必要があります。

---

## 構成ウィザードに関する問題のトラブルシューティング

初期接続をセットアップするとき、構成ウィザードの実行中に問題が発生する場合があります。ウィザードに関する問題には、次のものがあります。

### ローカル・コンソールがケーブルを検出しない

ローカル・コンソールが、オペレーション・コンソールのケーブルまたはリモート・コントロール・パネルのケーブルの存在を検出しない場合の解決策。

### 古いネットワーク・データがネットワーク接続の再構成を妨げる

古いネットワーク・データがネットワーク接続の再構成を妨げる場合の解決策。

### 構成ウィザードにコンソール・オプションが提供されていない

構成ウィザードに構成オプションが提供されていない場合の解決策。

### 「RAS デバイスの追加」選択項目で正しいモデムが見つからない

Windows NT 構成の「RAS デバイスの追加」で正しいモデムが見つからない場合の解決策。

## ローカル・コンソールがケーブルを検出しない

これらは、ローカル・コンソールが、オペレーション・コンソールのケーブルまたはリモート・コントロール・パネルのケーブルの存在を検出しない場合に発生する問題の解決策です。通常は、「接続中 (Connecting)」または「使用不可 (Unavailable)」という状況メッセージが表示されます。

- ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。詳細は、『オペレーション・コンソール・ケーブルのインストール』を参照してください。
- コンソールについては、サーバーの通信アダプター・カードが正しく接続されていることを確認してください。
- オペレーション・コンソール・ケーブルとリモート・コントロール・パネル・ケーブルのパーツ番号が正しいことを確認してください。
- サーバーの状態として、コンソールが活動状態になっていることを確認してください。たとえば、手動の初期プログラム・ロード (IPL) の後は、コンソールは活

動状態です。IPL を実行した後で、システム参照コード (SRC) B6004031、B6004501、または B600500X (x は数字) が、サーバーが適切な状態であることを示します。

**注:** ポート 0 アドレス 0 または 1、あるいはポート 1 アドレス 0 または 1 を使用する、平衡型ワークステーション・コントローラーのディスプレイ装置は、すべて電源を切るか切断してください。

- PC のリソースに、アドレスまたは割り込み要求 (IRQ) の矛盾がないことを確認してください。オペレーション・コンソールは、192.168.0.0 から 192.168.0.255 の範囲のアドレスを使用します。PC を SOCKS 対応にするソフトウェアを実行している場合、SOCKS 構成を検査して、項目が次のようになっていることを確認してください。

Direct 192.168.0.0 255.255.255.0

SOCKS 対応 PC は、Microsoft Proxy Client、Hummingbird SOCKS Client などのファイアウォールを介して、インターネットにアクセスします。

- 必要なネットワーキング要件をすべて満たしていることを確認してください。ローカル・コンソールが LAN を使用してサーバーに接続する場合、PC およびサーバーでネットワークが活動状態にあり、適切に構成されているようにしてください。

## 古いネットワーク・データがネットワーク接続の再構成を妨げる

ネットワーク上のローカル・コンソールを構成しているときに、ユーザーが繰り返し古い (間違っている可能性がある) IP アドレスを渡されるが名前を変更しない限りそのシステムにアクセスできない場合、PC 上のホストファイルを編集する必要がある場合があります。そのファイルを編集し、問題となっている項目を除去する必要がある場合があります。

**注:** 新規の構成への接続を試行する前に、オペレーション・コンソールを閉じて再始動する必要があります。このアクションにより、あらゆる古い構成に関連付けられたすべてのキャッシュ値が除去されます。

## 構成ウィザードにコンソール・オプションが提供されていない

V4R5 より以前は、5250 エミュレーター (PC5250 または IBM パーソナル・コミュニケーションズ) をインストールする必要がありました。V4R5 から、リモート・コントロール・パネルのみを使用する場合には、エミュレーターが不要になりました。そのため、ウィザードでユーザーが機能 (コンソールまたはリモート・コントロール・パネル) を選択するウィンドウが表示されるときに、ウィザードのコードが有効なエミュレーターへのパスを見つけられない場合は、コンソール機能が使用できなくなります。これは、ユーザーが iSeries Access for Windows インストール・システムがパスを更新できないようにしたことを意味する場合があります (Windows 98/Me PC の場合のみ)。エミュレーター機能をインストールまたは再インストールするか、またはシステムのパス・ステートメントにエミュレーターへのパスを手動で追加してください。

## 「RAS デバイスの追加」選択項目で正しいモデムが見つからない

ユーザーは、Windows NT でリモート・コンソールやローカル・コンソールをセットアップすることができます。PC モデムが最近追加されたかまたは置き換えられま

したが、「RAS デバイスの追加」ウィンドウのリストでその項目が見つかりません。「RAS プロパティ」を調べると、同一の COM ポートに別の装置が表示されるはずですが、よくあるシナリオは次のようなものです。ネットワークのインストール・システムの一部であるリモート・アクセス・サービスのインストール中に、ユーザーはモデムが必要なリモート・アクセス・サービスのインストールを完了させるために、存在しないモデムを構成します。後のオペレーション・コンソールのセットアップ中に、AS400 オペレーション・コンソール接続モデムを追加する必要がありますが、これが表示されません。

**解決策:** そのウィンドウで新しいモデムを表示できるようにするには、現在のモデムを除去する必要があります。

同じように、ある構成タイプから別の構成タイプに切り替えている場合、初期ステップ中に、リモート・アクセス・サービスに対して提示が必要なモデムを判別する際に指示が出され、モデムを削除します。「モデム」フォルダーを終了したときに、メッセージ「インストール済みモデムのリストが変更されたため、ダイヤルアップ ネットワークを構成する必要があります。今これを構成しますか？」が表示されます。「はい」と答えるとその結果、リモート・アクセス・サービスとモデム・リストが非同期になります。この問題を修正するには、次のようにします。

1. リモート・アクセス・サービスを起動します。
2. 同一のモデムを除去します。
3. 「続行」をクリックします。
4. 該当するメッセージに応答し、リブートします。
5. リモート・アクセス・サービスに戻り、続けて指示に従い、以前に追加できなかったモデムを追加します。

---

## オペレーション・コンソールに関するその他の問題のトラブルシューティング

オペレーション・コンソールの使用時に、次のような問題が発生する可能性があります。

### オペレーション・コンソールが QCTL に残る

オペレーション・コンソールが CTL<sub>xx</sub> に残るべきであるが、QCTL に残る場合の解決策。

### ローカル・コンソールがメッセージ: リモート・アクセス・サービス・サーバーが開始しませんでした (Remote Access Service server did not start) を受信する

ローカル・コンソールがメッセージ「リモート・アクセス・サービス・サーバーが開始しませんでした (Remote Access Service Server did not start)」を受信する (Windows NT の場合のみ) 場合の解決策。

### システム要求が作動しない

システム要求が作動しない場合の解決策。



## オペレーション・コンソールが QCTL に残る

この問題は通常マイグレーション後に起こりますが、リソースを処理しているときにはいつでも起こる可能性があります。QCONSOLE が別のワークステーションに再割り当てされるはずの場合でも、QCTL に依然として残っています。**DEBUG** をオンにしてシステムの IPL を実行していなかったことを確認してください。開始した対話式サブシステム (存在する場合) が他に存在しないと、他のコンソールも存在しない可能性があるのでは都合です。SYSVAL **QIPLTYPE** を調べてください。0 になっているはずです。

## ローカル・コンソールがメッセージ: リモート・アクセス・サービス・サーバーが開始しませんでした (Remote Access Service server did not start) を受信する

ローカル・コンソールが呼び出しを受信するようにセットアップされているが、PC モデムがそれらの呼び出しを受信するように構成されていない場合、ローカル・コンソールは「リモート・アクセス・サービス・サーバーが開始しませんでした (Remote Access Service server did not start)」メッセージを表示します。この問題を修正するには、ローカル・コンソールを呼び出しを受信しないように構成するか、またはモデムを構成します (モデムが存在しない場合も)。しかし、2 番目の方法を採用する場合には注意が必要です。両方のシリアル・ポートがオペレーション・コンソールに割り当てられている場合、モデムは COM3 に常駐し、多くの PC がモデムを持たないこととなります。Windows NT Service Pack がインストール済みでない場合にも、このことが起こります。

## システム要求が作動しない

オペレーション・コンソールを使用する場合、**SYSREQ** は 5250 エミュレーションのデフォルトとして定義されている **Shift+ESC** と同等になります。**SYSREQ** とラベルが貼られている **Prt Screen** キーが備わっているキーボードのほとんどは、そのキーを **Ctrl** キーとともに使用して活動化されますが、Windows ではそのキーは予約されています。キーを変更するには、5250 ではなくオペレーティング・システムを使用して、キーボードを再マップする必要があります。



---

## 第 7 章 関連情報

IBM の関連情報では、技術情報、実用的知識、および手順や方法に関する情報を記載しています。

### マニュアル

#### iSeries Access for Windows Setup

このマニュアルを使用して、iSeries Access for Windows を iSeries サーバーと PC の両方でインストールおよび構成します。サーバーと PC の両方でインストールおよび構成が必要です。このマニュアルでは、システム管理者がサーバーをインストールおよび構成し、ユーザーが iSeries Access for Windows を PC にインストールすることが前提となっています。

#### Twiaxial Console

平衡型コンソールでは、コマンド行インターフェースを使用して iSeries へのアクセスおよび管理を行い、パーソナル・コンピューターをコンソールとして使用する必要はありません。iSeries には、コンソール画面、キーボード、および平衡型ケーブルを使用してアクセスします。

### Web サイト

#### iSeries Access Web サイト

この Web サイトでは、iSeries Access およびオペレーション・コンソールに関するオンライン製品情報を記載しています。

### Information Center に記載されているその他の情報

#### 制御パネル

システムを操作するには、制御パネルを直接操作するか、またはプログラムの API を使用します。制御パネルを使用して、システムをオンまたはオフにしたり、初期プログラム・ロードを実行したり、処理装置のアクティビティを判別することができます。

#### 論理区画

論理区画を使用することによって、単一の iSeries サーバー内でリソースを分配し、iSeries サーバーを複数の独立したサーバーのように稼働させることができます。

#### アップグレード

このトピックの情報を使用して、ハードウェア機構のアップグレード、異なる iSeries サーバー・モデルへのアップグレード、または OS/400 オペレーティング・システムのより新しいリリースへのアップグレードを行います。アップグレード中は、ソース・サーバーとターゲット・サーバーの製造番号は同じになります。

### **マイグレーション**

このトピックの情報を使用して、データのある iSeries サーバーまたは区画から別の iSeries サーバーまたは区画にマイグレーションします。データのマイグレーション時は、ソース・サーバーとターゲット・サーバーの製造番号は異なる必要があります。

### **ハードウェアおよびソフトウェアの計画**

サーバーを正常にセットアップし、使用するには、十分に計画を立てることが不可欠です。十分に計画を立てることにより、必要なものおよびすべての前提条件を満たすものを、すべて確実に用意することができます。このトピックの計画に関する情報は、サーバーの使用方法に応じて、サーバーの配置、必要な電源の計画、特別な配線やセットアップに関する説明の印刷、PC 要件への対処、および独自の構成の準備を行う際に役立ちます。

### **配線の説明**

サーバーの配線に関する説明は、印刷することができます。





Printed in Japan